

平成 24 年度

和歌山市市民意識調査結果報告書

平成 25 年 5 月

和 歌 山 市

目 次

I 調査の概要	01
1 調査の目的	01
2 調査対象と方法	01
3 調査項目	01
4 回収状況	01
5 回答者の属性	02
(1) 性別	02
(2) 年齢	02
(3) 職業	03
(4) 家族構成	04
(5) 居住地区	05
II 調査結果の集計及び分析（質問項目別）	06
問8 家族と対応を話し合うなど、災害に対する備えを行っていますか。	06
問9 火災警報器や消火器を備えるなど、日頃から防火を意識していますか。	07
問10 あなたご自身または同居の家族の方が、 この1年間に消費者トラブルに巻き込まれたことはありますか。	08
問11 身近に相談したり、助けてもらえる人がいますか。	09
問12 日頃市民公益活動（ボランティア活動やNPO活動など、 市民が自発的に行う公益的で非営利の活動）に参加していますか。	11
問13 ご自分で健康づくりに取り組んでいますか。	12
問14 高齢者が住み慣れた地域で充実した生活を送れていると思いますか。	13
問15 あなたの身の回りで人権が守られていると思いますか。	14
問16 あなたの身の回りで男女の地位が平等になっていると思いますか。	15
問17 観光客を受け入れる体制（観光案内や おもてなしの心など）が整っていると思いますか。	16
問18 日頃から省エネに取り組むなど環境保護を意識して行動していますか。	17
問19 日頃からごみの分別などの資源 リサイクルやごみの減量化に取り組んでいますか。	18
問20 日頃から趣味や関心のあるテーマに ついて、自主的に学習活動を行っていますか。	19
問21 日頃から芸術文化活動を行い、または鑑賞する機会を持っていますか。	20
問22 あなたは、各種災害からあなたの命や財産を 守るためには、どのようなことが大切だと思いますか。	21
問23 あなたは、火事や不慮の事故・病気による 被害を軽減するためには、どのようなことが大切だと思いますか。	25
問24 あなたは、犯罪や交通事故の被害にあわずに 地域で安心して暮らすためには、どのようなことが大切だと思いますか。	28

問25 あなたは、生涯を通じて健康に暮らすためには、どのようなことが大切だと思いますか。 30

問26 あなたは、高齢者や障害者が住みなれた地域で充実した生活を送るためには、どのようなことが大切だと思いますか。 33

問27 あなたは、子育て世代が安心して子育てするためには、どのようなことが大切だと思いますか。 36

問28 あなたは、和歌山市の産業が活性化するためには、どのようなことが大切だと思いますか。 39

問29 あなたは、和歌山市の中心市街地（JR和歌山駅・和歌山城・南海和歌山市駅にかけてのエリア）をもっと魅力的な空間にするためには、どのようなことが大切だと思いますか。 42

問30 あなたは、多くの人に和歌山市を訪れてもらうためには、どのようなことが大切だと思いますか。 45

問31 あなたは、市民の主体的なまちづくりやコミュニティ活動などを充実させるためには、どのようなことが大切だと思いますか。 48

問32 あなたは、より快適な交通体系を構築するためには、どのようなことが大切だと思いますか。 51

問33 あなたは、より利用しやすい鉄道やバスなどの公共交通体系を構築するためには、どのようなことが大切だと思いますか。 54

問34 あなたは、様々な環境問題に対応していくためには、どのようなことが大切だと思いますか。 57

問35 あなたは、学校教育を更に充実させるためには、どのようなことが大切だと思いますか。 60

問36 あなたは、文化やスポーツ活動を通して心豊かに暮らしていくためには、どのようなことが大切だと思いますか。 63

問37 趣味や関心のあるテーマについて自主的に学習活動をしようとするとき、どのような機会や方法を利用したいと思いますか。 66

問38 和歌山市の将来について、ご提案やご意見を自由にお書きください。 69

自由意見のうち主なもの 71

Ⅲ参考資料 和歌山市市民意識調査 調査票 76

【報告書の見方】

- 1 nは、各図表の比率を算出するための基数を示す。
- 2 複数回答の質問では、回答者数を基数（n）としているため、各図表の比率の合計が100%を超える場合がある。
- 3 本文及び各図表の中の数字は、四捨五入の関係から合計が100%にならない場合もある。
- 4 同じ質問に対する回答であっても、無回答及び記入誤りなどのため、性別、年齢別、職業別、家族構成別、居住地域別などクロス集計したものの基数〔n：表内項目名の後に（ ）書きしているもの〕が異なる場合がある。
- 5 本文及び各図表の中に、質問及び回答の選択肢の語句を簡略化しているものがある。

I 調査の概要

1 調査の目的

和歌山市では、平成21年度から25年度までを計画期間とする「第4次和歌山市長期総合計画前期基本計画」を策定し、よりよいまちづくりを目指し各種事業に取り組んできた。

現在、これに続く平成26年度から4年間の新たな「後期基本計画」策定のための準備を進めており、この調査は、市民の皆様の地域活動や生活環境、市政などについてのご意見やご要望などを調査し、「後期基本計画」の参考とするとともに、今後の市政に反映することを目的とするものである。

2 調査対象と方法

調査対象者・抽出方法は以下のとおりである。

調査対象者 和歌山市内在住の平成24年12月3日現在16歳以上の男女3,000人

抽出方法 無作為抽出（系統抽出法）

回答方法 無記名

調査期間 平成24年12月～平成25年1月（平成24年12月19日郵送し、平成25年1月15日までの投函を依頼した。）

3 調査項目

以下の項目について、調査を行った。

- ・回答者の属性（性別、年齢、職業、家族構成、居住地区など）（問1～7）
- ・回答者自身の状況や考え（災害への備え、市民公益活動への参加など）（問8～21）
- ・安心して、安全に暮らせるまちづくり（問22～24）
- ・個人を尊重し、人々がともに助け合う優しいまちづくり（問25～27）
- ・市民と地域がつくる元気なまちづくり（問28～31）
- ・自然環境と都市構造が調和した快適なまちづくり（問32～34）
- ・子どもが輝き、文化が薫る教育のまちづくり（問35～37）
- ・和歌山市の将来についての提案や意見（問38）

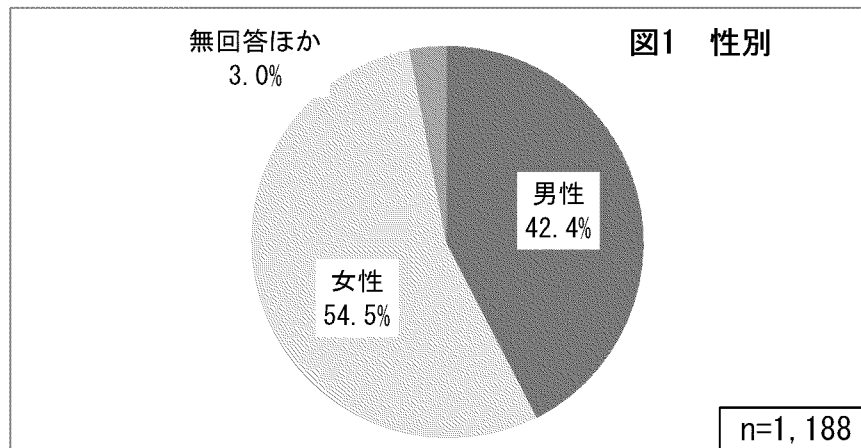
4 回収状況

郵送対象者数3,000人に対し、回収者数は1,190人、回収率は39.7%である。なお、白紙回答などの無効を除いた有効回答者数は、1,188人であった。

5 回答者の属性

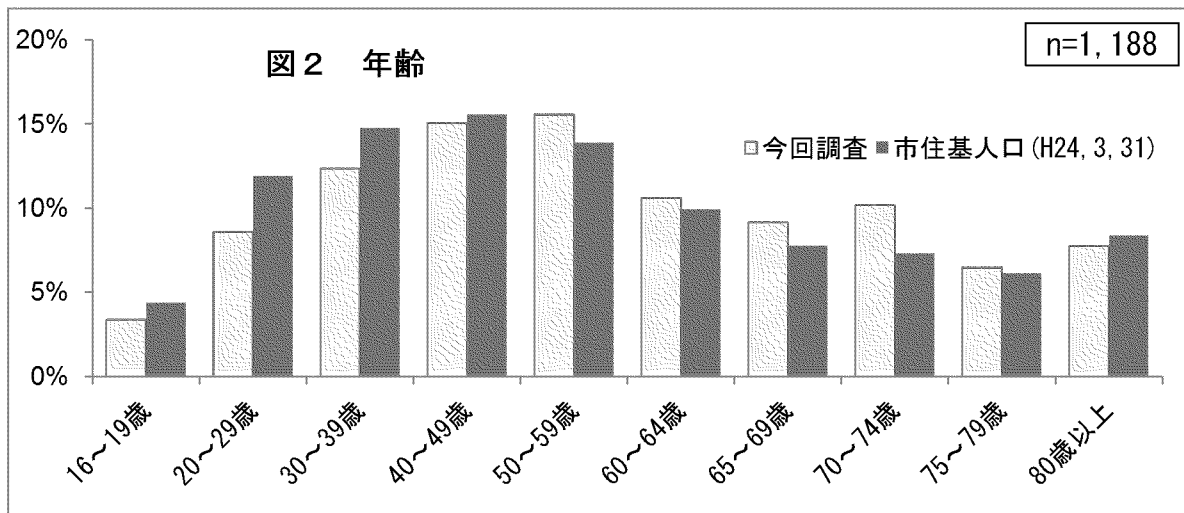
(1) 性別

回答者を男女別にみると、「男性」が42.4%、「女性」が54.5%と女性のほうが10%以上多くなっている。



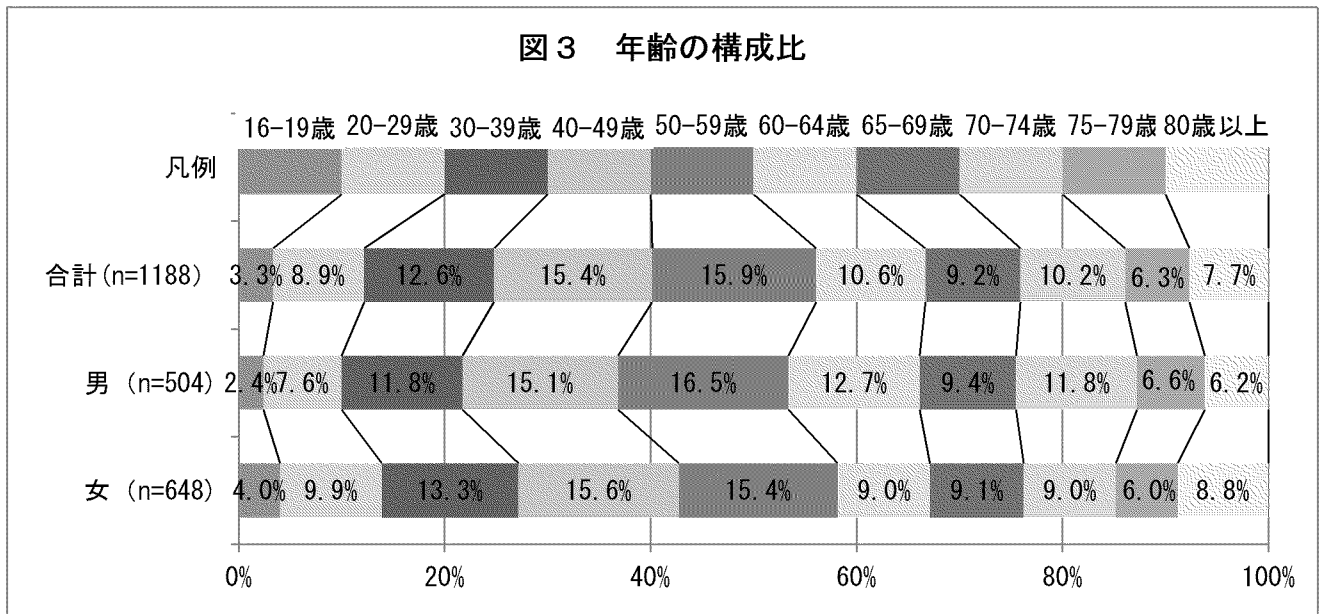
(2) 年齢

回答者全体の構成を住民基本台帳による人口（以下「市住基人口」という。）構成と比べてみると、ほぼ同様の傾向を示しているが、市住基人口の構成に比べ、今回調査の回答者の構成のほうが、40歳代以下の階級では低く、50歳代以上70歳代以下の階層では少し高い傾向がみられる。



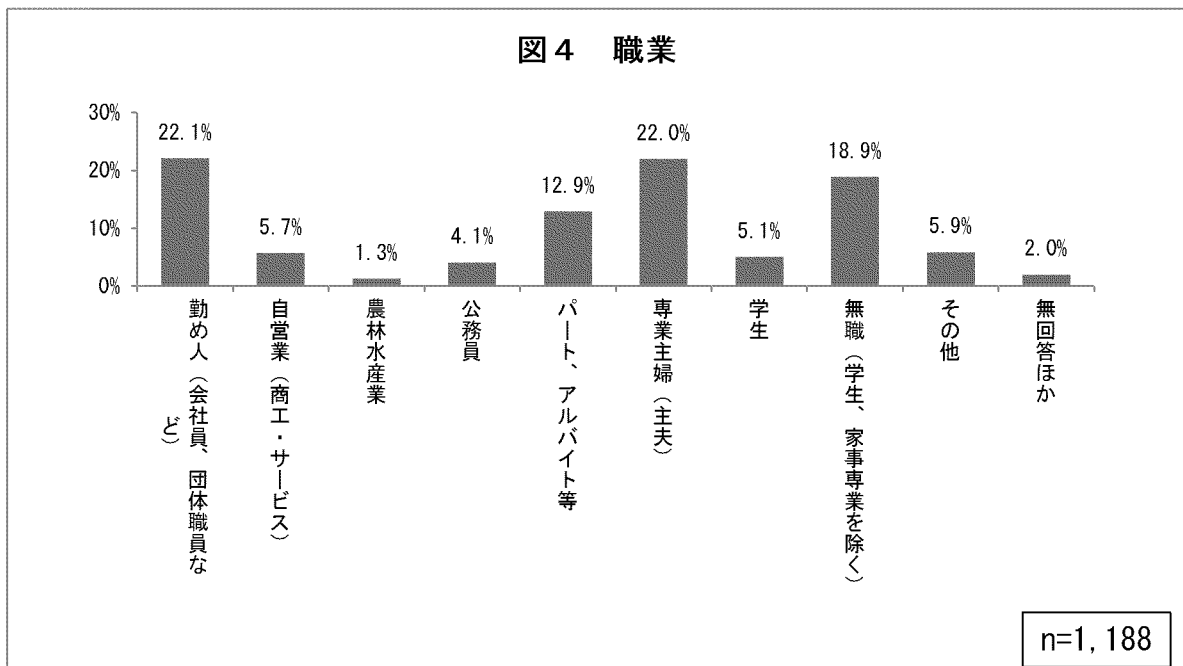
年齢別構成比をみると、50歳代が最も多く（15.9%）、次いで40歳代（15.4%）、30歳代（12.6%）となっている。

男女別でみると、30歳代以下では「女性」のほうが多く、40歳代ではほぼ同じ、50歳代60歳代では「男性」のほうが多くなっている。



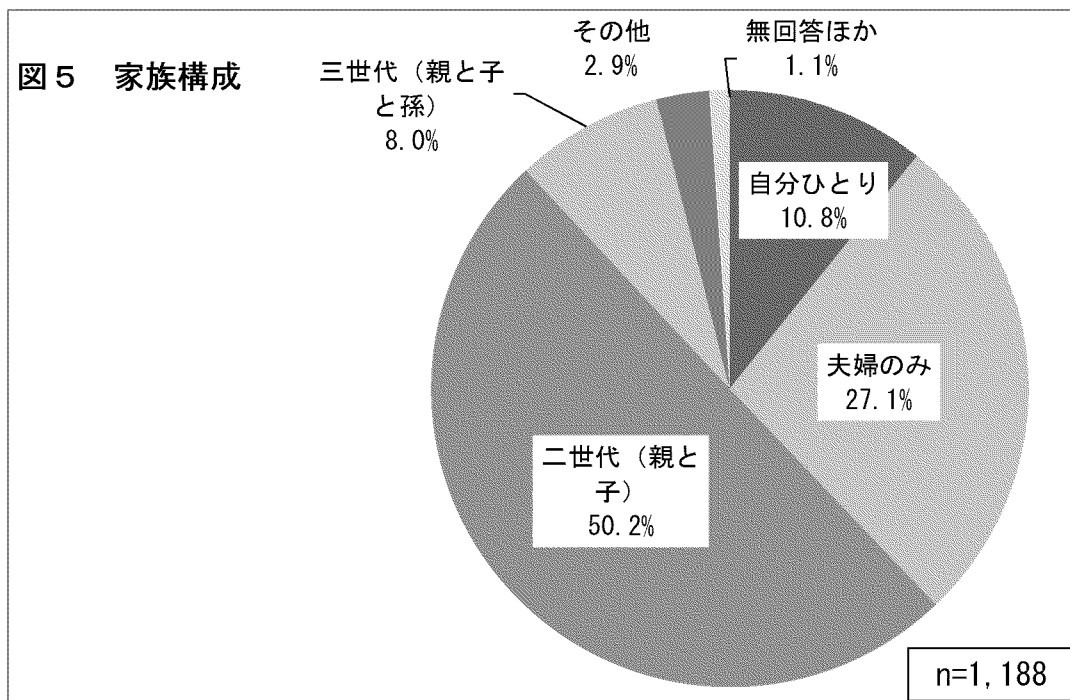
(3) 職業

職業別にみると、「勤め人（会社員、団体職員など）」が最も多く（22.1%）、次いで「専業主婦（主夫）」が（22.0%）、「無職」（18.9%）となっている。

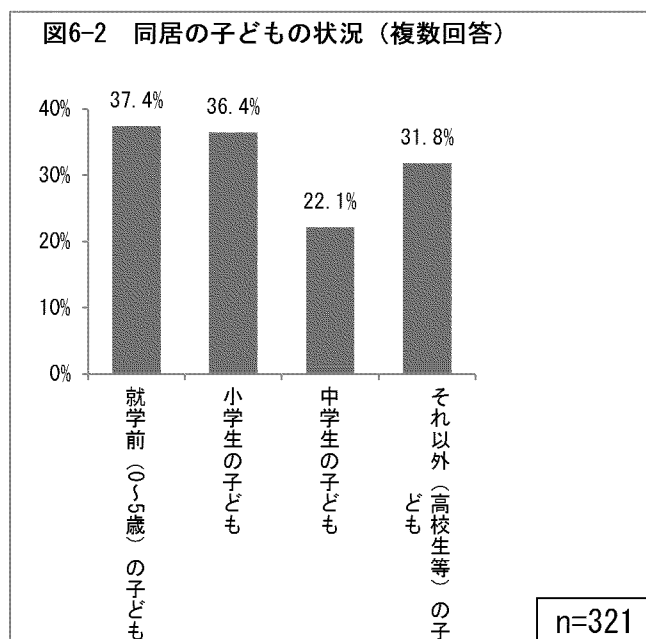
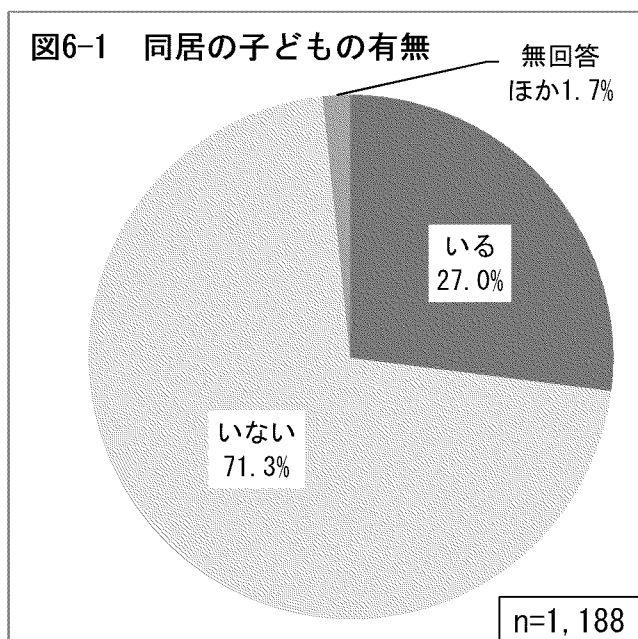


(4) 家族構成

家族構成は、「二世世代（親と子）」が過半数を占め（50.2%）、次いで「夫婦のみ」（27.1%）、「自分ひとり」（10.8%）となっている。

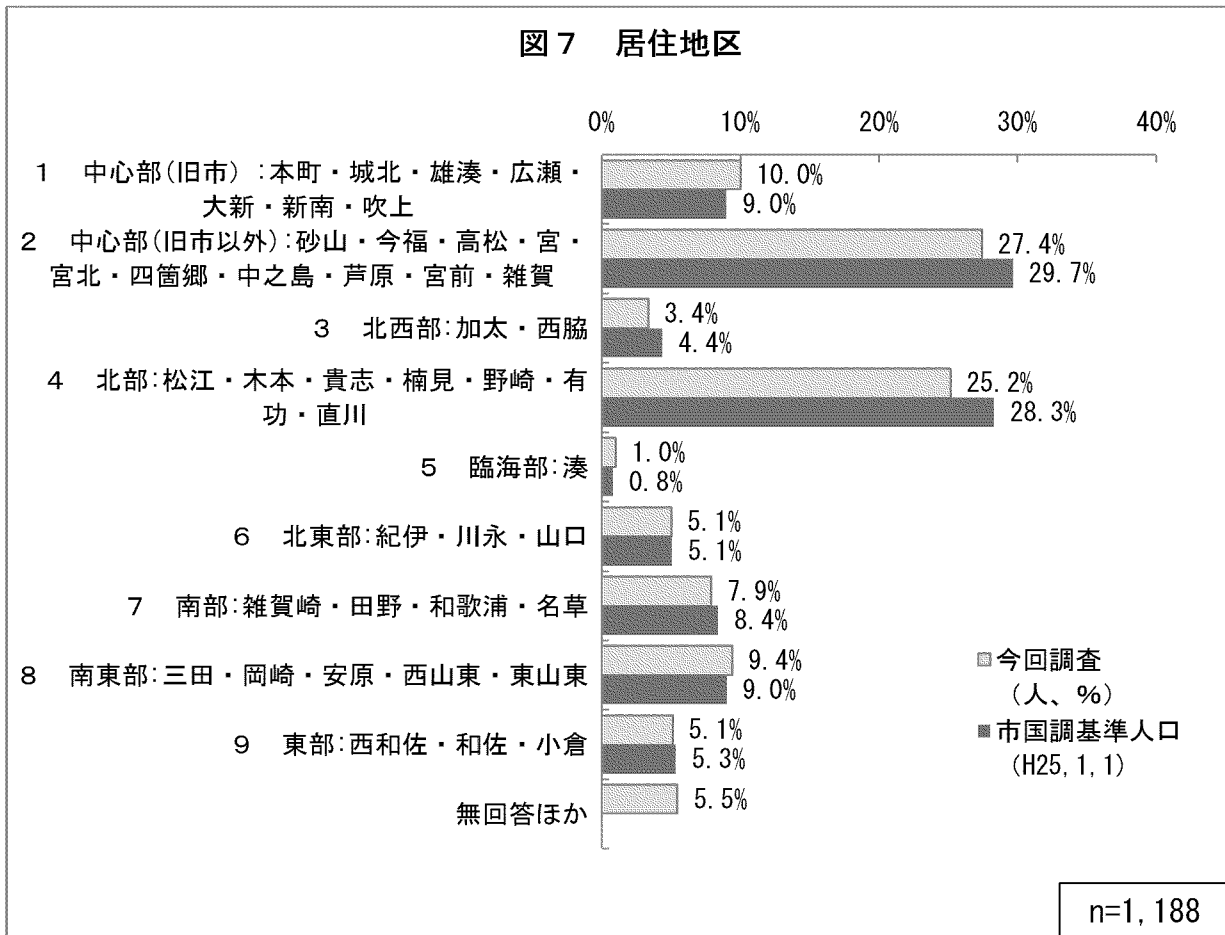


同居の子ども（18歳以下）の有無をみると、回答者の71.3%が「いない」と答え、「いる」と答えた27%の回答者のうち、「就学前（0～5歳）の子ども」がいるのは37.4%、「小学生の子ども」がいるのは36.4%となっている。

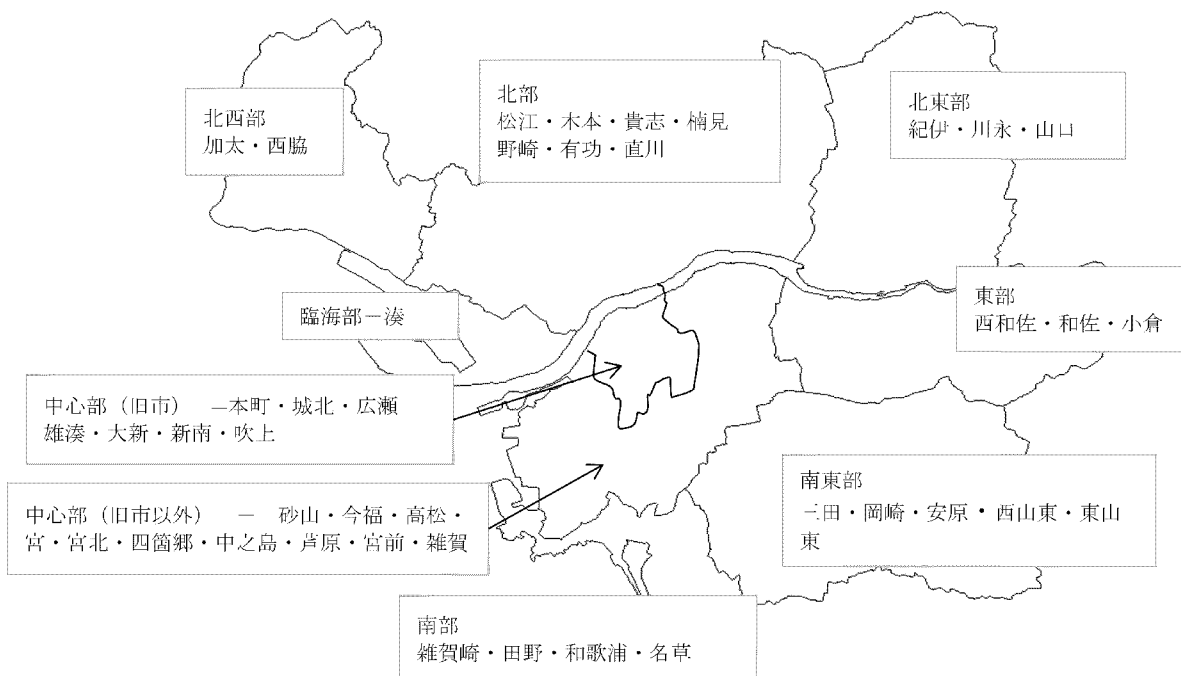


(5) 居住地区

回答者の居住地区別構成は H22 年国勢調査基準人口（H25, 1, 1 現在、以下「市国調基準人口」という。）の地区別構成とほぼ同じである。



居住地区 42 地区に分けて調査したが、調査結果は中心部（旧市）はじめ東部までの 9 地区に分けて集計した。



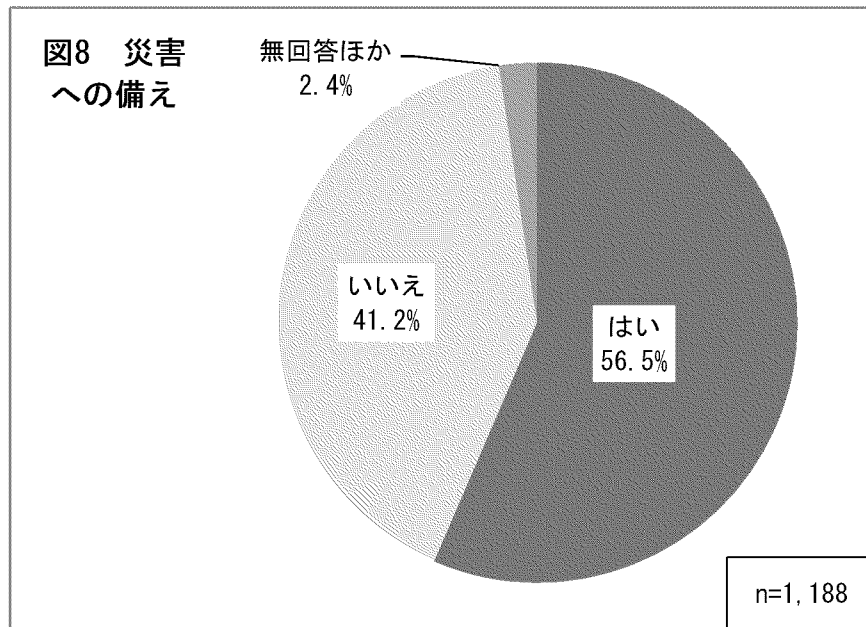
Ⅱ 調査結果の集計及び分析

(以下の表中、網掛けしているものは、次の例による。単位は%)

凡例	1位	63%	2位	47%	3位	31%
----	----	-----	----	-----	----	-----

問8 家族と対応を話し合うなど、災害に対する備えを行っていますか。

災害に対する備えについて、「はい」と答えたのは56.5%、「いいえ」は41.2%となっている。「災害への備え」は、全体の半数近くは備えを行っていないことがうかがえる



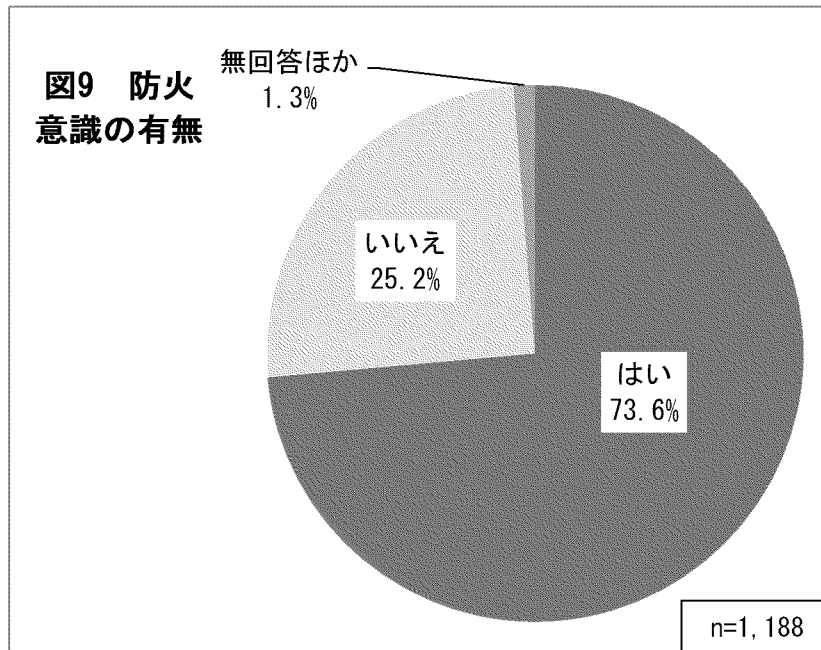
年齢別にみると、「はい」と答えたのは「75-79歳」が最も多く(67.6%)、次いで「70-74歳」(66.4%)、40歳代(65.5%)となっている。「いいえ」と答えたのは、10歳代が最も多く(65.0%)、次いで20歳代(56.9%)、50歳代(46.2%)となっている。

市民全体への啓発に加え、20歳代以下の若年世代への防災意識啓発の必要性がうかがえる。

		年齢										合計
		16-19歳	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳	75-79歳	80歳以上	
災害への備え	はい	35.0	43.1	58.5	65.5	53.8	58.1	58.1	66.4	67.6	56.0	57.8
	いいえ	65.0	56.9	41.5	34.5	46.2	41.9	41.9	33.6	32.4	44.0	42.2
合計		3.5	8.9	12.8	15.4	15.8	10.8	9.1	10.1	6.4	7.3	100

問9 火災警報器や消火器を備えるなど、日頃から防火を意識していますか。

日頃の防火意識の有無について、「はい」と答えたのは73.6%、「いいえ」と答えたのは25.2%となっている。「災害への備え」よりも、火事に対する市民の意識は高いことが見てとれる。

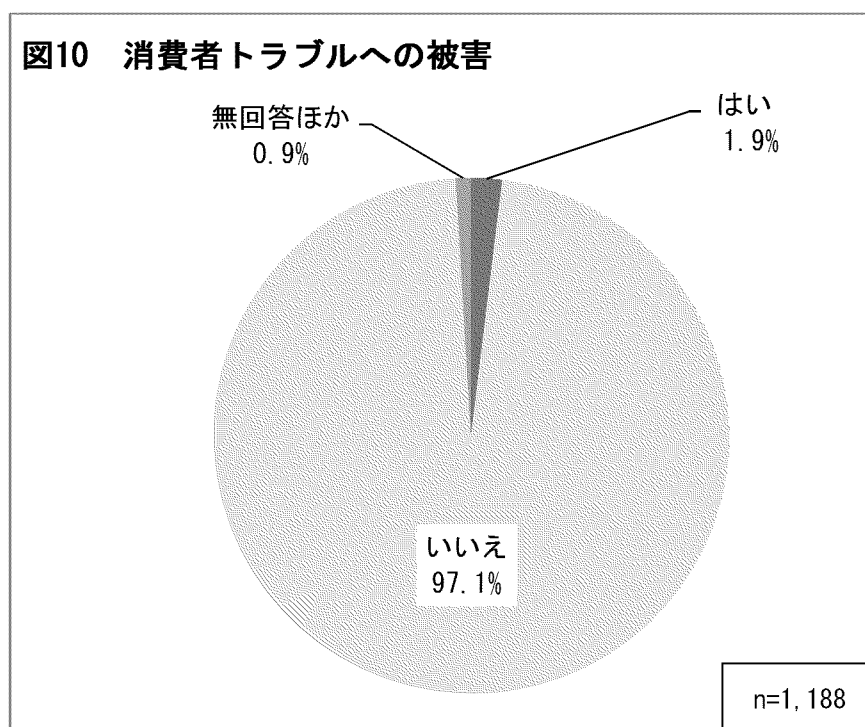


年齢別にみると、40歳代以上の年齢階層では70%以上の人が「はい」と答えているが、10歳代及び20歳代では50%台にとどまっている。「災害に対する備え」と同様、若年世代の意識啓発の必要性がうかがえる。

		年齢										合計
		16-19歳	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳	75-79歳	80歳以上	
日頃の防火意識の有無	はい	52.5	57.8	68.0	72.5	73.2	79.0	77.6	84.9	85.1	86.5	74.4
	いいえ	47.5	42.2	32.0	27.5	26.8	21.0	22.4	15.1	14.9	13.5	25.6
合計		3.4	8.8	12.6	15.3	15.7	10.7	9.2	10.2	6.4	7.7	100

問10 あなたご自身または同居の家族の方が、この1年間に消費者トラブルに巻き込まれたことはありますか。

消費者トラブルへの被害の有無については、「はい」と答えたのは1.9%、「いいえ」が97.1%となっている。

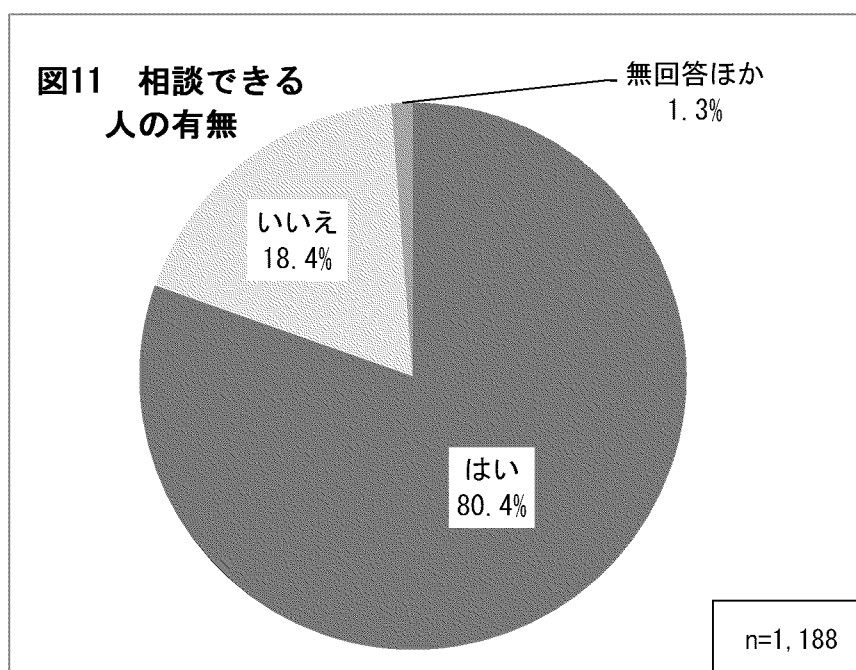


年齢別にみると、割合は少ないものの、10歳代以外すべての年齢階級で「消費者トラブルの被害経験がある。」と答えている。

n=1167		年齢										合計
		16-19歳	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳	75-79歳	80歳以上	
1年間の消費者トラブルへの被害	はい	—	3.9	2.0	2.2	2.2	0.8	1.9	1.7	1.3	2.2	2.0
	いいえ	100.0	96.1	98.0	97.8	97.8	99.2	98.1	98.3	98.7	97.8	98.0
合計		3.4	8.7	12.6	15.3	15.6	10.7	9.2	10.2	6.6	7.7	100

問 1 1 身近に相談したり、助けてもらえる人がいますか。

身近な相談相手や援助者の有無については、「はい」と答えたのは80.4%、「いいえ」と答えたものは18.4%となっている。



男女別にみると、「男性」のうち「はい」と答えたのは78.2%であり、「女性」のうち「はい」と答えたのは84.7%となっている。

n=1137		性別		合計
		男性	女性	
相談できる人の有無	はい	78.2	84.7	81.9
	いいえ	21.8	15.3	18.1
合計		43.5	56.5	100

年齢別にみると、「はい」と答えたのは「16-19歳」（92.5%）が最も多くなっており、次いで「30-39歳」（90.5%）、「40-49歳」（83.7%）となっている。「いいえ」と答えたのは、「50-59歳」以上すべての階層で20%を超えている。

50歳以上の世代は全体の6割近くを占めるが、そのうちの20%以上が身近に相談できる人がいないと答えていることから、高齢年齢層において、家族・地域のコミュニティなど社会との何らかのつながりを保つ必要性が感じられる。

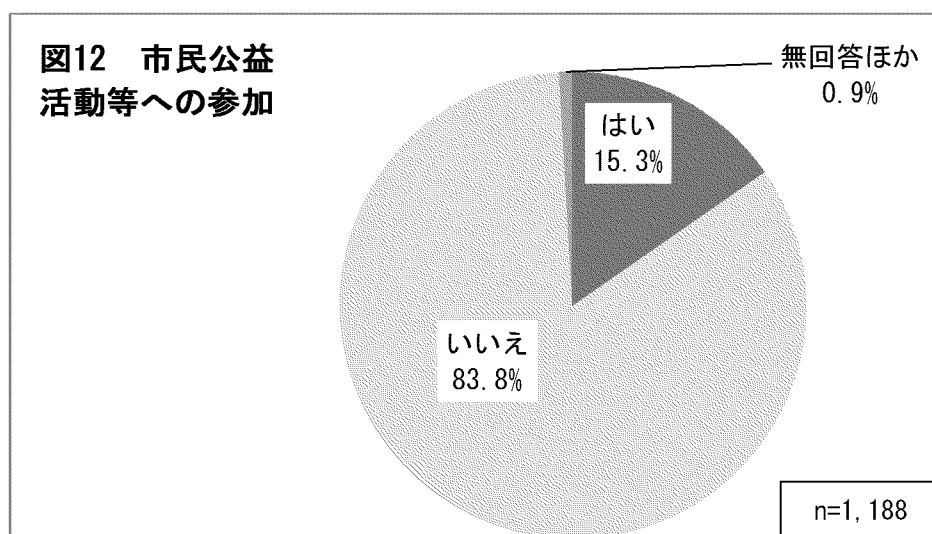
		年齢										合計
		16-19歳	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳	75-79歳	80歳以上	
相談できる人の有無	はい	92.5	83.3	90.5	83.7	77.8	76.8	77.6	79.7	79.2	79.8	81.6
	いいえ	7.5	16.7	9.5	16.3	22.2	23.2	22.4	20.3	20.8	20.2	18.4
合計		3.4	8.8	12.6	15.3	15.5	10.7	9.2	10.1	6.6	7.7	100

家族構成別にみると、「はい」と答えたのは「三世代（親と子と孫）」が最も多く（91.6%）、次いで「2世代（親と子）」（81.7%）、「夫婦のみ」（80.0%）、「自分ひとり」（78.0%）となっている。

		家族構成					合計
		自分ひとり	夫婦のみ	二世代（親と子）	三世代（親と子と孫）	その他	
身近で相談できる人の有無	はい	78.0	80.0	81.7	91.6	79.4	81.6
	いいえ	22.0	20.0	18.3	8.4	20.6	18.4
合計		10.9	27.2	50.8	8.2	2.9	100

問 1 2 日頃市民公益活動（ボランティア活動やNPO活動など、市民が自発的に行う公益的で非営利の活動）に参加していますか。

日頃の市民公益活動への参加について、「はい」と答えたのは 15.3%の人で、大半の人は「いいえ」（83.8%）と答えており、自発的な公益活動への取り組みが、あまり進んでいない様子がうかがえる。



男女別にみると、「男性」のうち「はい」と答えたのは 16.0%、「女性」のうち「はい」と答えたのは 15.0%となっており、男女ともほぼ同様の状況である。

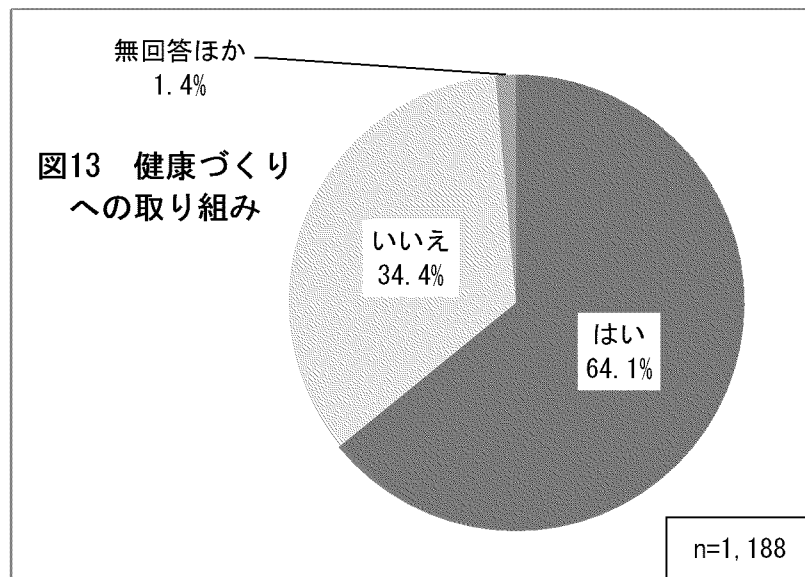
n=1141		性別		合計
		男性	女性	
市民公益活動等への参加	はい	16.0	15.0	15.4
	いいえ	84.0	85.0	84.6
合計		43.7	56.3	100

年齢別にみると、「はい」と答えたのは「70-74歳」が最も多く（31.9%）、次いで「65-69歳」（21.5%）、「60-64歳」（17.5%）となっている。30歳代以下の世代は「はい」が1割にも満たず、特に低年齢層の公益活動への参加が少ない。仕事を退職して間もない「60-64歳」から70歳代が高い結果となっている。

n=1167		年齢										合計
		16-19歳	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳	75-79歳	80歳以上	
市民公益活動等への参加	はい	2.5	8.8	7.5	16.3	11.5	17.5	21.5	31.9	17.1	13.5	15.3
	いいえ	97.5	91.2	92.5	83.7	88.5	82.5	78.5	68.1	82.9	86.5	84.7
合計		3.4	8.7	12.6	15.3	15.7	10.8	9.2	10.2	6.5	7.6	100

問13 ご自分で健康づくりに取り組んでいますか。

健康づくりへの取り組みの有無について、「はい」と答えたのは64.1%、「いいえ」と答えたのは34.4%となっている。



男女別でみると、「男性」のうち「はい」と答えたのは63.1%、「女性」のうち「はい」答えたのは65.9%となっている。

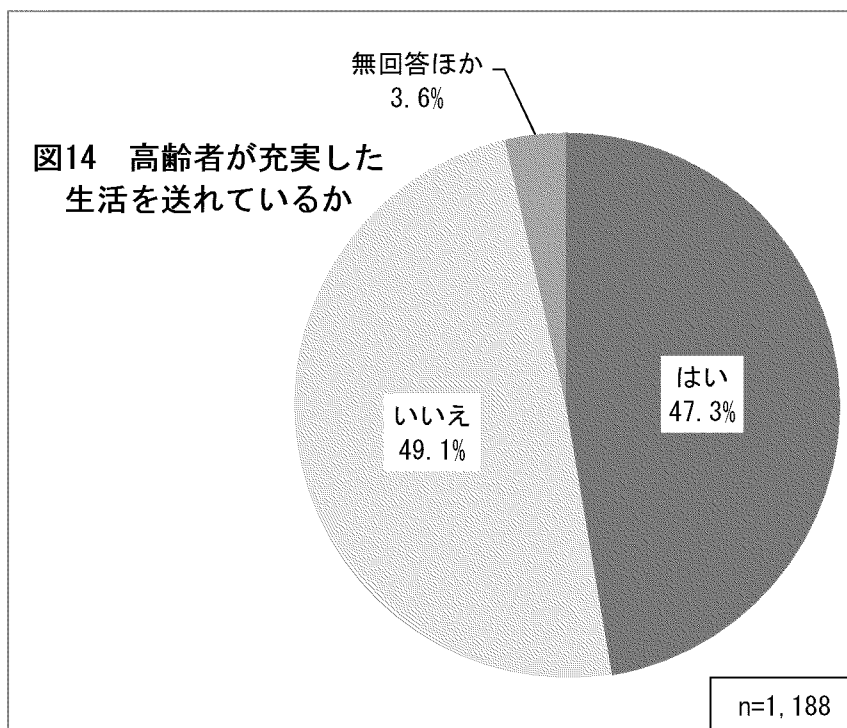
n=1136		性別		合計
		男性	女性	
健康づくりへの取り組み	はい	63.1	65.9	64.7
	いいえ	36.9	34.1	35.3
合計		43.9	56.1	100

年齢別にみると、「はい」と答えたのは「75-79歳」が最も多く（81.3%）、次いで「70-74歳」（79.3%）、「65-69歳」（76.2%）となっている。40歳代以下で「はい」と答えたのは、50%台にとどまっている。

n=1161		年齢										合計
		16-19歳	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳	75-79歳	80歳以上	
健康づくりへの取り組み	はい	55.0	53.9	51.0	52.8	65.0	73.8	76.2	79.3	81.3	71.9	65.0
	いいえ	45.0	46.1	49.0	47.2	35.0	26.2	23.8	20.7	18.7	28.1	35.0
合計		3.4	8.8	12.7	15.3	15.8	10.9	9.0	10.0	6.5	7.7	100

問 1 4 高齢者が住み慣れた地域で充実した生活を送れていると思いますか。

地域での高齢者の充実した生活について、「はい」と答えたのは47.3%となっており、「いいえ」は49.1%となっている。



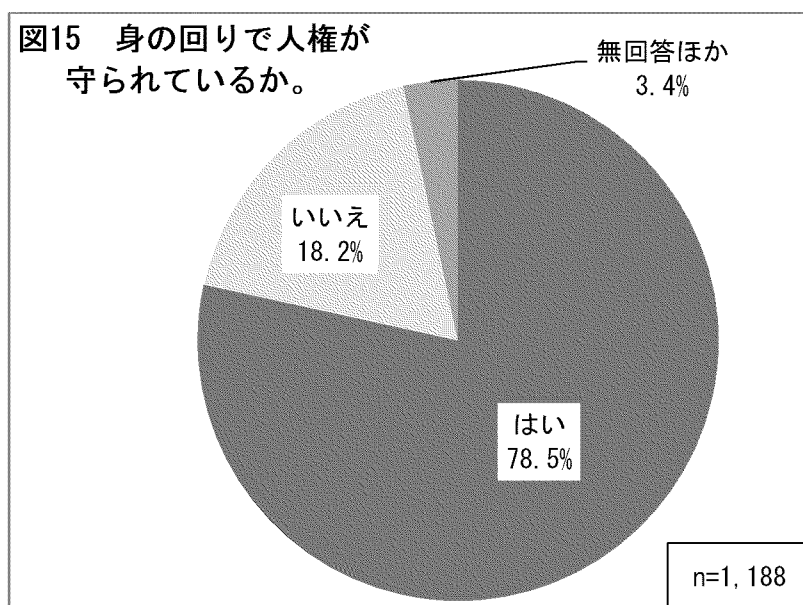
年齢別にみると、「はい」と答えたのは「70-74歳」が最も多く（70.4%）、次いで「75-79歳」（70.3%）、「80歳以上」（55.2%）となっている。

20歳代から「65-69歳」は「いいえ」と答えた人が50%を超えており、特に20歳代は63.4%となっている。

		年齢										合計
		16-19歳	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳	75-79歳	80歳以上	
n=1135												
高齢者が充実した生活を送れているか	はい	52.5	36.6	44.8	40.2	48.6	41.0	46.2	70.4	70.3	55.2	49.0
	いいえ	47.5	63.4	55.2	59.8	51.4	59.0	53.8	29.6	29.7	44.8	51.0
合計		3.5	8.9	12.6	15.3	15.4	10.7	9.2	10.1	6.5	7.7	100

問15 あなたの身の回りで人権が守られていると思いますか。

身の回りで人権が守られていることについて、78.5%の人が「はい」と答え、「いいえ」と答えたのは18.2%となっている。



男女別にみると、「男性」のうち「はい」と答えたのは80.7%となっており、「女性」のうち「はい」と答えたのは81.8%となっている。

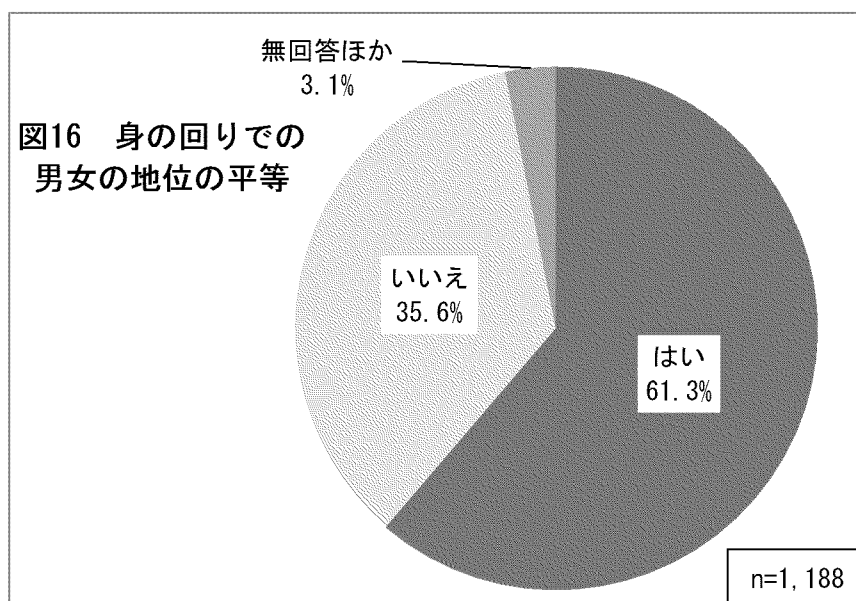
n=1136		性別		合計
		男性	女性	
身の回りで人権が守られているか。	はい	80.7	81.8	81.3
	いいえ	19.3	18.2	18.7
合計		43.8	56.2	100

年齢別にみると、「はい」と答えたのは「75-79歳」が最も多く（89.3%）、次いで「70-74歳」（88.0%）、「65-69歳」（83.8%）となっている。

n=1138		16-19歳	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳	75-79歳	80歳以上	合計
身の回りで人権が守られているか。	はい	80.0	72.7	78.5	77.8	79.8	83.1	83.8	88.0	89.3	83.7	81.2
	いいえ	20.0	27.3	21.5	22.2	20.2	16.9	16.2	12.0	10.7	16.3	18.8
合計		3.5	8.7	12.7	15.5	15.6	10.9	8.7	10.3	6.6	7.6	100

問 1 6 あなたの身の回りで男女の地位が平等になっていると思いますか。

男女の地位の平等について、「はい」と答えたのは61.3%となっており、「いいえ」と答えたのは35.6%となっている。



男女別にみると、「男性」のうち「はい」と答えたのは69.7%となっており、「女性」のうち「はい」と答えたのは58.2%となっている。

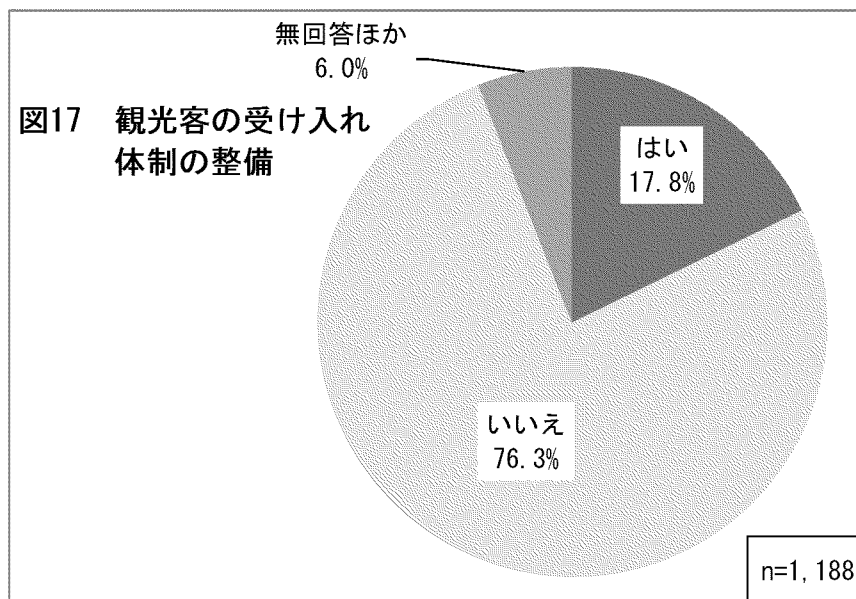
n=1141		性別		合計
		男性	女性	
身の回りでの男女の地位の平等	はい	69.7	58.2	63.3
	いいえ	30.3	41.8	36.7
合計		44.0	56.0	100

年齢別にみると、「はい」と答えたのは「70-74歳」が最も多く（87.2%）、次いで「75-79歳」（79.7%）、「65-69歳」（73.8%）となっている。

n=1141		年齢										合計
		16-19歳	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳	75-79歳	80歳以上	
身の回りでの男女の地位の平等	はい	57.5	58.2	51.7	57.4	49.4	64.2	73.8	87.2	79.7	70.6	63.2
	いいえ	42.5	41.8	48.3	42.6	50.6	35.8	26.2	12.8	20.3	29.4	36.8
合計		3.5	8.6	12.7	15.4	15.8	10.8	9.0	10.3	6.5	7.4	100

問17 観光客を受け入れる体制（観光案内やおもてなしの心など）が整っているとと思いますか。

観光客の受け入れ体制については、「はい」と答えたのは17.8%となっており、「いいえ」と答えたのは76.3%となっている。



男女別にみると、「男性」のうち、「はい」と答えたのは21.5%となっており、「女性」のうち「はい」と答えたのは16.8%となっている。

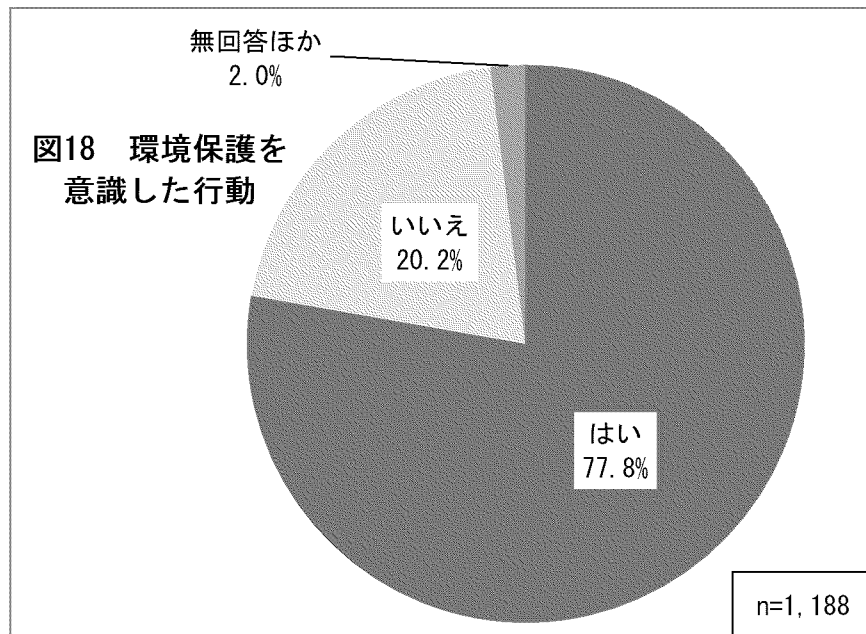
n=1135		性別		合計
		男性	女性	
観光客の受け入れ体制の整備	はい	21.5	16.8	18.9
	いいえ	78.5	83.2	81.1
合計		44.5	55.5	100

年齢別にみると、「はい」と答えたのは「16-19歳」が最も多く（30.0%）、次いで「40-49歳」（21.4%）、「75-79歳」（21.1%）となっている。

n=1108		年齢										合計
		16-19歳	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳	75-79歳	80歳以上	
観光客の受け入れ体制の整備	はい	30.0	16.7	16.1	21.4	18.7	17.9	18.8	17.4	21.1	15.7	18.8
	いいえ	70.0	83.3	83.9	78.6	81.3	82.1	81.2	82.6	78.9	84.3	81.2
合計		3.6	9.2	12.9	15.6	16.4	10.6	9.1	9.8	6.4	6.3	100

問 18 日頃から省エネに取り組むなど環境保護を意識して行動していますか。

環境保護を意識した行動について、「はい」と答えたのは77.8%となっており、「いいえ」と答えたのは20.2%となっている。



男女別では、「男性」のうち「はい」と答えたのは76.9%となっており、「女性」のうち「はい」答えたのは80.7%となっている。

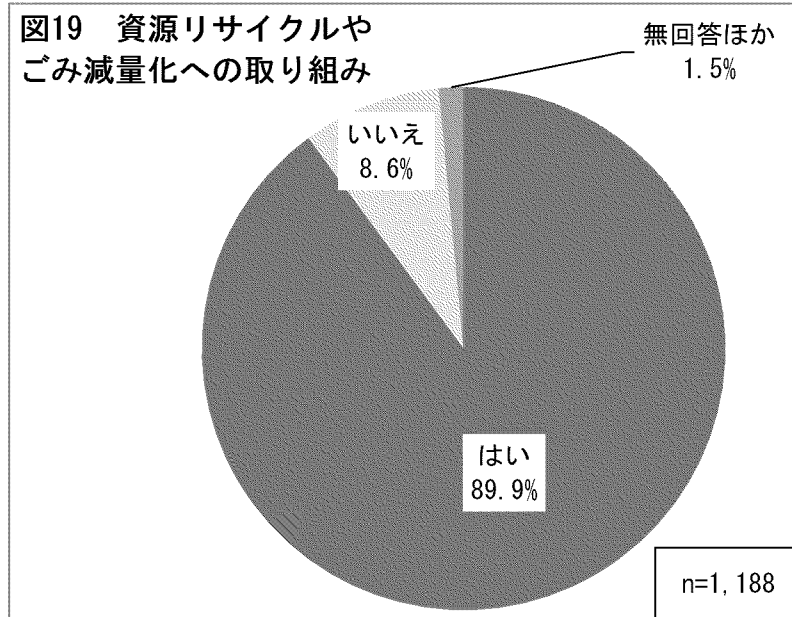
n=1155		性別		合計
		男性	女性	
環境保護を意識した行動	はい	76.9	80.7	79.0
	いいえ	23.1	19.3	21.0
合計		43.7	56.3	100

年齢別にみると、「はい」と答えたのは「75-79歳」が最も多く（89.0%）、次いで「70-74歳」（87.9%）、「80歳以上」（83.7%）となっている。

n=1155		年齢										合計
		16-19歳	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳	75-79歳	80歳以上	
環境保護を意識した行動	はい	55.0	70.6	74.1	76.5	82.4	80.0	81.9	87.9	89.0	83.7	79.2
	いいえ	45.0	29.4	25.9	23.5	17.6	20.0	18.1	12.1	11.0	16.3	20.8
合計		3.5	8.8	12.7	15.5	15.8	10.8	9.1	10.0	6.3	7.4	100

問 19 日頃からごみの分別などの資源リサイクルやごみの減量化に取り組んでいますか。

資源リサイクルやごみの減量化について、「はい」と答えたのは 89.9%となっており、「いいえ」と答えたのは 8.6%となっている。



男女別にみると、「男性」のうち「はい」と答えたのは 89.4%となっており、「女性」のうち「はい」と答えたのは 92.6%となっている。

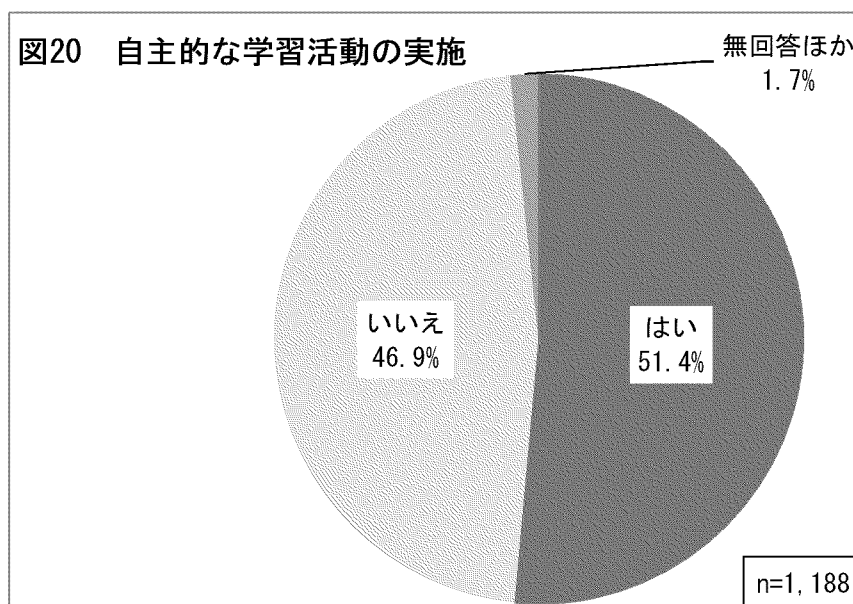
n=1161		性別		合計
		男性	女性	
資源リサイクルやごみ減量化への取り組み	はい	89.4	92.6	91.2
	いいえ	10.6	7.4	8.8
合計		44.0	56.0	100

年齢別にみると、「はい」と答えたのは「70-74歳」が最も多く（96.6%）、次いで「75-79歳」（96.1%）、「50-59歳」（95.6%）となっている。最も少ないのは「16-19歳」で 70.0%となっている。

n=1161		年齢										合計
		16-19歳	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳	75-79歳	80歳以上	
資源リサイクルやごみ減量化への取り組み	はい	70.0	79.2	85.6	91.0	95.6	94.4	95.3	96.6	96.1	94.4	91.2
	いいえ	30.0	20.8	14.4	9.0	4.4	5.6	4.7	3.4	3.9	5.6	8.8
合計		3.4	8.7	12.6	15.3	15.7	10.8	9.1	10.2	6.5	7.7	100.0

問20 日頃から趣味や関心のあるテーマについて、自主的に学習活動を行っていますか。

自主的な学習活動について、「はい」と答えたのは51.4%となっており、「いいえ」と答えたのは46.9%となっている。



男女別にみると、「男性」のうち「はい」と答えたのは54.3%となっており、「女性」のうち「はい」と答えたのは50.6%となっている。

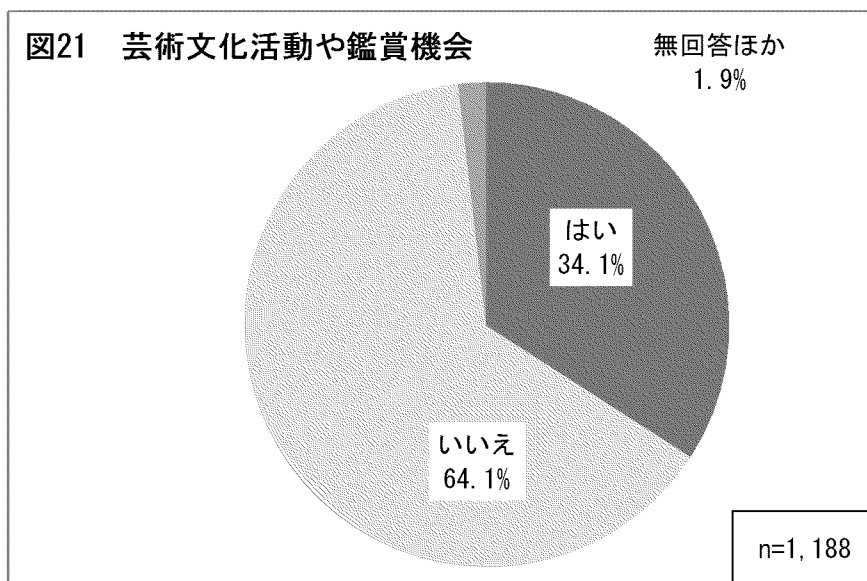
n=1132		性別		合計
		男性	女性	
自主的な学習活動の実施	はい	54.3	50.6	52.2
	いいえ	45.7	49.4	47.8
合計		43.9	56.1	100

年齢別にみると、「はい」と答えたのは20歳代が最も多く（58.0%）、次いで30歳代（57.8%）、「65-69歳」（53.8%）となっている。

n=1158		年齢										合計
		16-19歳	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳	75-79歳	80歳以上	
自主的な学習活動の実施	はい	52.5	58.0	57.8	51.1	51.9	52.8	53.8	45.8	46.1	48.3	52.1
	いいえ	47.5	42.0	42.2	48.9	48.1	47.2	46.2	54.2	53.9	51.7	47.9
合計		3.5	8.6	12.7	15.4	15.8	10.6	9.2	10.2	6.6	7.5	100.0

問 2 1 日頃から芸術文化活動を行い、または鑑賞する機会を持っていますか。

芸術文化活動への参加や鑑賞について、「はい」と答えたのは34.1%となっており、「いいえ」は64.1%となっている。



男女別にみると、「男性」のうち「はい」と答えたのは32.4%となっており、「女性」のうち「はい」と答えたのは36.5%となっている。

n=1130		性別		合計
		男性	女性	
芸術文化活動や鑑賞機会	はい	32.4	36.5	34.7
	いいえ	67.6	63.5	65.3
合計		44.0	56.0	100

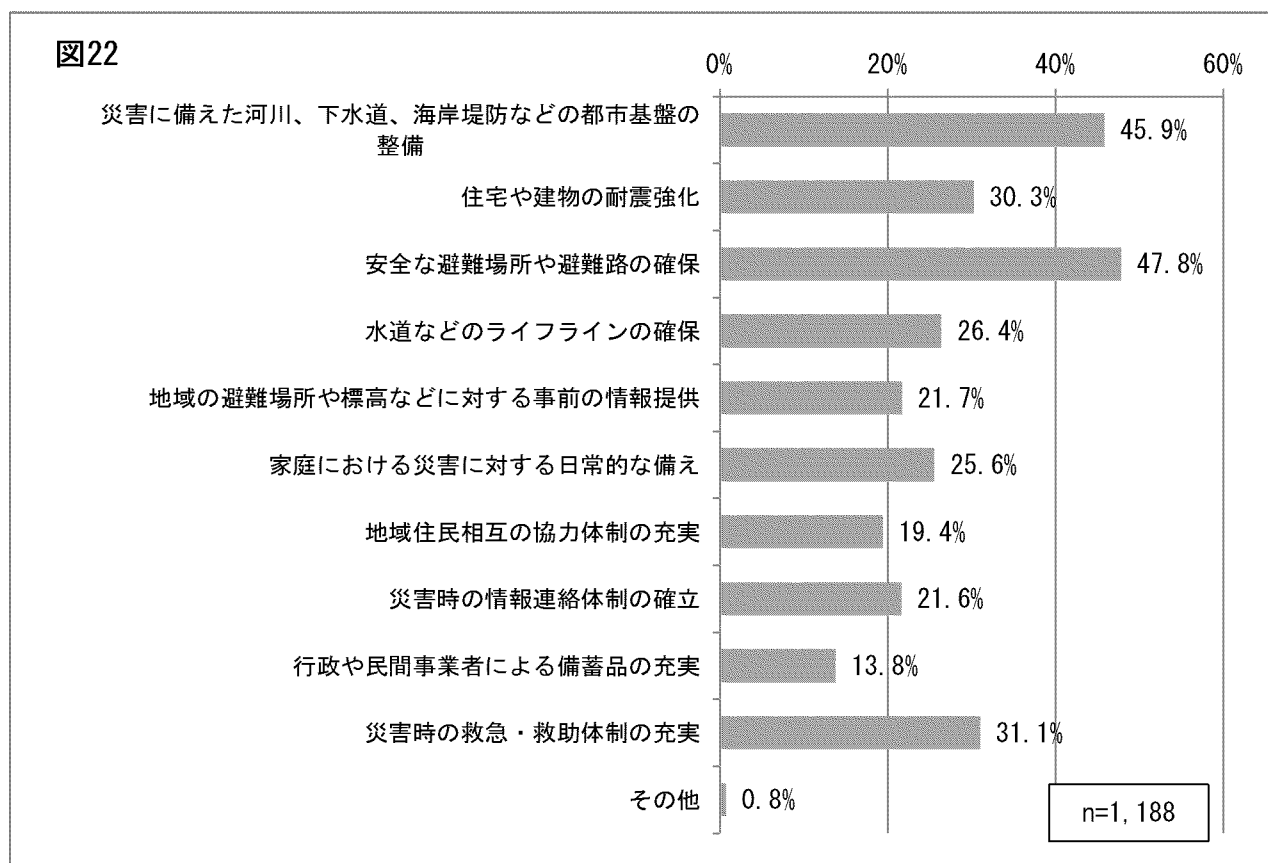
年齢別にみると、「はい」と答えたのは10歳代が最も多く(50.0%)、次いで「60-64歳」(39.2%)、「50-59歳」(37.7%)となっている。

n=1156		年齢										合計
		16-19歳	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳	75-79歳	80歳以上	
芸術文化活動や鑑賞機会	はい	50.0	37.6	35.6	28.7	37.7	39.2	34.9	36.8	28.0	25.9	34.8
	いいえ	50.0	62.4	64.4	71.3	62.3	60.8	65.1	63.2	72.0	74.1	65.2
合計		3.5	8.7	12.6	15.4	15.8	10.8	9.2	10.1	6.5	7.4	100

問22 あなたは、各種災害からあなたの命や財産を守るためには、どのようなことが大切だと思いますか。（〇は3つまでの複数回答。以下、問37まで同じ。）

各種災害から命や財産を守るために大切なものは、「安全な避難場所や避難路の確保」が最も多く（47.8%）、次いで「災害に備えた河川、下水道、海岸堤防などの都市基盤の整備」（45.9%）、「災害時の救急・救助体制の充実」（31.1%）となっている。

市民が、避難路や堤防、救急救助体制など社会基盤の整備に不安を感じており、一方「家庭における災害に対する日常的な備え」（25.6%）や「地域住民相互の協力体制の充実」（19.4%）などは少なくなっている。



その他自由記入欄には9件の意見があった。

「防災無線が聞こえにくい」や「関係者の災害対応レベルの向上」、「国の迅速な災害対応」などのほか、「自分のことは自分で守る」、「個人意識改善」など市民の意識に関するものが4件、ほかに「要介護の独居高齢者はどうするのか。」や「大自然に対する畏敬の念を育てる。」などであった。

男女別にみると、「男性」は、「1 災害に備えた河川、下水道、海岸堤防などの都市基盤の整備」が最も多く（48.9%）、次いで「3 安全な避難場所や避難路の確保」（48.1%）、「2 住宅や建物の耐震強化」（30.7%）などとなっている。

「女性」は、「3 安全な避難場所や避難路の確保」が最も多く（49.5%）、次いで「1 災害に備えた河川、下水道、海岸堤防などの都市基盤の整備」（46.3%）、「10 災害時の救急・救助体制の充実」（33.2%）となっている。

年齢別にみると、30 歳代から「60-64 歳」及び「80 歳以上」では「1 災害に備えた河川、下水道、海岸堤防などの都市基盤の整備」が最も高く、その他の年齢では「3 安全な避難場所や避難路の確保」が最も多くなっている。

居住地域別にみると、どの地域においても「1 災害に備えた河川、下水道、海岸堤防などの都市基盤の整備」「3 安全な避難場所や避難路の確保」が多くなっている。「北東部」「南東部」「東部」では「2 住宅や建物の耐震強化」が多く、「中心部（旧市）」「中心部（旧市以外）」「臨海部」「南部」では「10 災害時の救急・救助体制の充実」が多くなっている。

性別		1 災害に備えた河川、下水道、海岸堤防などの都市基盤の整備	2 住宅や建物の耐震強化	3 安全な避難場所や避難路の確保	4 水道などのライフラインの確保	5 地域の避難場所や標高などに対する事前の情報提供	6 家庭における災害に対する日常的な備え	7 地域住民相互の協力体制の充実	8 災害時の情報連絡体制の確立	9 行政や民間事業者による備蓄品の充実	10 災害時の救急・救助体制の充実	11 その他
性別 n=1129												
合計		45.9	30.3	47.8	26.4	21.7	25.6	19.4	21.6	13.8	31.1	0.8
性別	男性(499)	48.9	30.7	48.1	27.1	20.4	25.7	23.4	19.6	14.8	30.7	1.2
	女性(630)	46.3	31.6	49.5	27.1	22.9	26.5	16.7	23.3	14.0	33.2	0.3

年齢 n=1153 居住地域 n=1108		1 災害に備えた河川、下水道、海岸堤防などの都市基盤の整備	2 住宅や建物の耐震強化	3 安全な避難場所や避難路の確保	4 水道などのライフラインの確保	5 地域の避難場所や標高などに対する事前の情報提供	6 家庭における災害に対する日常的な備え	7 地域住民相互の協力体制の充実	8 災害時の情報連絡体制の確立	9 行政や民間事業者による備蓄品の充実	10 災害時の救急・救助体制の充実	11 その他
年齢	16-19 歳 (40)	42.5	45.0	70.0	15.0	15.0	25.0	7.5	22.5	12.5	35.0	2.5
	20-29 歳 (101)	44.6	36.6	45.5	25.7	18.8	24.8	17.8	27.7	14.9	38.6	0.0
	30-39 歳 (147)	48.3	29.9	46.9	32.7	24.5	32.0	18.4	19.0	17.0	25.9	0.0
	40-49 歳 (175)	46.9	29.7	45.1	35.4	15.4	32.6	17.7	18.9	16.6	32.6	1.1
	50-60 歳 (182)	50.0	26.9	47.3	30.8	19.8	19.8	19.2	25.8	13.7	33.5	1.6
	60-64 歳 (126)	53.2	41.3	46.8	21.4	26.2	25.4	17.5	17.5	14.3	27.0	0.0
	65-69 歳 (104)	44.2	27.9	51.9	18.3	26.9	24.0	30.8	23.1	9.6	30.8	1.0
	70-74 歳 (117)	42.7	26.5	54.7	23.9	27.4	23.1	21.4	20.5	13.7	33.3	0.0
	75-79 歳 (74)	39.2	41.9	47.3	20.3	24.3	29.7	20.3	24.3	9.5	36.5	2.7
	80 歳以上 (87)	50.6	18.4	48.3	29.9	20.7	23.0	23.0	23.0	14.9	31.0	0.0
居住地域	中心部 (旧市) (116)	45.7	30.2	44.0	37.1	12.9	23.3	22.4	19.0	12.9	41.4	0.9
	中心部 (旧市以外) (321)	45.8	31.2	52.6	24.6	25.9	23.7	17.4	24.3	12.5	35.2	0.3
	北西部 (39)	51.3	25.6	48.7	23.1	25.6	23.1	17.9	28.2	15.4	17.9	2.6
	北部 (298)	46.6	27.9	48.3	28.2	23.2	28.9	23.8	20.5	16.1	27.5	1.7
	臨海部 (12)	66.7	16.7	75.0	16.7	25.0	16.7	25.0	8.3	8.3	33.3	0.0
	北東部 (59)	47.5	35.6	28.8	32.2	15.3	40.7	20.3	10.2	27.1	32.2	0.0
	南部 (92)	46.7	29.3	53.3	21.7	17.4	29.3	20.7	25.0	16.3	34.8	0.0
	南東部 (111)	54.1	38.7	46.8	22.5	20.7	26.1	15.3	23.4	9.9	32.4	0.0
	東部 (60)	40.0	35.0	45.0	31.7	25.0	28.3	18.3	26.7	11.7	23.3	1.7

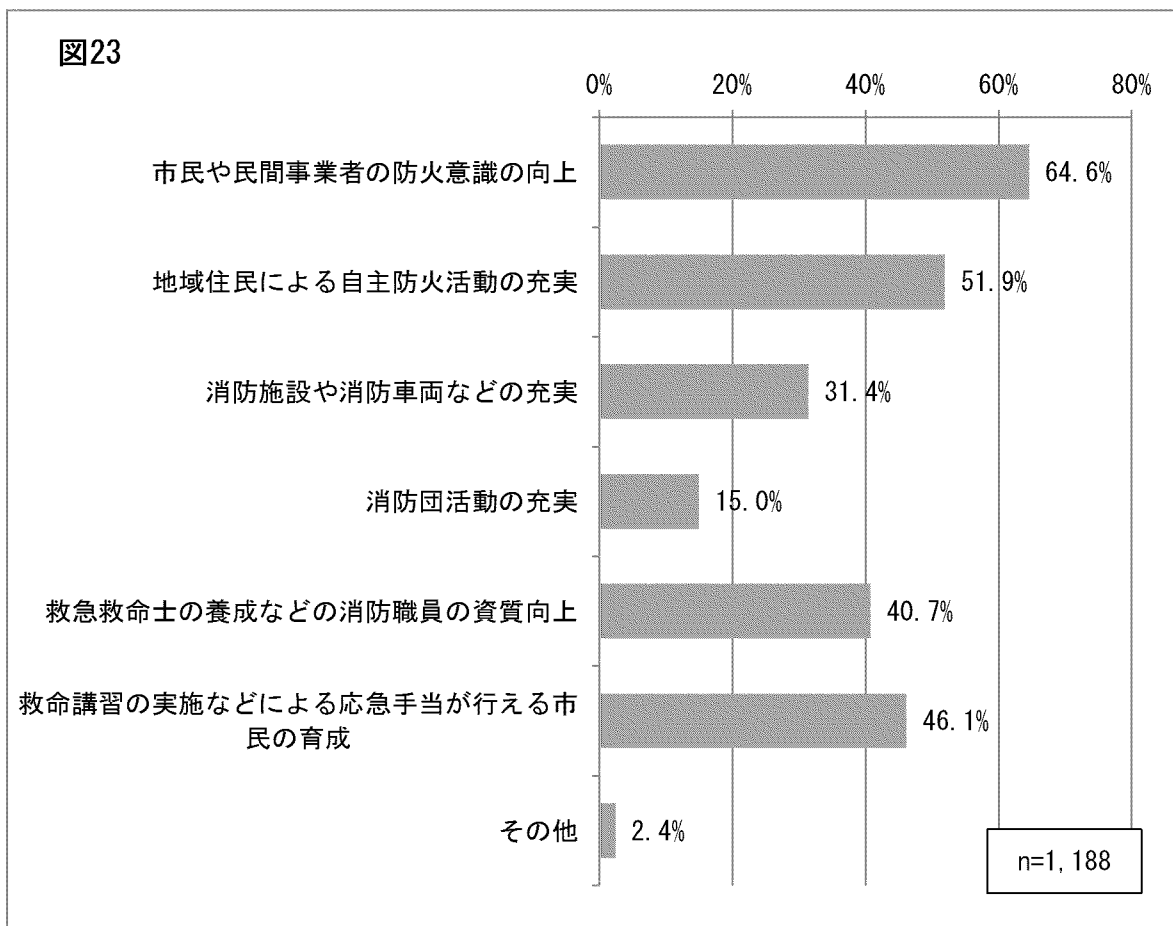
「災害への備え」について、「はい」「いいえ」のいずれも、「3 安全な避難場所や避難路の確保」が最も多く、次いで「1 災害に備えた河川、下水道、海岸堤防などの都市基盤の整備」、「10 災害時の救急・救助体制の充実」となっている。

n=1143		問 22 各種災害から命や財産を守るためには										
		1 災害に備えた河川、下水道、海岸堤防などの都市基盤の整備	2 住宅や建物の耐震強化	3 安全な避難場所や避難路の確保	4 水道などのライフラインの確保	5 地域の避難場所や標高などに対する事前の情報提供	6 家庭における災害に対する日常的な備え	7 地域住民相互の協力体制の充実	8 災害時の情報連絡体制の確立	9 行政や民間事業者による備蓄品の充実	10 災害時の救急・救助体制の充実	11 その他
問 8 災害への備え	はい (665)	49.0	29.5	49.3	26.0	23.8	29.5	20.9	22.4	11.4	30.4	0.6
	いいえ (478)	43.5	33.3	47.9	28.5	20.3	20.9	18.4	22.2	18.0	34.1	1.0
合計		46.7	31.1	48.7	27.0	22.3	25.9	19.9	22.3	14.2	31.9	0.8

問23 あなたは、火事や不慮の事故・病気による被害を軽減するためには、どのようなことが大切だと思いますか。

火事や不慮の事故などによる被害を軽減するために大切なものは、「市民や民間事業者の防火意識の向上」が最も多く（64.6%）、次いで「地域住民による自主防火活動の充実」（51.9%）、「救命講習の実施などによる応急手当が行える市民の育成」（46.1%）となっている。

いずれも、防火活動など市民の主体的な活動に関するもので、防火に関する市民意識の高さがうかがえる。



その他自由記入欄には28件の意見があった。

「火事・事故・病気は個々の意識の向上」や「自分自身が注意して生活する」、「民間の保険加入」など、「市民の意識の向上」に関するものが最も多く10件であった。

次いで「独居孤独死を防ぐための地域の声かけ」や「隣近所・家庭内・職場内でのお互いの助け合いが必要」、「地区民生委員組織の活用」など「地域住民相互協力」に関するものが6件、「病院の充実や緊急病院の増加」など医療体制の充実に関するものが6件、「消防・救急活動が迅速に行える」や「緊急車両の妨げとなる違法駐車を取り締まり」など道路整備や交通に関するものが4件などであった。

男女別にみると、男女ともに「1 市民や民間事業者の防火意識の向上」が最も多く（「男性」67.3%、「女性」65.1%）、次いで「2 地域住民による自主防火活動の充実」（「男性」53.3%、「女性」53.2%）、「6 救命講習の実施などによる応急手当が行える市民の育成」（「男性」44.5%、「女性」49.2%）となっている。

年齢別にみると、20歳代では「6 救命講習の実施などによる応急手当が行える市民の育成」が最も多く、「65-69歳」及び「75-79歳」「80歳以上」の階層では「2 地域住民による自主防火活動の充実」が最も多くなっている。その他の年齢階層では「1 市民や民間事業者の防火意識の向上」が最も多くなっている。「4 消防団活動の充実」はどの年齢階層においても、「20%台」以下となっている。

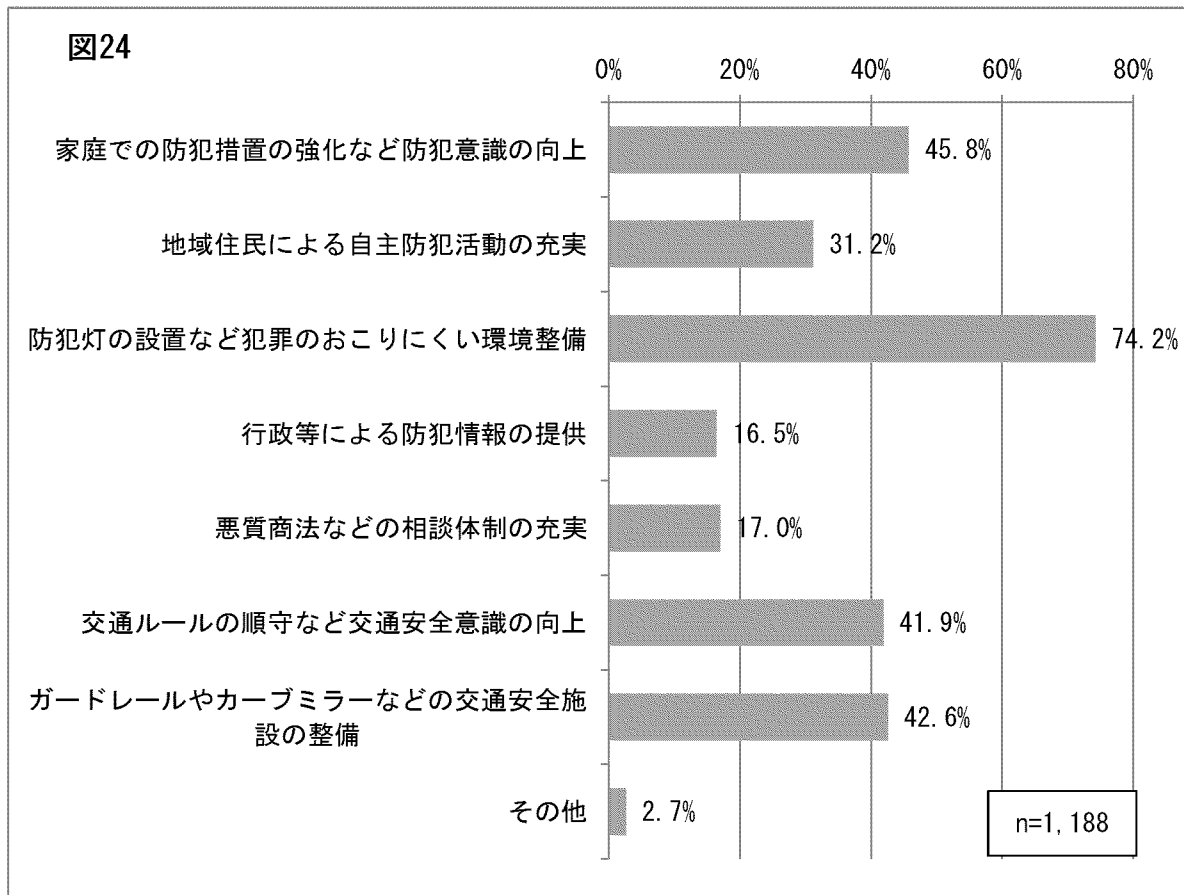
性別 n=1127 年齢 n=1153		1 市民や民間事業者の防火意識の向上	2 地域住民による自主防火活動の充実	3 消防施設や消防車両などの充実	4 消防団活動の充実	5 救急救命士の養成などの消防職員の資質向上	6 救命講習の実施などによる応急手当が行える市民の育成	7 その他
合計		64.6	51.9	31.4	15.0	40.7	46.1	2.4
性別	男性(499)	67.3	53.3	34.9	14.2	39.7	44.5	3.4
	女性(628)	65.1	53.2	29.5	15.3	43.8	49.2	1.9
年齢	16-19歳(40)	67.5	37.5	40.0	20.0	30.0	52.5	0.0
	20-29歳(100)	62.0	54.0	23.0	20.0	35.0	63.0	1.0
	30-39歳(147)	78.2	53.7	25.2	11.6	35.4	46.3	5.4
	40-49歳(178)	74.2	47.8	32.0	14.0	39.9	48.3	2.8
	50-59歳(183)	67.2	47.5	35.0	14.2	39.9	49.2	2.2
	60-64歳(126)	62.7	54.0	42.1	8.7	50.0	47.6	1.6
	65-69歳(104)	59.6	65.4	30.8	13.5	41.3	39.4	1.9
	70-74歳(115)	59.1	53.0	29.6	15.7	53.0	45.2	0.9
	75-79歳(75)	58.7	62.7	30.7	24.0	41.3	44.0	5.3
	80歳以上(85)	56.5	56.5	38.8	22.4	47.1	30.6	2.4

「日頃の防火意識の有無」でみると、「はい」「いいえ」にかかわらず「1 市民や民間事業者の防火意識の向上」が最も高く、大きな差異はうかがえない。

n=1157		問 23 火事や不慮の事故・病気による被害を軽減するためには						
		1 市民や 民間事業者の防火 意識の向 上	2 地域住民 による自主 防火活動の 充実	3 消防施設 や消防車両 などの充実	4 消防団活 動の充実	5 救急救命士 の養成などの 消防職員の資 質向上	6 救命講習の 実施などによ る応急手当が 行える市民の 育成	7 その他
問 9 日 頃の防 火意識 の有無	はい(864)	66.4	54.3	31.6	14.9	42.5	46.8	2.3
	いいえ (293)	64.8	49.5	33.4	16.4	38.9	48.1	3.1
合計		66.0	53.1	32.1	15.3	41.6	47.1	2.5

問 2 4 あなたは、犯罪や交通事故の被害にあわずに地域で安心して暮らすためには、どのようなことが大切だと思いますか。

「防犯灯の設置など犯罪のおこりにくい環境整備」が最も多く（74.2%）、次いで「家庭での防犯措置の強化など防犯意識の向上」（45.8%）、「ガードレールやカーブミラーなどの交通安全施設の整備」（42.6%）となっている。



その他自由記入欄には 32 件の意見があった。

「犯罪や交通事故を許さない社会づくり」や「警察が聖職だという思いを持つこと。凶悪な犯罪に立ち向かってほしい」など、「警察の取り締まり・パトロール強化」に関するものが 9 件、「防犯カメラの設置」が 5 件、「自転車・車の運転マナーの向上」や「高齢者の免許証返納への取り組み強化」など「運転マナーや運転免許」に関するもの 5 件、「道路・歩道・街灯の整備」に関するものが 5 件などであった。

「男女別」、「年齢別」、「同居の子どもの有無別」のどの分類においても、「3 防犯灯の設置など犯罪のおこりにくい環境整備」が最も多く、特に10歳代と「60-64歳」では、80%を超えている。

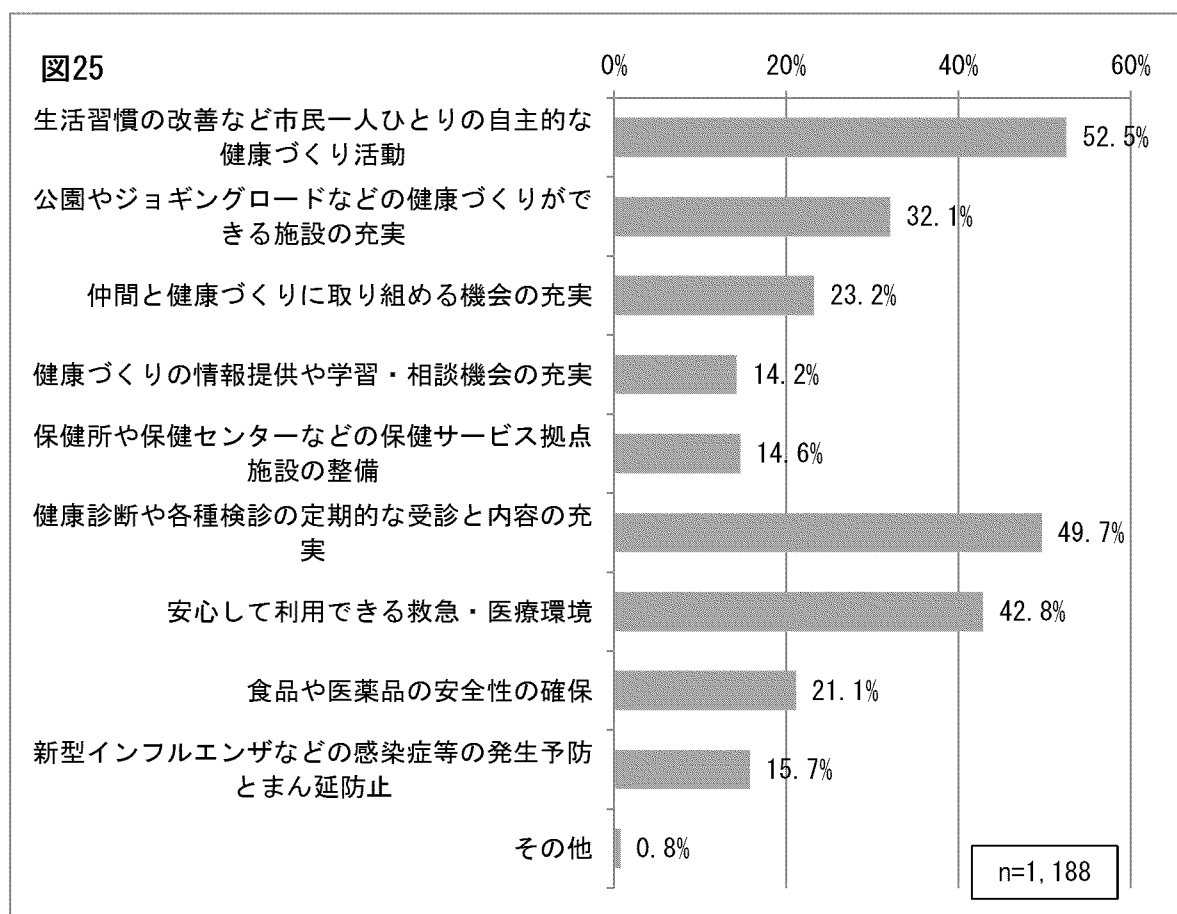
年齢別でみると、すべての年齢階層で「3 防犯灯の設置など犯罪のおこりにくい環境整備」が最も多くなっており、「2 地域住民による自主防犯活動の充実」と「5 悪質商法などの相談体制の充実」は10歳代で最も少なくなっている。

「同居の子どもの有無別」でみると、「4 行政等による防犯情報の提供」を選んだのは、「子ども有」（22.2%）の方が「子ども無」（14.6%）より多くなっている。「6 交通ルールの順守など交通安全意識の向上」を選んだものは「子ども無」（44.5%）の方が、「子ども有」（38.8%）より多くなっている。

性別 n=1132 年齢 n=1157 同居の子ども n=1147		1 家庭での防犯措置の強化など防犯意識の向上	2 地域住民による自主防犯活動の充実	3 防犯灯の設置など犯罪のおこりにくい環境整備	4 行政等による防犯情報の提供	5 悪質商法などの相談体制の充実	6 交通ルールの順守など交通安全意識の向上	7 ガードレールやカーブミラーなどの交通安全施設の整備	8 その他
合計		45.8	31.2	74.2	16.5	17.0	41.9	42.6	2.7
性別	男性(500)	45.6	35.4	73.4	17.0	17.2	44.8	39.6	3.6
	女性(632)	47.6	29.3	77.5	17.1	17.6	40.3	46.7	2.1
年齢	16-19歳(40)	47.5	17.5	80.0	27.5	7.5	37.5	57.5	0.0
	20-29歳(101)	42.6	25.7	71.3	14.9	18.8	46.5	57.4	4.0
	30-39歳(146)	43.8	28.8	76.0	21.2	16.4	37.7	52.1	1.4
	40-49歳(179)	49.7	32.4	76.5	18.4	14.5	43.0	39.1	3.4
	50-59歳(183)	45.9	23.0	78.7	21.3	15.3	46.4	42.1	6.0
	60-64歳(124)	46.8	38.7	81.5	11.3	22.6	43.5	37.9	1.6
	65-69歳(106)	41.5	47.2	75.5	10.4	18.9	37.7	40.6	0.9
	70-74歳(119)	52.1	30.3	75.6	15.1	16.0	50.4	37.8	1.7
	75-79歳(73)	46.6	46.6	71.2	11.0	24.7	34.2	39.7	1.4
80歳以上(86)	48.8	29.1	65.1	17.4	19.8	44.2	38.4	3.5	
同居の子ども(18歳以下)の有無	有(318)	48.8	30.3	77.2	22.2	13.1	38.8	44.7	2.5
	無(826)	46.1	32.3	75.2	14.6	19.2	44.5	42.8	2.8

問25 あなたは、生涯を通じて健康に暮らすためには、どのようなことが大切だと思いますか。

生涯を通じ健康に暮らすために大切なことは、「生活習慣の改善など市民一人ひとりの自主的な健康づくり活動」が最も多く(52.5%)、次いで「健康診断や各種検診の定期的な受診と内容の充実」(49.7%)、「安心して利用できる救急・医療環境」(42.8%)となっている。



その他自由記入欄には9件の意見があった。

「18歳になるまで医療費を無料にして欲しい」や「健康診断や各種検診等に対する金銭的サポート」など医療に関わる補助が2件、「経済的にゆとりや失業者を無くすことが生涯健康を維持することにつながる」というものが3件、ほかに「自治会活動改善」などであった。

男女別でみると、「男性」は「1 生活習慣の改善など市民一人ひとりの自主的な健康づくり活動」が最も多く(53.7%)、次いで「6 健康診断や各種検診の定期的な受診と内容の充実」(46.3%)、「7 安心して利用できる救急・医療環境」(45.3%)となっている。「女性」は「6 健康診断や各種検診の定期的な受診と内容の充実」(54.4%)が最も多く、「1 生活習慣の改善など市民一人ひとりの自主的な健康づくり活動」(53.1%)、「7 安心して利用できる救急・医療環境」(43.1%)となっている。

年齢別にみると、40歳代以下の階層では「6 健康診断や各種検診の定期的な受診と内容の充実」が最も多く、50歳代以上では「1 生活習慣の改善など市民一人ひとりの自主的な健康づくり活動」が最も多くなっている。

家族構成別でみると、「自分ひとり」と「夫婦のみ」では、「1 生活習慣の改善など市民一人ひとりの自主的な健康づくり活動」が最も多く、次いで「6 健康診断や各種検診の定期的な受診と内容の充実」、「7 安心して利用できる救急・医療環境」となっている。「二世帯」と「三世帯」では、「6 健康診断や各種検診の定期的な受診と内容の充実」が最も多く、次いで「1 生活習慣の改善など市民一人ひとりの自主的な健康づくり活動」となっている。

性別 n=1162 年齢 n=1154		1 生活習慣の改善など市民一人ひとりの自主的な健康づくり活動	2 公園やジョギングロードなどの健康づくりができる施設の充実	3 仲間と健康づくりに取り組める機会の充実	4 健康づくりの情報提供や学習・相談機会の充実	5 保健所や保健センターなどの保健サービス拠点施設の整備	6 健康診断や各種検診の定期的な受診と内容の充実	7 安心して利用できる救急・医療環境	8 食品や医薬品の安全性の確保	9 新型コロナウイルスなどの感染症等の発生予防とまん延防止	10 その他
合計		52.5	32.1	23.2	14.2	14.6	49.7	42.8	21.1	15.7	0.8
性別	男性(501)	53.7	36.3	23.0	14.0	17.8	46.3	45.3	19.8	14.4	0.8
	女性(629)	53.1	30.4	23.8	15.4	12.6	54.4	43.1	22.9	17.3	0.8
年齢	16-19 歳 (40)	40.0	35.0	27.5	12.5	7.5	50.0	35.0	40.0	27.5	0.0
	20-29 歳 (101)	42.6	40.6	32.7	5.0	9.9	56.4	45.5	27.7	21.8	0.0
	30-39 歳 (146)	45.2	37.7	24.7	8.2	16.4	65.1	37.7	23.3	13.7	2.1
	40-49 歳 (178)	53.9	33.7	18.0	14.0	18.5	57.9	46.1	17.4	11.8	1.1
	50-59 歳 (182)	59.3	31.3	21.4	18.7	15.4	50.5	46.7	18.1	11.0	0.5
	60-64 歳 (124)	56.5	33.9	22.6	16.1	14.5	50.0	45.2	22.6	10.5	0.8
	65-69 歳 (106)	59.4	34.9	19.8	22.6	14.2	46.2	36.8	17.0	18.9	0.0
	70-74 歳 (117)	59.0	27.4	24.8	17.1	14.5	40.2	50.4	23.9	18.8	0.0
	75-79 歳 (73)	61.6	26.0	27.4	9.6	13.7	39.7	43.8	23.3	21.9	1.4
	80 歳以上 (87)	49.4	25.3	26.4	19.5	14.9	35.6	47.1	19.5	23.0	1.1

n=1151		1 生活習慣の改善など市民一人ひとりの自主的な健康づくり活動	2 公園やジョギングロードなどの健康づくりができる施設の充実	3 仲間と健康づくりに取り組める機会の充実	4 健康づくりの情報提供や学習・相談機会の充実	5 保健所や保健センターなどの保健サービス拠点施設の整備	6 健康診断や各種検診の定期的な受診と内容の充実	7 安心して利用できる救急・医療環境	8 食品や医薬品の安全性の確保	9 新型コロナウイルスなどの感染症等の発生予防とまん延防止	10 その他
家族構成	自分ひとり (124)	61.3	30.6	25.0	15.3	14.5	42.7	40.3	16.1	21.8	3.2
	夫婦のみ (317)	53.3	30.9	26.8	15.8	11.7	46.4	44.2	21.5	19.6	0.6
	二世世代 (親と子) (586)	51.9	34.3	20.5	14.2	16.6	53.4	45.9	23.4	12.5	0.5
	三世世代 (親と子と孫) (91)	51.6	37.4	29.7	12.1	16.5	53.8	35.2	22.0	18.7	0.0
	その他 (33)	63.6	24.2	21.2	15.2	12.1	60.6	45.5	18.2	24.2	0.0

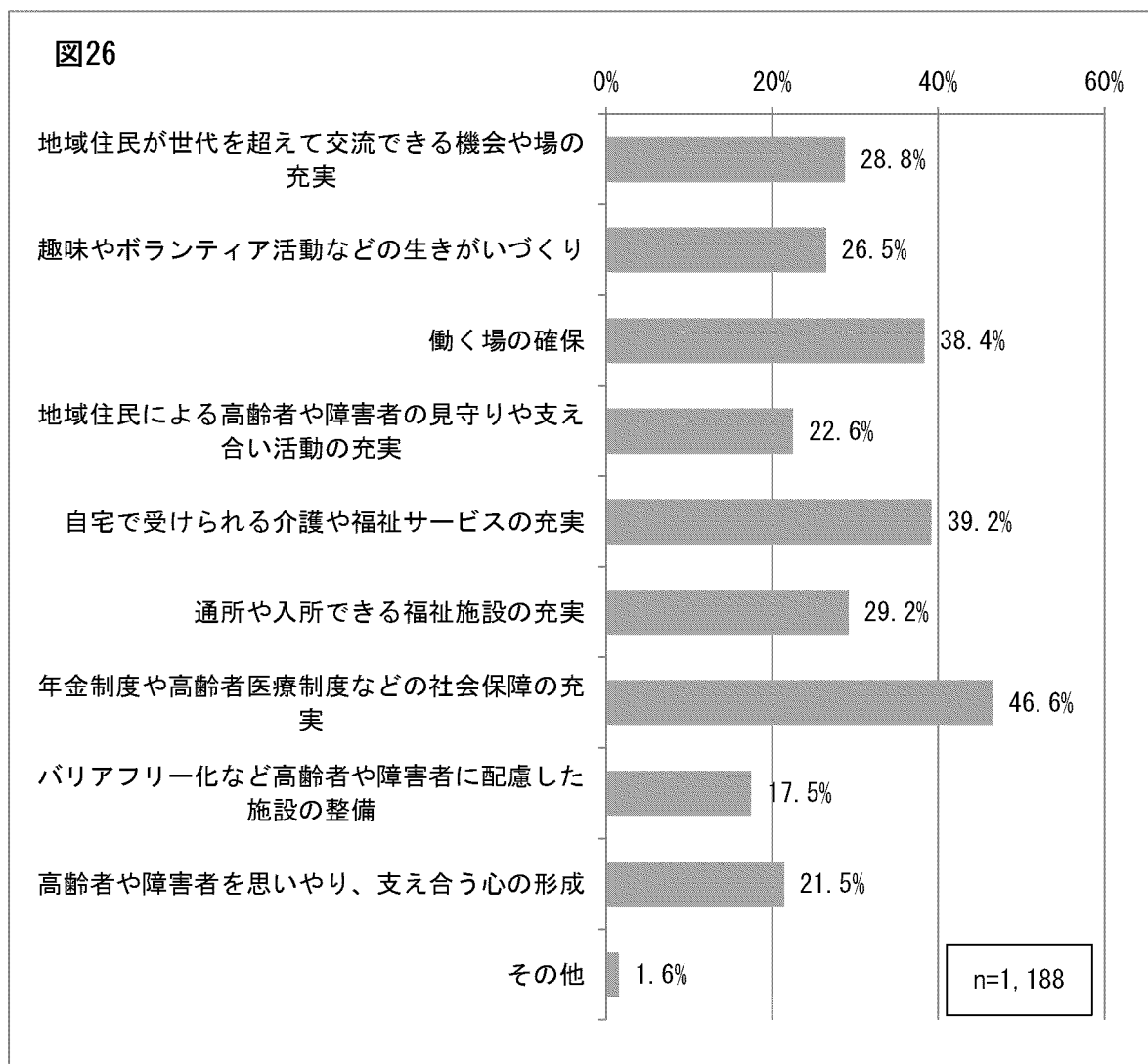
「1 生活習慣の改善など市民一人ひとりの自主的な健康づくり活動」を選んだうち、「健康づくりへの取り組みの有無」で「はい」(58.4%)は、「いいえ」(45.1%)より多くなっている。

「問 13 健康づくりへの取り組みの有無」で「いいえ」と答えた方は、「5 保健所や保健センターなどの保健サービス拠点施設の整備」と「6 健康診断や各種検診の定期的な受診と内容の充実」で、「はい」と答えた方より、4 ポイント以上多くなっている。

n=1147		問 25 生涯を通じて健康に暮らすためには									
		1 生活習慣の改善など市民一人ひとりの自主的な健康づくり活動	2 公園やジョギングロードなどの健康づくりができる施設の充実	3 仲間と健康づくりに取り組める機会の充実	4 健康づくりの情報提供や学習・相談機会の充実	5 保健所や保健センターなどの保健サービス拠点施設の整備	6 健康診断や各種検診の定期的な受診と内容の充実	7 安心して利用できる救急・医療環境	8 食品や医薬品の安全性の確保	9 新型コロナウイルスなどの感染症等の発生予防とまん延防止	10 その他
問 13 健康づくりへの取り組みの有無	はい (752)	58.4	34.4	25.4	16.0	13.7	49.1	42.3	20.2	16.2	0.9
	いいえ (395)	45.1	29.4	21.5	11.9	17.7	54.4	46.1	24.1	15.7	0.5
合計		53.8%	32.7	24.1	14.6	15.1	50.9	43.6	21.5	16.0	0.8

問26 あなたは、高齢者や障害者が住みなれた地域で充実した生活を送るためには、どのようなことが大切だと思いますか。

高齢者や障害者が地域で充実した生活を送るためには、「年金制度や高齢者医療制度などの社会保障の充実」が最も多く（46.6%）、次いで「自宅で受けられる介護や福祉サービスの充実」（39.2%）、「働く場の確保」（38.4%）となっている。



その他自由記入欄には19件の意見があった。

「タクシーの低料金」や「地域の無料巡回バスの設置」、「路面電車の活用」、「100円バスの導入の検討等」、公共交通機関の充実に関する意見が4件、行政運営の効率的な推進が1件であった。

年齢別にみると、10歳代から40歳代までの階層では「3働く場の確保」が最も多く、50歳代から「70-74歳」までの階層では「7年金制度や高齢者医療制度などの社会保障の充実」が最も多くなり、「75-79歳」及び「80歳以上」の階層では「5自宅で受けられる介護や福祉サービスの充実」が最も多くなっている。

また、20歳代から40歳代までの階層では、「4地域住民による高齢者や障害者の見守りや支え合い活動の充実」の割合が低くなっており（13.9～18.0%）、40歳代から「80歳以上」までの階層では「70-74歳」を除き、「8バリアフリー化など高齢者や障害者に配慮した施設の整備」が少なくなっている（11.4～18.3%）。

年齢 n=1149 家族構成 n=1146		1 地域住民が世代を超えて交流できる機会や場の充実	2 趣味やボランティア活動などの生きがいがづくり	3 働く場の確保	4 地域住民による高齢者や障害者の見守りや支え合い活動の充実	5 自宅で受けられる介護や福祉サービスの充実	6 通所や入所できる福祉施設の充実	7 年金制度や高齢者医療制度などの社会保障の充実	8 バリアフリー化など高齢者や障害者に配慮した施設の整備	9 高齢者や障害者を思いやり、支え合う心の形成	10 その他
合計		28.8	26.5	38.4	22.6	39.2	29.2	46.6	17.5	21.5	1.6
年齢	16-19歳 (39)	20.5	41.0	53.8	23.1	30.8	15.4	38.5	30.8	25.6	0.0
	20-29歳 (101)	35.6	35.6	47.5	13.9	33.7	16.8	33.7	33.7	28.7	1.0
	30-39歳 (146)	26.7	33.6	56.2	17.8	33.6	26.0	39.7	20.5	19.9	3.4
	40-49歳 (178)	29.2	30.9	53.9	18.0	38.8	28.7	36.0	15.7	19.7	2.8
	50-59歳 (180)	22.8	23.3	45.0	21.1	38.3	41.7	52.8	18.3	18.3	2.8
	60-64歳 (124)	26.6	24.2	40.3	20.2	39.5	29.0	63.7	16.1	24.2	0.8
	65-69歳 (105)	38.1	26.7	25.7	26.7	47.6	25.7	57.1	11.4	15.2	1.9
	70-74歳 (119)	42.6	40.6	32.7	5.0	9.9	56.4	45.5	27.7	21.8	0.0
	75-79歳 (72)	30.6	20.8	15.3	47.2	48.6	38.9	45.8	12.5	26.4	0.0
	80歳以上 (85)	27.1	18.8	10.6	34.1	54.1	34.1	49.4	15.3	27.1	0.0
家族構成	自分ひとり (121)	42.6	40.6	32.7	5.0	9.9	56.4	45.5	27.7	21.8	0.0
	夫婦のみ (314)	32.2	22.6	26.4	25.8	45.2	32.5	53.2	17.2	24.2	1.0
	二世帯(親と子) (585)	28.2	29.4	46.5	20.5	37.4	28.7	46.7	18.6	21.4	1.9
	三世帯(親と子と孫) (93)	26.9	22.6	48.4	23.7	38.7	29.0	48.4	18.3	24.7	0.0
	その他 (33)	18.2	42.4	51.5	24.2	33.3	33.3	57.6	15.2	18.2	3.0

「問 11 身近で相談できる人の有無」について、「はい」「いいえ」のいずれも「7 年金制度や高齢者医療制度などの社会保障の充実」「5 自宅で受けられる介護や福祉サービスの充実」「3 働く場の確保」が上位を占めている。

「はい」「いいえ」と答えた方の中で大きな差異は認められなかった。

n=1143		問 26 高齢者や障害者が住み慣れた地域で充実した生活を送るためには									
		1 地域住民が世代を超えて交流できる機会や場の充実	2 趣味やボランティア活動などの生きがいづくり	3 働く場の確保	4 地域住民による高齢者や障害者の見守りや支え合い活動の充実	5 自宅で受けられる介護や福祉サービスの充実	6 通所や入所できる福祉施設の充実	7 年金制度や高齢者医療制度などの社会保障の充実	8 バリアフリー化など高齢者や障害者に配慮した施設の整備	9 高齢者や障害者を思いやり、支え合う心の形成	10 その他
問 11 身近で相談できる人の有無	はい (933)	29.6	27.9	39.9	22.9	41.1	29.7	47.1	18.4	22.4	1.3
	いいえ (210)	31.0	25.7	37.6	23.8	37.6	30.5	51.4	17.1	19.0	3.3
合計		29.8	27.5	39.5	23.1	40.4	29.8	47.9	18.2	21.8	1.7

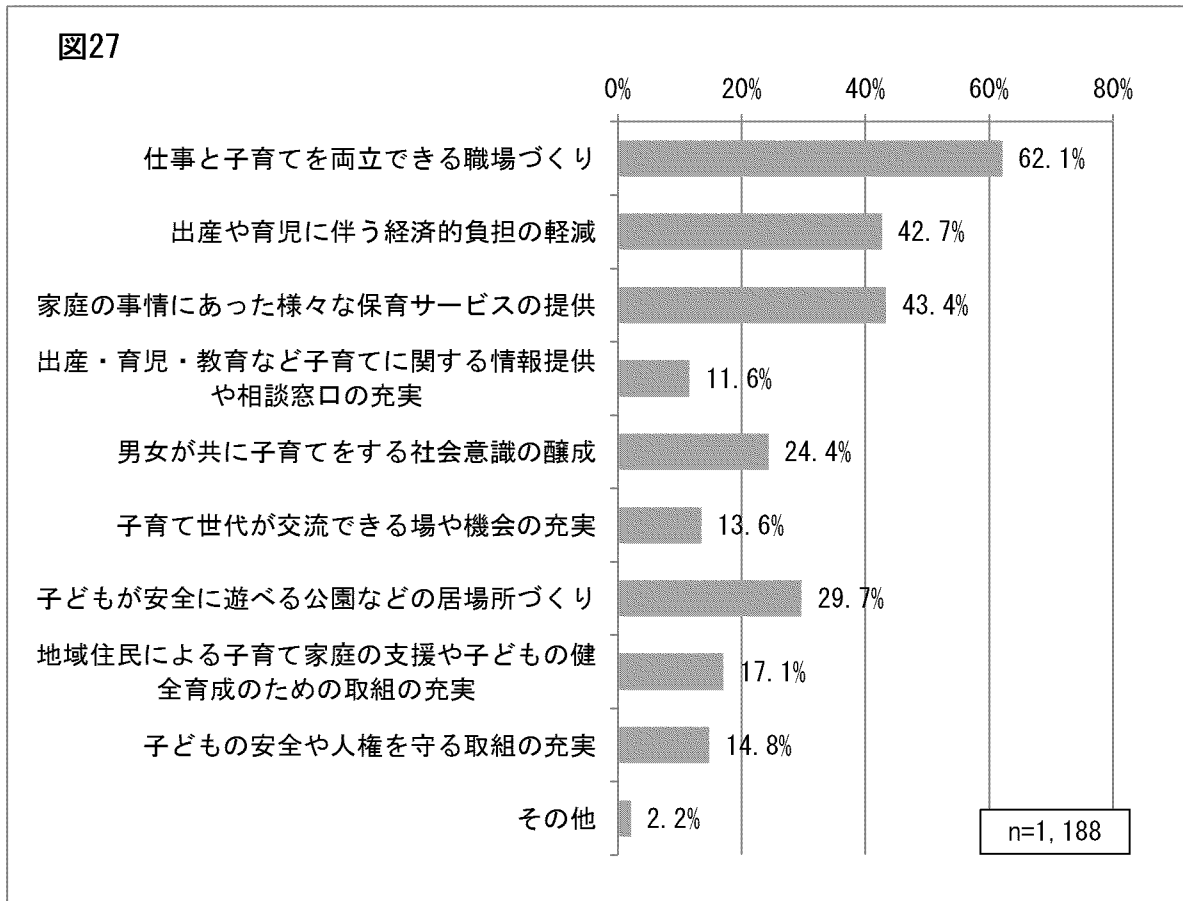
「問 14 高齢者が充実して生活を送れているか」について、「はい」「いいえ」のいずれも「7 年金制度や高齢者医療制度などの社会保障の充実」が最も多くなっており、特に「いいえ」が7ポイント以上多くなっている。

また同じように、「3 働く場の確保」と答えた方のうち「いいえ」が、7ポイント以上多くなっている。

n=1118		問 26 高齢者や障害者が住み慣れた地域で充実した生活を送るためには									
		1 地域住民が世代を超えて交流できる機会や場の充実	2 趣味やボランティア活動などの生きがいづくり	3 働く場の確保	4 地域住民による高齢者や障害者の見守りや支え合い活動の充実	5 自宅で受けられる介護や福祉サービスの充実	6 通所や入所できる福祉施設の充実	7 年金制度や高齢者医療制度などの社会保障の充実	8 バリアフリー化など高齢者や障害者に配慮した施設の整備	9 高齢者や障害者を思いやり、支え合う心の形成	10 その他
問 14 高齢者が充実した生活を送れているか	はい (549)	32.4	31.9	35.5	24.6	40.3	29.5	43.9	16.2	23.5	0.5
	いいえ (569)	27.1	23.2	42.9	22.3	41.3	30.1	51.7	20.0	20.2	2.8
合計		29.7	27.5	39.3	23.4	40.8	29.8	47.9	18.2	21.8	1.7

問27 あなたは、子育て世代が安心して子育てするためには、どのようなことが大切だと思いますか。

子育て世代が安心して子育てするために大切なことは、「仕事と子育てを両立できる職場づくり」が最も多く（62.1%）、次いで「家庭の事情にあった様々な保育サービスの提供」（43.4%）、「出産や育児に伴う経済的負担の軽減」（42.7%）となっている。



その他自由記入欄には26件の意見があった。

「病気の子どもを低料金で預かってくれる場所、看護師さんが常駐していて急変時にも対応してくれるところ。」や「子供が風邪のときに預かって戴けるところ。百日咳、発疹の時は本当に困る」等、保育サービスの充実に関するものが4件、「共働きせずとも生活できること」や「景気上昇に伴う共働き数の減少」等、家庭での育児に関するものが4件、「男性がもっと有休をとれるようにする」などの父親が育児出来る環境づくりに関するものが2件、教育関係者の質の向上が2件、「子どもを育てた経験が無いのでよくわからない。」「子どもがいないのでわからない」などの子育てに関わっていないという意見が3件などであった。

「年齢別」、「同居の子ども（18歳以下）の有無別」、「同居の子どもの学年別」のどの分類においても、「1 仕事と子育てを両立できる職場づくり」が最も多い。

年齢別にみると、20歳代から「70-74歳」では、「2 出産や育児に伴う経済的負担の軽減」、「3 家庭の事情にあった様々な保育サービスの提供」が第2位または第3位となっている。

「同居の子ども（18歳以下）の有無」では、「子ども有」の方が「2 出産や育児に伴う経済的負担の軽減」「7 子どもが安全に遊べる公園などの居場所づくり」で、「子ども無」の方より10ポイント程度多くなっている。

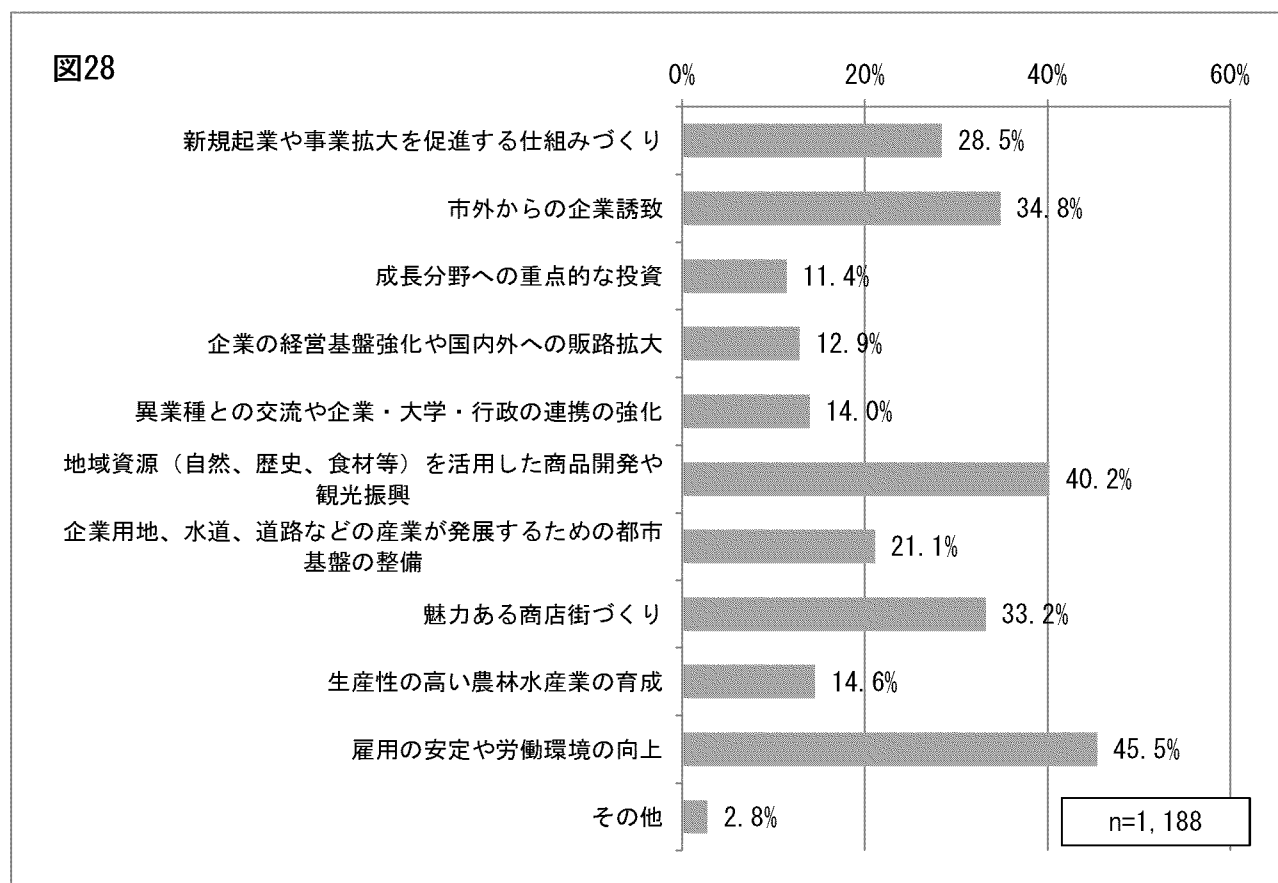
同居の子どもの学年別にみると、子供が小学生では「2 出産や育児に伴う経済的負担の軽減」が第1位となっている。第3位は子どもの学年により異なり、子どもが中学生以上では、「3 家庭の事情にあった様々な保育サービスの提供」、小学生以下では「7 子どもが安全に遊べる公園などの居場所づくり」となっている。

n=1133		1 仕事と子育てを両立できる職場づくり	2 出産や育児に伴う経済的負担の軽減	3 家庭の事情にあった様々な保育サービスの提供	4 出産・育児・教育など子育てに関する情報提供や相談窓口の充実	5 男女が共に子育てをする社会意識の醸成	6 子育て世代が交流できる場や機会の充実	7 子どもが安全に遊べる公園などの居場所づくり	8 地域住民による子育て家庭の支援や子どもの健全育成のための取組の充実	9 子どもや人権を守る取組の充実	10 その他
合計		62.1	42.7	43.4	11.6	24.4	13.6	29.7	17.1	14.8	2.2
年齢	16-19歳(40)	62.5	55.0	30.0	20.0	27.5	15.0	42.5	7.5	17.5	2.5
	20-29歳(101)	75.2	58.4	35.6	12.9	32.7	14.9	27.7	8.9	14.9	1.0
	30-39歳(145)	66.9	58.6	42.8	9.7	29.0	15.9	38.6	11.0	9.7	2.8
	40-49歳(175)	61.7	48.6	44.0	9.7	25.1	12.0	34.3	17.7	12.0	3.4
	50-59歳(181)	64.6	37.6	53.0	13.8	28.2	9.9	24.9	17.1	15.5	3.3
	60-64歳(123)	63.4	44.7	55.3	11.4	18.7	14.6	29.3	22.0	13.0	1.6
	65-69歳(102)	65.7	40.2	45.1	12.7	19.6	18.6	23.5	20.6	18.6	2.0
	70-74歳(115)	62.6	33.0	45.2	14.8	27.8	15.7	23.5	31.3	19.1	0.9
	75-79歳(69)	62.3	34.8	49.3	8.7	21.7	20.3	37.7	21.7	18.8	1.4
80歳以上(82)	61.0	34.1	35.4	12.2	19.5	8.5	39.0	14.6	24.4	2.4	

同居の子どもの有無 n=1125 同居の子どもの学年 n=315		1 仕事と子育てを両立できる職場づくり	2 出産や育児に伴う経済的負担の軽減	3 家庭の事情にあった様々な保育サービスの提供	4 出産・育児・教育など子育てに関する情報提供や相談窓口の充実	5 男女が共に子育てをする社会意識の醸成	6 子育て世代が交流できる場や機会の充実	7 子どもが安全に遊ぶなどの居場所づくり	8 地域住民による子育て家庭の支援や子どもの健全育成のための取組の充実	9 子どもや人権を守る取組の充実	10 その他
同居の子ども（18歳以下）の有無	有(318)	61.3	51.6	43.7	9.7	26.7	13.2	39.0	15.1	11.3	2.2
	無(807)	65.7	41.8	45.6	13.0	24.9	14.3	28.0	18.8	17.1	2.4
同居の子どもの学年	就学前(0-5歳)の子ども(120)	60.8	55.0	44.2	8.3	38.3	12.5	45.8	10.0	9.2	0.8
	小学生の子ども(116)	56.9	57.8	36.2	10.3	22.4	14.7	41.4	19.0	13.8	1.7
	中学生の子ども(70)	57.1	55.7	48.6	10.0	20.0	12.9	35.7	17.1	11.4	1.4
	それ以外(高校生等)の子ども(99)	60.6	49.5	45.5	13.1	23.2	12.1	28.3	17.2	13.1	4.0

問28 あなたは、和歌山市の産業が活性化するためには、どのようなことが大切だと思いますか。

和歌山市の産業の活性化に大切なことは、「雇用の安定や労働環境の向上」が最も多く（45.5%）、次いで「地域資源（自然、歴史、食材等）を活用した商品開発や観光振興」（40.2%）、「市外からの企業誘致」（34.8%）となっている。また、「魅力ある商店街づくり」（33.2%）を求める声も多い。



その他自由記入欄には30件の意見があった。「和歌山のブランド化。例えば「くまもん」など突出したものを作る+アピール（スカイツリーなど・・・）和歌山にしかないものを作る。」や「ツイッターで和歌山市のアカウントを見ましたが、魅力を感じなかった。観光地のPRや最近あった目玉ニュース（パンダ出産やアイドルの大会で地元アイドル優勝）など発信してもいいと思う。」、「和歌浦を再開発し、観光資源を活用する」等、和歌山のブランド化、観光産業再建、PR強化に関するものが8件、大型ショッピングモールの誘致と駐車場整備に関するものが6件、「地産地消の仕組み作り」や「農協と市場の連携」、「地産地消についての教育（県産品）をわかりやすく表示する」などの地産地消に関するものが3件、教育機関新設、教育サービスの充実に関するものが3件、「道路の整備と観光スポットのパーキングの無料化と洋式トイレの設置」等、魅力的な観光基盤整備の充実が3件などであった。

男女別にみると、「男性」は「10 雇用の安定や労働環境の向上」が最も多く（42.0%）、「女性」は「7 企業用地、水道、道路などの産業が発展するための都市基盤の整備」が最も多くなっている（43.9%）。

年齢別にみると、「10雇用の安定や労働環境の向上」がすべての階層で第1位または第2位となっている。「40-49歳」及び「75-79歳」では「2市外からの企業誘致」が最も多く、「60-64歳」では、「6地域資源（自然、歴史、食材等）を活用した商品開発や観光振興」が最も多くなっている。

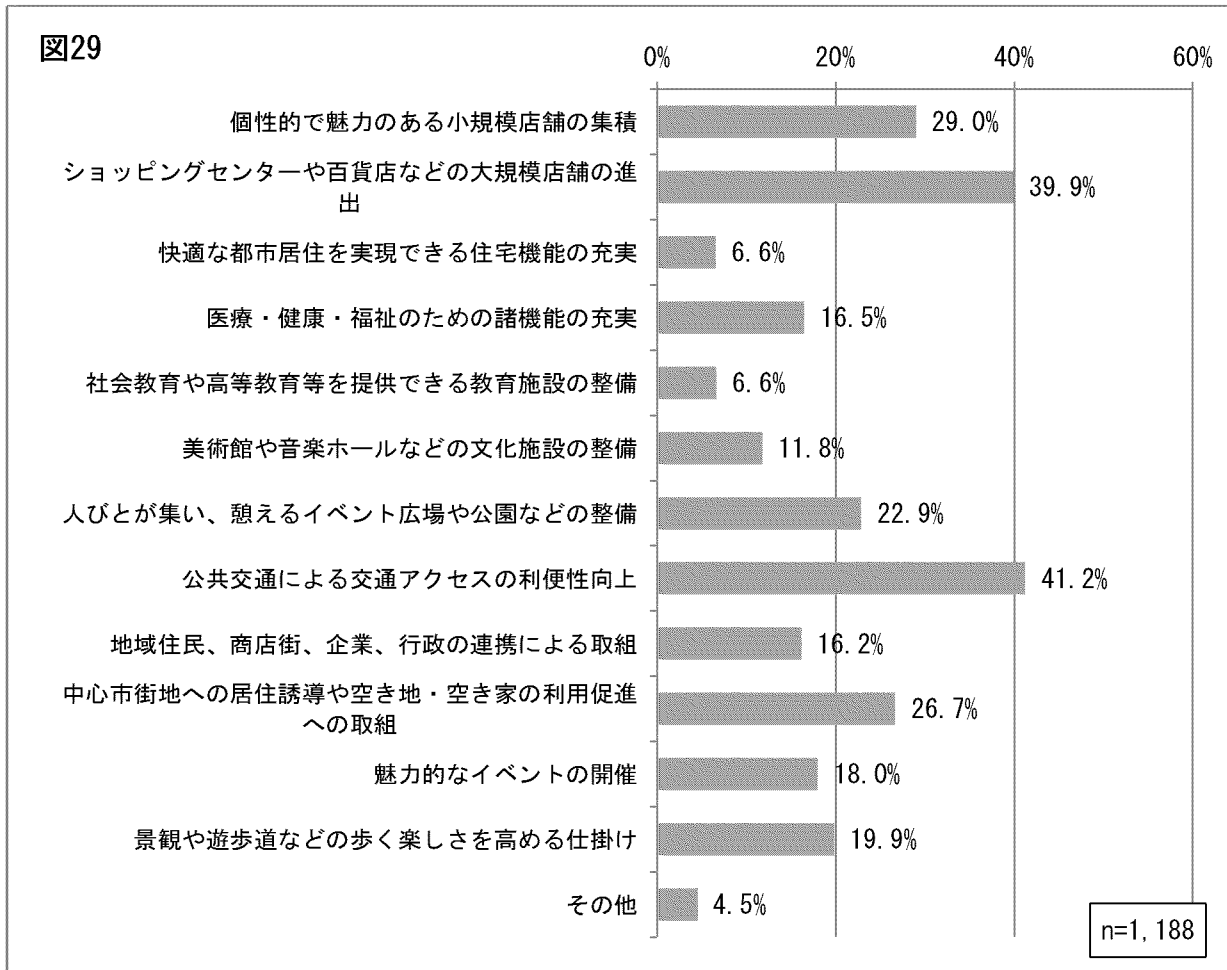
職業別にみると、「自営業（商工・サービス）」、「パート、アルバイト等」、「専業主婦（主夫）」、「学生」及び「無職（学生、家事専門を除く）」では、「10雇用の安定や労働環境の向上」が最も多く、「勤め人（会社員、団体職員など）」、「農林水産業」及び「公務員」では、「6地域資源（自然、歴史、食材等）を活用した商品開発や観光振興」が最も多くなっている。

		1新規 起業や 事業拡 大を促 進する 仕組み づくり	2市外か らの企業 誘致	3成長 分野へ の重点 的な投 資	4企業 の経営 基盤強 化や国 内外へ の販路 拡大	5異業 種との 交流や 企業・大 学・行政 の連携 の強化	6地域 資源（自 然、歴 史、食材 等）を活 用した 商品開 発や観 光振興	7企業用 地、水道、 道路など の産業が 発展する ための都 市基盤の 整備	8魅力 ある商 店街づ くり	9生産 性の高 い農林 水産業 の育成	10雇用 の安定 や労働 環境の 向上	11その 他
性別 n=1110 年齢 n=1133												
合計		28.5	34.8	11.4	12.9	14.0	40.2	21.1	33.2	14.6	45.5	2.8
性別	男性(493)	32.7	37.5	14.6	16.2	15.2	39.4	25.4	31.0	16.6	42.0	2.4
	女性(617)	32.4	31.9	35.5	24.6	40.3	29.5	43.9	16.2	23.5	0.5	3.2
年齢	16-19歳(38)	21.1	18.4	18.4	15.8	13.2	34.2	15.8	47.4	26.3	50.0	0.0
	20-29歳(101)	33.7	27.7	15.8	7.9	18.8	38.6	10.9	41.6	12.9	53.5	3.0
	30-39歳(146)	28.8	34.2	13.7	14.4	11.6	43.8	20.5	41.8	10.3	46.6	6.8
	40-49歳(174)	27.6	44.8	16.7	14.9	14.4	44.3	18.4	28.2	13.8	44.3	3.4
	50-59歳(181)	29.8	38.1	7.2	11.6	12.7	41.4	24.9	38.7	12.7	45.9	2.8
	60-64歳(123)	30.9	30.1	5.7	11.4	17.1	52.0	30.1	22.8	22.0	51.2	2.4
	65-69歳(104)	30.8	33.7	14.4	13.5	15.4	42.3	21.2	29.8	15.4	51.9	1.0
	70-74歳(116)	37.1	36.2	9.5	15.5	12.1	37.9	24.1	34.5	15.5	50.9	0.9
	75-79歳(70)	25.7	48.6	8.6	17.1	17.1	37.1	21.4	37.1	21.4	41.4	1.4
80歳以上(80)	23.8	37.5	15.0	16.3	17.5	33.8	28.8	36.3	12.5	38.8	2.5	

	1 新規 起業や 事業拡 大を促 進する 仕組み づくり	2 市外か らの企業 誘致	3 成長 分野へ の重点 的な投 資	4 企業 の経営 基盤強 化や国 内外へ の販路 拡大	5 異業 種との 交流や 企業・大 学・行政 の連携 の強化	6 地域 資源（自 然、歴 史、食材 等）を活 用した 商品開 発や観 光振興	7 企業用 地、水道、 道路など の産業が 発展する ための都 市基盤の 整備	8 魅力 ある商 店街づ くり	9 生産 性の高 い農林 水産業 の育成	10 雇用 の安定 や労働 環境の 向上	11 その 他	
n=1124												
職業	勤め人(会社員、 団体職員な ど)(261)	31.8	39.1	12.3	15.7	10.7	45.2	23.8	33.0	13.0	44.8	3.8
	自営業(商工・サ ービス)(66)	37.9	31.8	18.2	13.6	16.7	36.4	27.3	27.3	21.2	37.9	0.0
	農林水産業(15)	26.7	40.0	6.7	6.7	13.3	60.0	26.7	6.7	40.0	40.0	6.7
	公務員(46)	19.6	32.6	17.4	15.2	6.5	47.8	15.2	45.7	15.2	45.7	10.9
	パート、アルバイト等(151)	29.1	35.8	9.3	8.6	17.2	43.0	21.2	41.1	5.3	53.6	2.6
	専業主婦(主 夫)(252)	29.0	34.9	10.7	11.9	13.1	44.8	21.8	34.5	16.3	49.6	2.0
	学生(57)	28.1	26.3	19.3	15.8	15.8	29.8	12.3	38.6	26.3	50.9	0.0
	無職(学生、家事 専業を除 く)(211)	29.9	38.4	10.9	15.6	18.5	37.9	23.7	30.8	16.1	47.4	1.9
	その他(65)	23.1	41.5	10.8	10.8	18.5	33.8	20.0	44.6	16.9	43.1	4.6

問29 あなたは、和歌山市の中心市街地（JR和歌山駅・和歌山城・南海和歌山市駅にかけてのエリア）をもっと魅力的な空間にするためには、どのようなことが大切だと思いますか。

和歌山市の中心市街地（JR和歌山駅・和歌山城・南海和歌山市駅にかけてのエリア）をもっと魅力的な空間にするために大切なことは、「公共交通による交通アクセスの利便性向上」が最も多く（41.2%）、次いで「ショッピングセンターや百貨店などの大規模店舗の進出」（39.9%）、「個性的で魅力のある小規模店舗の集積」（29.0%）となっている。



その他自由記入欄には54件の意見があった。

「地下駐車場の整備、駐車場の拡充と買い物客に対するリピーター策の検討」や、「巨大なパーキング（無料）どんな店がきても無料パーキングがないと行かないことが多い。」、「ぶらくり丁周辺の駐車場を土・日のみ1～2時間無料で車をおくことができるようになるともっと皆が出かけてにぎわいを見せると思う」など、無料が格安駐車場の整備拡大に関する意見が22件、「景観（独自の）を強化。」や「城下町づくりといったテーマを設けることでふるさとの魅力を引き出してほしい。」、「市堀川を有効活用した取り組み。例えば、道頓堀のようなクルーズ船を走らせるなど、川をきれいにして活かす取り組み」等、観光スポットの改善・開発に関する意見が4件、「マリーナや和歌浦などを含め和歌山市を大きく一周する鉄道路線が欲しい。又は、チンチン電車等の路面電車の復活」など交通機関に関する意見が3件、商業施設の充実に関するもの3件などであった。

年齢別にみると、10歳代から30歳代及び「80歳以上」では、「2 ショッピングセンターや百貨店などの大規模店舗の進出」が最も多く、40歳代から「70-74歳」では、「8 公共交通による交通アクセスの利便性向上」が最も多くなっている。また「75-79歳」では、「10 中心市街地への居住誘導や空き地・空き家の利用促進への取組」が最も多くなっている。

職業別にみると、すべての階層において「2 ショッピングセンターや百貨店などの大規模店舗の進出」、「8 公共交通による交通アクセスの利便性向上」が上位を占めている。

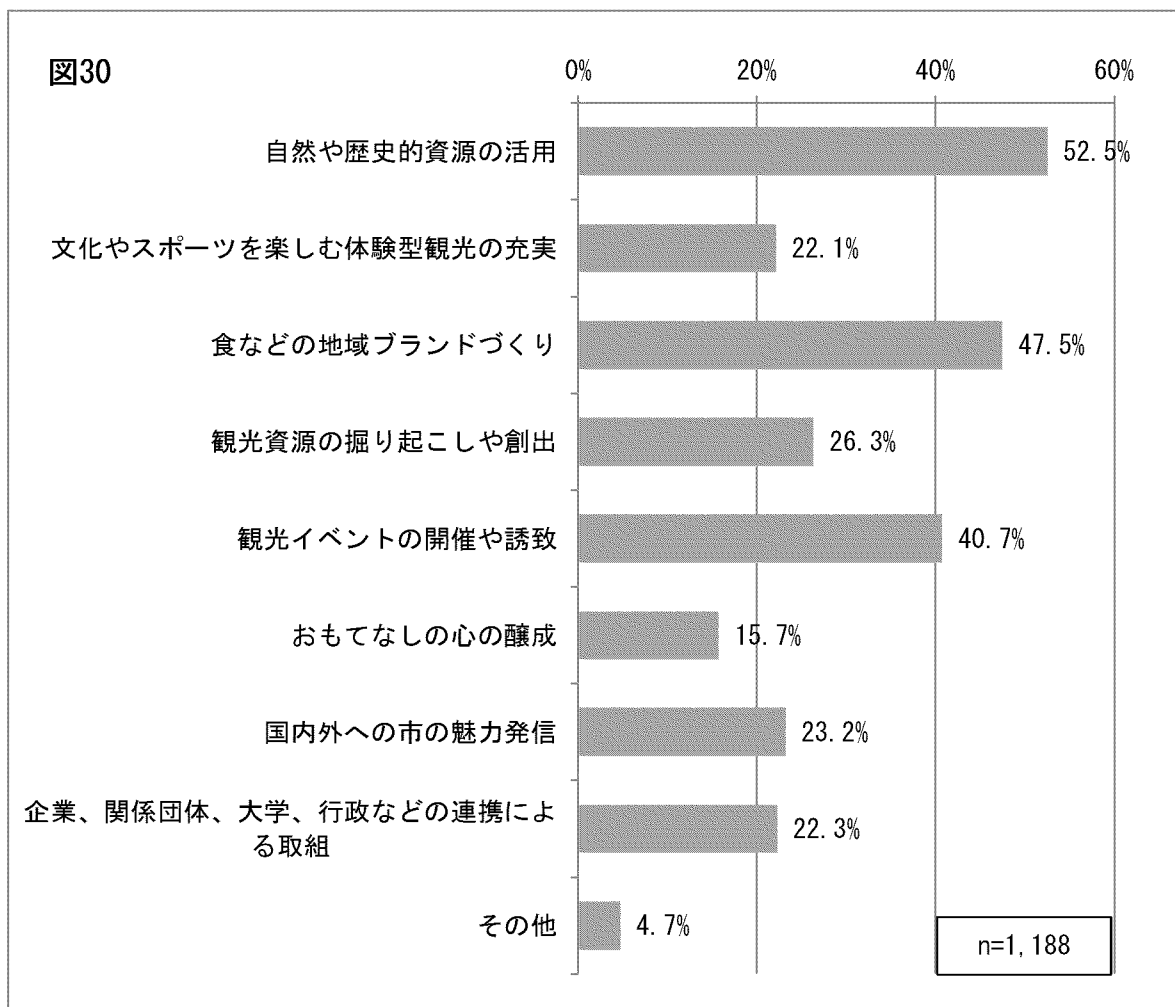
居住地域別にみると、「中心部（旧市）」及び「北東部」では、「2 ショッピングセンターや百貨店などの大規模店舗の進出」が最も多く、それ以外の地域では、「8 公共交通による交通アクセスの利便性向上」が最も多くなっている。

n=1135		1 個性的で魅力的な小規模店舗の集積	2 ショッピングセンターや百貨店などの大規模店舗の進出	3 快適な都市居住を実現できる住宅機能の充実	4 医療・健康・福祉のための諸機能の充実	5 社会教育や高等教育を提供できる教育施設の整備	6 美術館や音楽ホールなどの文化施設の整備	7 人びとが集い、憩えるイベント広場や公園などの整備	8 公共交通による交通アクセスの利便性向上	9 地域住民、商店街、企業、行政の連携による取組	10 中心市街地への居住誘導や空き地・空き家の利用促進への取組	11 魅力的なイベントの開催	12 景観や遊歩道などの歩く楽しさを高める仕掛け	13 その他
合計		29.0	39.9	6.6	16.5	6.6	11.8	22.9	41.2	16.2	26.7	18.0	19.9	4.5
年齢	16-19歳 (39)	28.2	56.4	10.3	15.4	7.7	12.8	25.6	41.0	2.6	10.3	38.5	20.5	5.1
	20-29歳 (99)	26.3	54.5	7.1	7.1	6.1	13.1	25.3	41.4	7.1	23.2	32.3	21.2	8.1
	30-39歳 (146)	30.8	60.3	1.4	8.9	6.8	13.0	24.0	39.0	13.0	21.9	26.7	21.2	3.4
	40-49歳 (174)	27.0	46.0	5.7	13.2	8.6	13.8	16.7	51.7	10.9	27.0	20.1	20.1	8.6
	50-59歳 (180)	29.4	38.3	8.3	15.6	6.1	18.9	25.6	39.4	20.0	24.4	20.0	16.7	3.9
	60-64歳 (122)	33.6	36.1	9.8	13.9	9.0	10.7	21.3	45.1	27.0	27.9	18.0	17.2	5.7
	65-69歳 (105)	33.3	22.9	10.5	24.8	6.7	4.8	27.6	44.8	20.0	37.1	12.4	27.6	2.9
	70-74歳 (117)	35.0	31.6	5.1	28.2	4.3	9.4	23.1	53.0	17.1	36.8	7.7	21.4	0.9
	75-79歳 (70)	31.4	32.9	7.1	28.6	1.4	8.6	31.4	25.7	24.3	44.3	5.7	24.3	2.9
	80歳以上 (83)	26.5	38.6	7.2	26.5	10.8	8.4	25.3	34.9	20.5	20.5	9.6	19.3	4.8

職業 n=1124 居住地区 n=1084		1 個性的魅力のある小規模店舗の集積	2 ショッピングセンターや百貨店などの大規模店舗の進出	3 快適な都市居住をできる住宅機能の充実	4 医療・健康・福祉のための諸機能の充実	5 社会や教育を高めるための教育施設等の整備	6 美術館やホールなどの文化施設の整備	7 人が集まり憩えるイベントや公園などの整備	8 公共交通によるアクセスの利便性向上	9 地域住民、商店街、企業、行政の連携による取組	10 中心市街地への誘導や空き家の活用促進への取組	11 魅力的なイベントの開催	12 景観や遊歩道などの歩きたのめり高めを仕掛ける	13 その他
職業	勤め人(会社員、団体職員など)(261)	29.1	49.4	6.1	10.3	3.8	13.8	24.5	46.4	14.6	22.6	23.4	24.5	5.4
	自営業(商工・サービス)(64)	39.1	40.6	7.8	14.1	10.9	6.3	18.8	45.3	14.1	34.4	17.2	14.1	3.1
	農林水産業(16)	25.0	50.0	12.5	18.8	12.5	6.3	18.8	50.0	18.8	18.8	12.5	18.8	12.5
	公務員(49)	44.9	42.9	6.1	14.3	12.2	10.2	16.3	38.8	20.4	18.4	14.3	12.2	8.2
	パート、アルバイト等(148)	20.3	45.3	6.1	14.9	10.1	17.6	24.3	42.6	14.9	31.1	23.0	15.5	4.1
	専業主婦(主夫)(252)	34.9	35.7	4.4	19.8	4.0	13.1	21.8	42.9	19.4	34.1	15.9	23.8	2.0
	学生(57)	26.3	57.9	12.3	12.3	10.5	10.5	29.8	42.1	3.5	10.5	35.1	15.8	7.0
	無職(学生、家事専業を除く)(211)	29.9	35.5	7.6	24.6	6.2	9.5	25.6	43.6	18.0	30.3	10.9	19.4	6.2
	その他(66)	30.3	30.3	10.6	22.7	10.6	9.1	31.8	25.8	27.3	24.2	16.7	21.2	6.1
居住地域	中心部(旧市)(115)	36.5	41.7	5.2	8.7	9.6	16.5	20.9	30.4	19.1	38.3	19.1	20.0	4.3
	中心部(旧市以外)(315)	30.2	41.3	8.3	15.9	5.1	12.4	26.7	45.1	15.9	24.4	19.7	23.8	3.8
	北西部(38)	34.2	36.8	5.3	18.4	2.6	18.4	18.4	39.5	15.8	15.8	26.3	36.8	7.9
	北部(289)	28.7	41.5	6.6	15.9	6.6	10.4	25.3	42.9	17.6	27.7	20.8	21.1	5.2
	臨海部(11)	9.1	63.6	0.0	18.2	9.1	0.0	18.2	81.8	27.3	27.3	0.0	0.0	18.2
	北東部(60)	30.0	40.0	8.3	25.0	1.7	13.3	18.3	38.3	21.7	28.3	11.7	16.7	5.0
	南部(91)	25.3	39.6	3.3	17.6	8.8	14.3	15.4	53.8	16.5	28.6	17.6	17.6	7.7
	南東部(106)	37.7	39.6	3.8	23.6	9.4	11.3	28.3	45.3	13.2	27.4	14.2	19.8	2.8
	東部(59)	27.1	47.5	10.2	15.3	11.9	5.1	20.3	49.2	16.9	25.4	22.0	13.6	6.8

問30 あなたは、多くの人に和歌山市を訪れてもらうためには、どのようなことが大切だと思いますか。

多くの人に和歌山市を訪れてもらうために大切なことは、「自然や歴史的資源の活用」が最も多く(52.5%)、次いで「食などの地域ブランドづくり」(47.5%)、「観光イベントの開催や誘致」(40.7%)となっている。



その他自由記入欄には 54 件の意見があった。

「公共交通機関（バス・電車）の本数を増やしてほしい。」や「大阪からの高速道路、電車の所要時間短縮」等、交通アクセスの向上と充実に関するものが 13 件、「境港にならいワンピースをぶらくり丁にもってくる。」、「誰からも好感が持てる人材をイメージキャラクターにする」等、イベント実施やイメージキャラクター採用に関するものが 6 件、「コストコなど遠くても行きたくなるような店舗誘致」等、大型ショッピングセンターなどの商業施設の充実に関するものが 6 件などであった。

年齢別にみると、30 歳代以下の階層では「3 食など地域ブランドづくり」が最も多く、40 歳代以上では「1 自然や歴史的資源の活用」が最も多くなっている。

職業別にみると、どの階層においても、「1 自然や歴史的資源の活用」、「3 食など地域ブランドづくり」が上位を占めている。また、「5 観光イベントの開催や誘致」を求める声も多い。

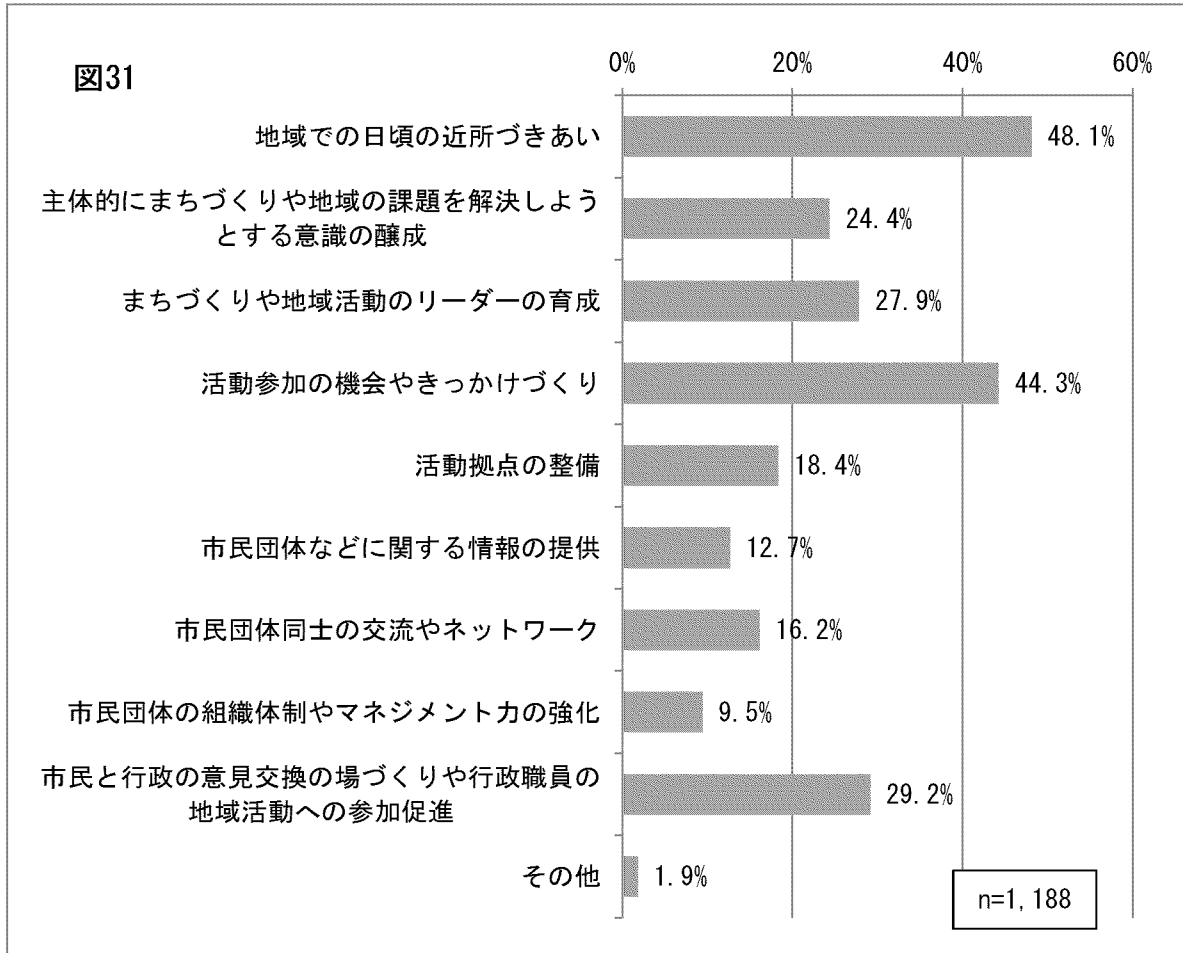
年齢 n=1138 職業 n=1128		1 自然や 歴史的資 源の活用	2 文化や スポーツ を楽しむ 体験型観 光の充実	3 食など の地域ブ ランドづ くり	4 観光資 源の掘り 起こしや 創出	5 観光イ ベントの 開催や誘 致	6 おもて なしの心 の醸成	7 国内外 への市の 魅力発信	8 企業、関 係団体、大 学、行政な どの連携 による取 組	9 その他
合計		52.5	22.1	47.5	26.3	40.7	15.7	23.2	22.3	4.7
年齢	16-19 歳 (40)	40.0	27.5	62.5	25.0	47.5	17.5	20.0	17.5	2.5
	20-29 歳 (101)	45.5	31.7	63.4	15.8	47.5	17.8	21.8	17.8	7.9
	30-39 歳 (146)	43.8	25.3	61.0	19.2	49.3	14.4	23.3	15.1	9.6
	40-49 歳 (177)	54.2	24.3	52.5	22.6	52.5	11.3	18.1	20.3	5.1
	50-59 歳 (182)	55.5	24.2	49.5	30.2	37.4	18.7	24.2	24.7	4.4
	60-64 歳 (122)	59.8	16.4	37.7	35.2	41.0	16.4	27.0	25.4	5.7
	65-69 歳 (103)	63.1	20.4	39.8	30.1	35.9	17.5	34.0	26.2	1.0
	70-74 歳 (116)	56.9	19.0	45.7	32.8	40.5	21.6	21.6	28.4	4.3
	75-79 歳 (68)	58.8	17.6	45.6	38.2	32.4	16.2	22.1	32.4	0.0
	80 歳以上 (83)	61.4	21.7	36.1	25.3	32.5	13.3	31.3	26.5	2.4
職業	勤め人(会社員、団体 職員など) (261)	55.6	23.0	53.6	24.1	49.8	16.1	24.9	18.4	5.7
	自営業(商工・サービ ス) (65)	61.5	23.1	43.1	29.2	36.9	15.4	26.2	15.4	3.1
	農林水産業 (16)	50.0	12.5	50.0	50.0	37.5	25.0	12.5	0.0	12.5
	公務員 (49)	55.1	30.6	57.1	40.8	26.5	10.2	12.2	16.3	12.2
	パート、アルバイト 等 (152)	44.1	21.1	55.9	22.4	50.0	15.8	23.0	23.7	5.9
	専業主婦(主 夫) (251)	57.0	21.1	51.4	24.7	39.8	17.5	24.3	25.5	3.2
	学生 (59)	35.6	30.5	59.3	30.5	44.1	10.2	22.0	23.7	5.1
	無職(学生、家事専業 を除く) (210)	61.0	22.4	38.1	31.9	39.0	16.2	27.1	25.2	2.9
	その他 (65)	55.4	21.5	40.0	27.7	29.2	21.5	16.9	44.6	7.7

「問 17 観光客の受け入れ体制が整っているか」の回答にかかわらず、「1 自然や歴史的資源の活用」が最も多く（「はい」52.9%、「いいえ」54.1%）、次いで「3 食などの地域ブランドづくり」（「はい」49.5%、「いいえ」49.7%）、「5 観光イベントの開催や誘致」（「はい」45.2%、「いいえ」41.8%）となっている。

		問 30 多くの人に和歌山市を訪れてもらうためには								
		1 自然や歴史的資源の活用	2 文化やスポーツを楽しむ体験型観光の充実	3 食などの地域ブランドづくり	4 観光資源の掘り起こしや創出	5 観光イベントの開催や誘致	6 おもてなしの心の醸成	7 国内外への市の魅力発信	8 企業、関係団体、大学、行政などの連携による取組	9 その他
n=1091										
問 17 観光客の受け入れ体制が整っているか	はい (208)	52.9	25.5	49.5	22.6	45.2	18.3	21.2	26.4	1.4
	いいえ (883)	54.1	22.3	49.7	28.9	41.8	15.9	24.9	22.5	5.8
合計		53.9	22.9	49.7	27.7	42.4	16.3	24.2	23.3	4.9

問3 1 あなたは、市民の主体的なまちづくりやコミュニティ活動などを充実させるためには、どのようなことが大切だと思いますか。

市民の主体的なまちづくりやコミュニティ活動などを充実させるために大切なことは、「地域での日頃の近所づきあい」が最も多く（48.1%）、次いで「活動参加の機会やきっかけづくり」（44.3%）、「市民と行政の意見交換の場づくりや行政職員の地域活動への参加促進」（29.2%）となっている。



その他自由記入欄には 19 件の意見があった。

「地域の公民館などでの催し」や「街づくりに関して、調査をすること。夢をもつこと。」、「公園、道路などへの投資と人が集まることが最も重要」などの意見があった。

男女別にみると、男女ともに「1 地域での日頃の近所づきあい」が最も多く（「男性」49.3%、「女性」50.7%）、次いで「4 活動参加の機会やきっかけづくり」（「男性」43.5%、「女性」48.0%）となっている。

年齢別にみると、10歳代及び30歳代から「60-64歳」では「4 活動参加の機会やきっかけづくり」が最も多く、20歳代及び「65-69歳」以上では「1 地域での日頃の近所づきあい」が最も多くなっている。

		1 地域での日頃の近所づきあい	2 主体的にまちづくりや地域の課題を解決しようとする意識の醸成	3 まちづくりや地域活動のリーダーの育成	4 活動参加の機会やきっかけづくり	5 活動拠点の整備	6 市民団体などに関する情報の提供	7 市民団体同士の交流やネットワーク	8 市民団体の組織体制やマネジメント力の強化	9 市民と行政の意見交換の場づくりや行政職員の地域活動への参加促進	10 その他
性別 n=1104 年齢 n=1128											
合計		48.1	24.4	27.9	44.3	18.4	12.7	16.2	9.5	29.2	1.9
性別	男性(481)	49.3	28.7	28.9	43.5	22.7	11.6	16.0	9.8	33.1	2.3
	女性(623)	50.7	22.8	29.4	48.0	16.4	14.8	17.5	10.4	27.8	1.8
年齢	16-19歳(39)	35.9	17.9	20.5	46.2	17.9	15.4	23.1	23.1	17.9	0.0
	20-29歳(100)	58.0	21.0	18.0	55.0	19.0	10.0	27.0	13.0	19.0	1.0
	30-39歳(146)	45.2	21.2	24.0	46.6	26.7	11.6	17.1	11.6	23.3	2.7
	40-49歳(174)	42.5	29.3	25.9	49.4	21.3	12.6	15.5	11.5	25.9	3.4
	50-59歳(180)	41.7	25.0	29.4	48.9	20.6	21.7	12.2	13.9	27.2	2.2
	60-64歳(119)	37.8	30.3	31.1	50.4	18.5	10.9	21.8	6.7	43.7	0.8
	65-69歳(105)	64.8	25.7	39.0	45.7	17.1	9.5	13.3	4.8	28.6	1.9
	70-74歳(117)	59.8	25.6	31.6	47.0	12.0	12.0	12.8	4.3	44.4	1.7
	75-79歳(68)	64.7	25.0	39.7	33.8	16.2	16.2	17.6	2.9	41.2	0.0
80歳以上(80)	67.5	25.0	33.8	22.5	16.3	10.0	18.8	11.3	33.8	2.5	

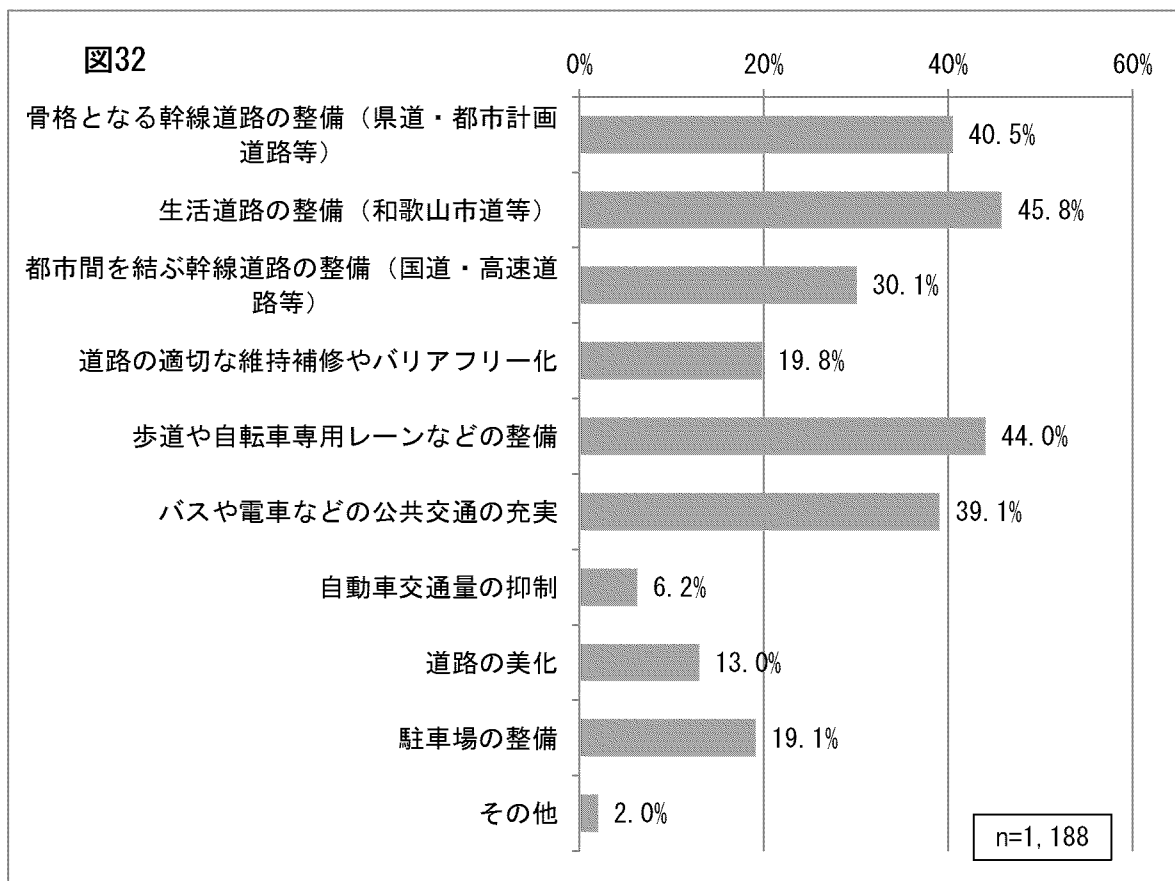
「問 12 市民公益活動等への参加の有無」の回答にかかわらず、「1 地域での日頃の近所づきあい」が最も多く（「はい」55.4%、「いいえ」49.3%）、次いで「4 活動参加の機会やきっかけづくり」（「はい」49.7%、「いいえ」45.8%）となっている。

「はい」については「3 まちづくりや地域活動のリーダーの育成」が、「いいえ」については「9 市民と行政の意見交換の場づくりや行政職員の地域活動への参加促進」がそれぞれ第 3 位となっている。

n=1130		問 31 市民の主体的なまちづくりやコミュニティ活動などを充実させるためには									
		1 地域での日頃の近所づきあい	2 主体的にまちづくりや地域の課題を解決しようとする意識の醸成	3 まちづくりや地域活動のリーダーの育成	4 活動参加の機会やきっかけづくり	5 活動拠点の整備	6 市民団体などに関する情報の提供	7 市民団体同士の交流やネットワーク	8 市民団体の組織体制やマネジメント力の強化	9 市民と行政の意見交換の場づくりや行政職員の地域活動への参加促進	10 その他
問 12 市民公益活動等への参加の有無	はい (177)	55.4	26.6	34.5	49.7	19.8	7.3	20.3	7.9	31.6	4.5
	いいえ (953)	49.3	25.4	28.2	45.8	18.9	14.5	16.4	10.4	30.2	1.5
合計		50.3	25.6	29.2	46.4	19.0	13.4	17.0	10.0	30.4	1.9

問32 あなたは、より快適な交通体系を構築するためには、どのようなことが大切だと思いますか。

より快適な交通体系を構築するために大切なことは、「生活道路の整備（和歌山市道等）」が最も多く（45.8%）、次いで「歩道や自転車専用レーンなどの整備」（44.0%）、「骨格となる幹線道路の整備（県道・都市計画道路等）」（40.5%）となっている。



その他自由記入欄には 24 件の意見があった。

「道路標示、交通標識見直し充実」など表示に関するものが 3 件、「新しい道路整備不要」など整備に関するものが 3 件、「複雑な交差点の改善」等交差点の渋滞改善が 2 件、交通マナーの啓発・周知が 2 件、「公共工事のたびに道路を掘り起こしてデコボコだらけのアスファルト、水、ガスなどまとめて工事して欲しい。」や「いらぬ工事はやめて欲しい。」等、計画的、効率的な道路工事に関するものが 2 件などであった。

年齢別にみると、10歳代、60歳代及び80歳以上では「5歩道や自転車専用レーンなどの整備」が、20歳代では「6バスや電車などの公共交通の充実」が、50歳代では「1骨格となる幹線道路の整備（県道・都市計画道路等）」が、30歳代、40歳代及び70歳代では「2生活道路の整備（和歌山市道等）」が最も多くなっている。

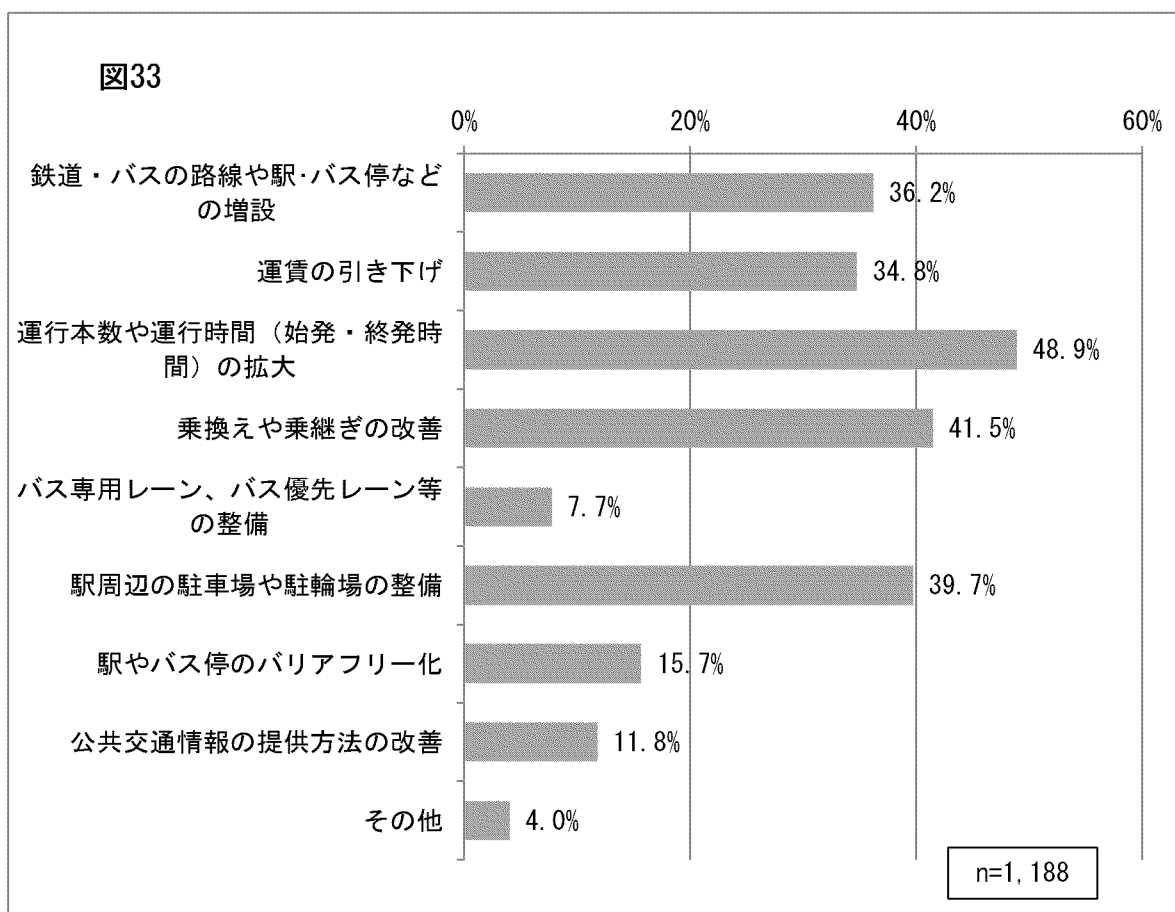
居住地域別にみると、「中心部（旧市）」では「5歩道や自転車専用レーンなどの整備」が、「北部」及び「南部」では「1骨格となる幹線道路の整備（県道・都市計画道路等）」が、「臨海部」では「6バスや電車などの公共交通の充実」が、その他の地域では「2生活道路の整備（和歌山市道等）」が最も多くなっている。

n=1138		1 骨格となる幹線道路の整備（県道・都市計画道路等）	2 生活道路の整備（和歌山市道等）	3 都市間を結ぶ幹線道路の整備（国道・高速道路等）	4 道路の適切な維持補修やバリアフリー化	5 歩道や自転車専用レーンなどの整備	6 バスや電車などの公共交通の充実	7 自動車交通量の抑制	8 道路の美化	9 駐車場の整備	10 その他
合計		40.5	45.8	30.1	19.8	44.0	39.1	6.2	13.0	19.1	2.0
年齢	16-19歳 (39)	41.0	41.0	23.1	38.5	43.6	38.5	2.6	20.5	10.3	2.6
	20-29歳 (100)	37.0	37.0	30.0	29.0	39.0	50.0	6.0	15.0	18.0	1.0
	30-39歳 (147)	46.9	48.3	28.6	20.4	40.1	41.5	6.1	12.9	24.5	2.0
	40-49歳 (175)	38.9	45.1	35.4	20.0	38.9	44.6	6.9	9.1	21.7	1.1
	50-59歳 (180)	47.8	43.9	40.6	15.6	38.9	41.7	6.7	12.2	17.2	2.8
	60-64歳 (122)	50.0	45.9	36.1	16.4	54.9	25.4	4.1	11.5	19.7	3.3
	65-69歳 (106)	41.5	49.1	25.5	17.9	50.0	41.5	5.7	16.0	22.6	0.9
	70-74歳 (117)	30.8	58.1	23.9	17.9	52.1	41.0	12.0	16.2	23.9	2.6
	75-79歳 (70)	42.9	57.1	25.7	25.7	54.3	35.7	2.9	11.4	14.3	1.4
80歳以上 (82)	36.6	50.0	25.6	23.2	53.7	43.9	7.3	15.9	15.9	3.7	

n=1088		1 骨格となる幹線道路の整備（県道・都市計画道路等）	2 生活道路の整備（和歌山市道等）	3 都市間を結ぶ幹線道路の整備（国道・高速道路等）	4 道路の適切な維持補修やバリアフリー化	5 歩道や自転車レーンなどの整備	6 バスや電車の公共交通の充実	7 自動車交通量の抑制	8 道路の美化	9 駐車場の整備	10 その他
居住地域	中心部（旧市）（114）	40.4	40.4	31.6	20.2	50.9	40.4	5.3	17.5	12.3	0.9
	中心部（旧市以外）（314）	40.4	52.5	26.1	17.5	49.7	40.4	5.7	16.6	18.5	1.9
	北西部（40）	35.0	50.0	22.5	22.5	45.0	37.5	7.5	15.0	27.5	5.0
	北部（290）	45.9	39.0	36.9	23.8	43.8	42.1	4.8	10.7	22.8	1.7
	臨海部（12）	16.7	41.7	16.7	33.3	41.7	66.7	8.3	8.3	25.0	8.3
	北東部（57）	40.4	50.9	35.1	24.6	40.4	35.1	10.5	3.5	21.1	1.8
	南部（91）	47.3	47.3	35.2	17.6	37.4	42.9	3.3	14.3	26.4	3.3
	南東部（110）	47.3	54.5	31.8	19.1	45.5	35.5	11.8	10.9	19.1	1.8
	東部（60）	41.7	60.0	26.7	23.3	40.0	38.3	3.3	15.0	11.7	1.7

問33 あなたは、より利用しやすい鉄道やバスなどの公共交通体系を構築するためには、どのようなことが大切だと思いますか。

より利用しやすい鉄道やバスなどの公共交通体系を構築するために大切なことは、「運行本数や運行時間（始発・終発時間）の拡大」が最も多く（48.9%）、次いで「乗換えや乗継ぎの改善」（41.5%）、「駅周辺の駐車場や駐輪場の整備」（39.7%）となっている。



その他自由記入欄には48件の意見があった。

「時間帯によりバスを燃費のいい小型バスにしてその分本数を増やしてほしい。」や「不便な地区はバス停を増やす。」、「残業すると帰りのバスがないことがある。休日夜遅く市内に戻ると、駅からのバスが終わっている。」、「店舗空白地域からのショッピングセンターへの直通バスの新設を考えてほしい」等バスの増便やバス路線の増設に関する意見が15件、「このままで良い。」など問題なしが4件、料金の均一化（市内）に関する意見が2件などであった。

年齢別にみると、20歳代、30歳代、50歳代、「60-64歳」、「70-74歳」及び「80歳以上」では「3運行本数や運行時間（始発・終発時間）の拡大」が最も多くなっている。10歳代では「2運賃の引き下げ」が、40歳代及び「65-69歳」では「4乗換えや乗継ぎの改善」が、「75-79歳」では「6駅周辺の駐車場や駐輪場の整備」が最も多くなっている。

居住地域別にみると、すべての地区で、「3運行本数や運行時間（始発・終発時間）の拡大」が第1位または第2位となっている。「北東部」及び「南東部」では、「6駅周辺の駐車場や駐輪場の整備」が最も多く、「東部」では、「4乗換えや乗継ぎの改善」が最も多くなっている。

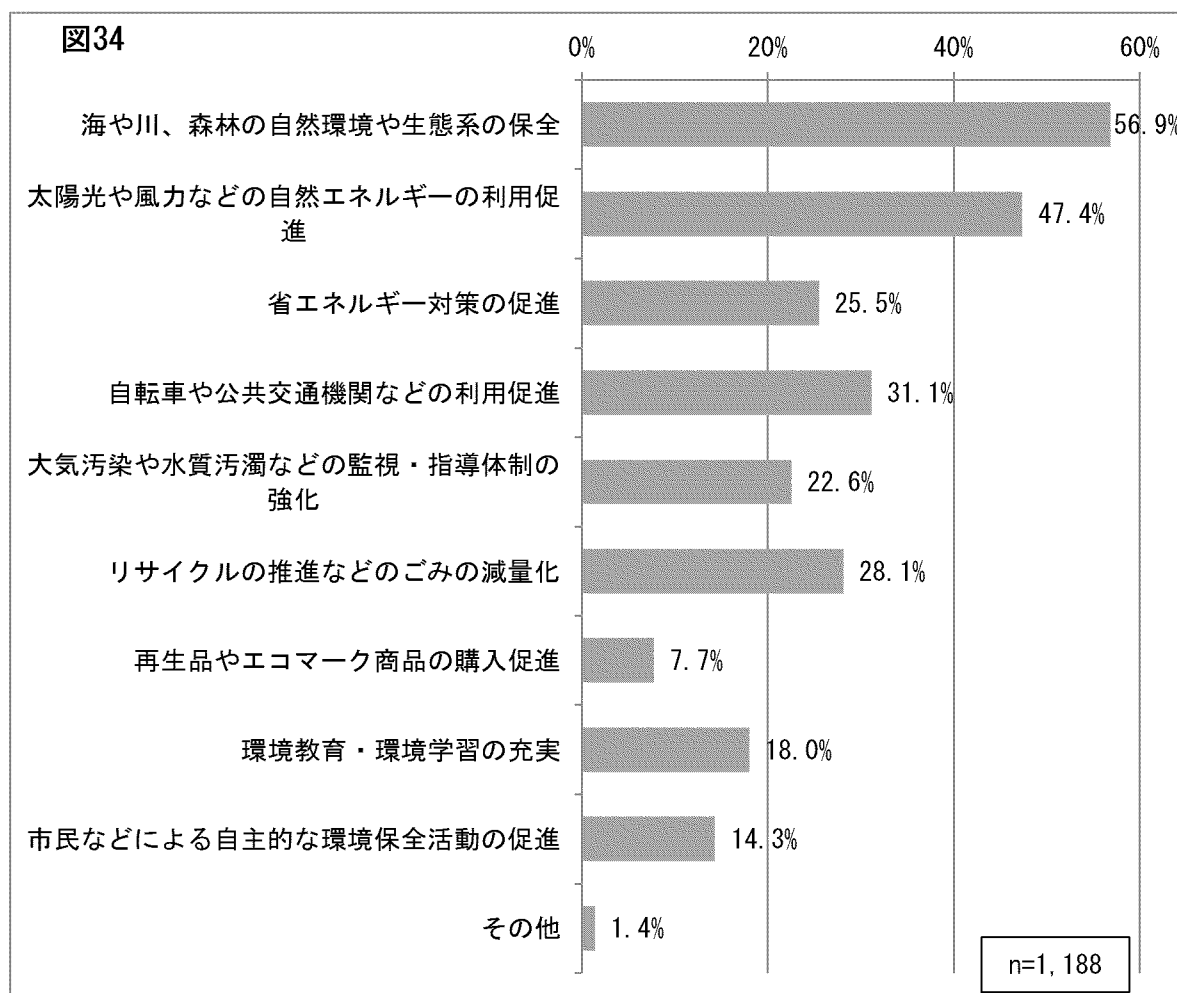
年齢 n=1127 居住地域 n=1081		1 鉄道・バスの路線や駅・バス停などの増設	2 運賃の引き下げ	3 運行本数や運行時間(始発・終発時間)の拡大	4 乗換えや乗継ぎの改善	5 バス専用レーン、バス優先レーン等の整備	6 駅周辺の駐車場や駐輪場の整備	7 駅やバス停のバリアフリー化	8 公共交通情報の提供方法の改善	9 その他
合計		36.2	34.8	48.9	41.5	7.7	39.7	15.7	11.8	4.0
年齢	16-19 歳 (40)	32.5	47.5	42.5	32.5	5.0	40.0	32.5	5.0	2.5
	20-29 歳 (101)	41.6	42.6	68.3	49.5	3.0	29.7	14.9	11.9	5.0
	30-39 歳 (143)	39.2	32.2	64.3	46.2	4.2	40.6	8.4	11.9	7.0
	40-49 歳 (171)	36.8	40.4	47.4	49.1	5.3	42.7	9.9	9.4	5.8
	50-59 歳 (181)	39.2	37.6	51.9	44.2	7.2	42.0	12.2	14.9	3.9
	60-64 歳 (120)	35.8	36.7	49.2	43.3	9.2	45.0	15.8	10.8	3.3
	65-69 歳 (103)	34.0	36.9	40.8	43.7	9.7	40.8	20.4	10.7	2.9
	70-74 歳 (118)	40.7	29.7	50.8	40.7	14.4	45.8	23.7	17.8	2.5
	75-79 歳 (69)	40.6	30.4	37.7	31.9	13.0	59.4	23.2	14.5	0.0
	80 歳以上 (81)	38.3	34.6	48.1	30.9	13.6	27.2	27.2	11.1	6.2
居住地域	中心部 (旧市) (116)	31.9	32.8	49.1	28.4	12.9	42.2	21.6	12.1	6.9
	中心部 (旧市以外) (312)	35.9	37.2	52.6	44.2	5.8	39.4	15.4	10.3	4.8
	北西部 (40)	45.0	27.5	55.0	42.5	0.0	50.0	7.5	7.5	10.0
	北部 (287)	42.5	37.6	50.9	46.3	8.4	40.1	16.7	13.2	2.8
	臨海部 (12)	41.7	41.7	75.0	25.0	8.3	33.3	8.3	25.0	8.3
	北東部 (55)	36.4	30.9	49.1	45.5	10.9	54.5	12.7	10.9	3.6
	南部 (92)	30.4	39.1	60.9	43.5	5.4	32.6	16.3	16.3	4.3
	南東部 (107)	42.1	40.2	43.0	43.0	9.3	50.5	16.8	14.0	3.7
	東部 (60)	41.7	28.3	50.0	60.0	10.0	41.7	15.0	10.0	1.7

「問 14 高齢者が充実した生活を送れているか」について「はい」と答えた方では、「3 運行本数や運行時間（始発・終発時間）の拡大」が最も多く（50.3%）、次いで「6 駅周辺の駐車場や駐輪場の整備」（44.2%）、「4 乗換えや乗継ぎの改善」（42.2%）となっている。また、「いいえ」と答えた方では、「3 運行本数や運行時間（始発・終発時間）の拡大」が最も多く（53.0%）、次いで「4 乗換えや乗継の改善」（45.1%）、「1 鉄道・バスの路線や駅・バス停などの増設」（40.6%）となっている。

		問 33 より利用しやすい公共交通体系 ⁹								
		1 鉄道・バスの路線や駅・バス停などの増設	2 運賃の引き下げ	3 運行本数や運行時間（始発・終発時間）の拡大	4 乗換えや乗継ぎの改善	5 バス専用レーン、バス優先レーン等の整備	6 駅周辺の駐車場や駐輪場の整備	7 駅やバス停のバリアフリー化	8 公共交通情報の提供方法の改善	9 その他
問 14 高齢者が充実した生活を送れているか	はい(543)	36.1	35.2	50.3	42.2	8.3	44.2	16.9	12.7	3.9
	いいえ(557)	40.6	38.1	53.0	45.1	7.9	39.3	16.2	11.3	4.5
合計		38.4	36.6	51.6	43.6	8.1	41.7	16.5	12.0	4.2

問34 あなたは、様々な環境問題に対応していくためには、どのようなことが大切だと思いますか。

様々な環境問題に対応していくために大切なことは、「海や川、森林の自然環境や生態系の保全」が最も多く（56.9%）、次いで「太陽光や風力などの自然エネルギーの利用促進」（47.4%）、「自転車や公共交通機関などの利用促進」（31.1%）となっている。



その他自由記入欄には16件の意見があった。

「 unnecessaryなものを買わないよう啓蒙する。」「無駄な食料を出さない（コンビニ、100円寿司の捨てる量など。）」「家庭での省エネのための具体例の説明」等エコや省エネ対策に関するものが3件などであった。

男女別にみると、男女ともに「1 海や川、森林の自然環境や生態系の保全」が最も多く（「男性」63.4%、「女性」56.0%）、次いで「2 太陽光や風力などの自然エネルギーの利用促進」（「男性」47.8%、「女性」50.6%）となっている。

年齢別にみると、10歳代及び40歳代以上では、「1 海や川、森林の自然環境や生態系の保全」が最も多く、20歳代及び30歳代では、「2 太陽光や風力などの自然エネルギーの利用促進」が最も多くなっている。

性別 n=1108 年齢 n=1132		1 海や川、森林の自然環境や生態系の保全	2 太陽光や風力などの自然エネルギーの利用促進	3 省エネルギー対策の促進	4 自転車や公共交通機関などの利用促進	5 大気汚染や水質汚濁などの監視・指導体制の強化	6 リサイクルの推進などのごみの減量化	7 再生品やエコマーク商品の購入促進	8 環境教育・環境学習の充実	9 市民などによる自主的な環境保全活動の促進	10 その他
合計		56.9	47.4	25.5	31.1	22.6	28.1	7.7	18.0	14.3	1.4
性別	男性 (487)	63.4	47.8	24.0	36.1	23.0	25.9	7.8	18.3	15.8	1.0
	女性 (621)	56.0	50.6	28.8	29.3	23.5	31.9	8.5	18.8	13.7	1.9
年齢	16-19 歳 (40)	57.5	55.0	30.0	22.5	17.5	25.0	5.0	30.0	15.0	0.0
	20-29 歳 (99)	54.5	57.6	27.3	27.3	23.2	25.3	7.1	24.2	16.2	4.0
	30-39 歳 (145)	53.8	57.9	33.8	26.9	21.4	29.0	9.0	21.4	11.0	2.1
	40-49 歳 (173)	57.8	50.3	29.5	32.4	20.8	28.3	9.2	17.3	9.8	1.2
	50-59 歳 (181)	65.2	48.6	24.9	27.1	23.8	28.7	9.4	18.8	14.4	1.1
	60-64 歳 (121)	64.5	42.1	27.3	28.9	33.9	28.9	7.4	14.0	14.9	0.0
	65-69 歳 (102)	58.8	51.0	24.5	35.3	22.5	27.5	5.9	20.6	15.7	3.9
	70-74 歳 (119)	58.0	46.2	25.2	48.7	26.1	30.3	5.9	16.0	16.8	0.0
	75-79 歳 (68)	63.2	48.5	20.6	36.8	19.1	36.8	13.2	10.3	20.6	1.5
	80 歳以上 (84)	57.1	38.1	16.7	38.1	21.4	34.5	7.1	20.2	22.6	1.2

「問 18 省エネなど環境保護を意識した行動の有無」にかかわらず、「1 海や川、森林の自然環境や生態系の保全」が最も多く（「はい」60.3%、「いいえ」53.4%）、次いで「2 太陽光や風力などの自然エネルギーの利用促進」（「はい」49.7%、「いいえ」49.8%）、「4 自転車や公共交通機関などの利用促進」（「はい」32.3%、「いいえ」31.4%）となっている。

n=1125		問 34 様々な環境問題に対応していくためには									
		1 海や川、森林の自然環境や生態系の保全	2 太陽光や風力などの自然エネルギーの利用促進	3 省エネルギー対策の促進	4 自転車や公共交通機関などの利用促進	5 大気汚染や水質汚濁などの監視・指導体制の強化	6 リサイクルの推進などのごみの減量化	7 再生品やエコマーク商品の購入促進	8 環境教育・環境学習の充実	9 市民などによる自主的な環境保全活動の促進	10 その他
問 18 省エネなど環境保護を意識した行動の有無	はい (902)	60.3	49.7	26.7	32.3	23.4	30.8	7.2	18.3	14.6	1.4
	いいえ (223)	53.4	49.8	26.5	31.4	25.1	22.4	12.1	21.5	15.7	1.8
合計		58.9	49.7	26.7	32.1	23.7	29.2	8.2	18.9	14.8	1.5

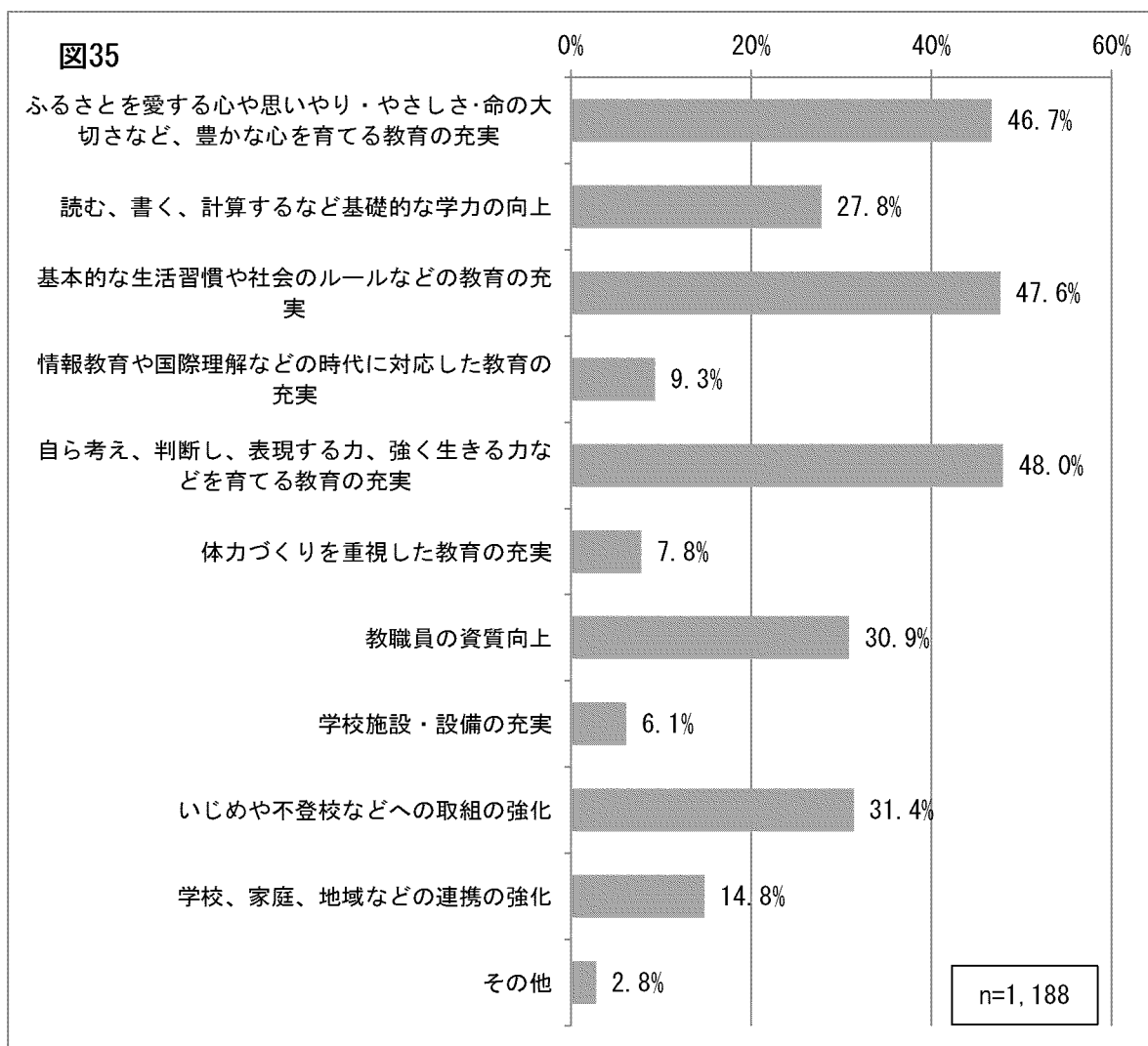
「問 19 資源リサイクルやごみ減量化への取り組みの有無」にかかわらず、「1 海や川、森林の自然環境や生態系の保全」が最も多く（「はい」59.2%、「いいえ」56.3%）、次いで「2 太陽光や風力などの自然エネルギーの利用促進」（「はい」49.6%、「いいえ」51.0%）となっている。

「はい」と答えた方では、「4 自転車や公共交通機関などの利用促進」が、「いいえ」と答えた方では、「8 環境教育・環境学習の充実」が第 3 位となっている。

n=1129		問 34 様々な環境問題に対応していくためには									
		1 海や川、森林の自然環境や生態系の保全	2 太陽光や風力などの自然エネルギーの利用促進	3 省エネルギー対策の促進	4 自転車や公共交通機関などの利用促進	5 大気汚染や水質汚濁などの監視・指導体制の強化	6 リサイクルの推進などのごみの減量化	7 再生品やエコマーク商品の購入促進	8 環境教育・環境学習の充実	9 市民などによる自主的な環境保全活動の促進	10 その他
問 19 資源リサイクルやごみ減量化への取り組みの有無	はい (1033)	59.2	49.6	26.5	33.0	23.2	30.4	7.6	18.0	15.0	1.5
	いいえ (96)	56.3	51.0	27.1	24.0	27.1	16.7	12.5	29.2	15.6	2.1
合計		59.0	49.7	26.6	32.2	23.6	29.2	8.0	19.0	15.1	1.5

問35 あなたは、学校教育を更に充実させるためには、どのようなことが大切だと思いますか。

学校教育をさらに充実させるために大切なことは、「自ら考え、判断し、表現する力、強く生きる力などを育てる教育の充実」が最も多く（48.0%）、次いで「基本的な生活習慣や社会のルールなどの教育の充実」（47.6%）、「ふるさとを愛する心や思いやり・やさしさ・命の大切さなど、豊かな心を育てる教育の充実」（46.7%）となっている。



その他自由記入欄には 33 件の意見があった。

「親が親たる自覚を持つこと。」や「親の子どもへのしつけの向上」等、正しくしつけする大切さ等に関する意見が 6 件、「親にも再教育の必要性あり。」や「家庭環境の向上」等、親（保護者）の教育や質、家庭における教育の向上に関するものが 4 件、ゆとり教育の廃止に関するものが 2 件、「私立、公立の差が失くなる努力がまず必要」や「教育行政の一本化」等、教育の格差是正や一本化に関するものが 2 件などであった。

年齢別にみると、10歳代、30歳代及び40歳代では「5自ら考え、判断し、表現する力、強く生きる力などを育てる教育の充実」が、20歳代、50歳代及び「60-64歳」では「3基本的な生活習慣や社会のルールなどの教育の充実」が最も多く、65歳以上では「1ふるさとを愛する心や思いやり・やさしさ・命の大切さなど、豊かな心を育てる教育の充実」となっている。

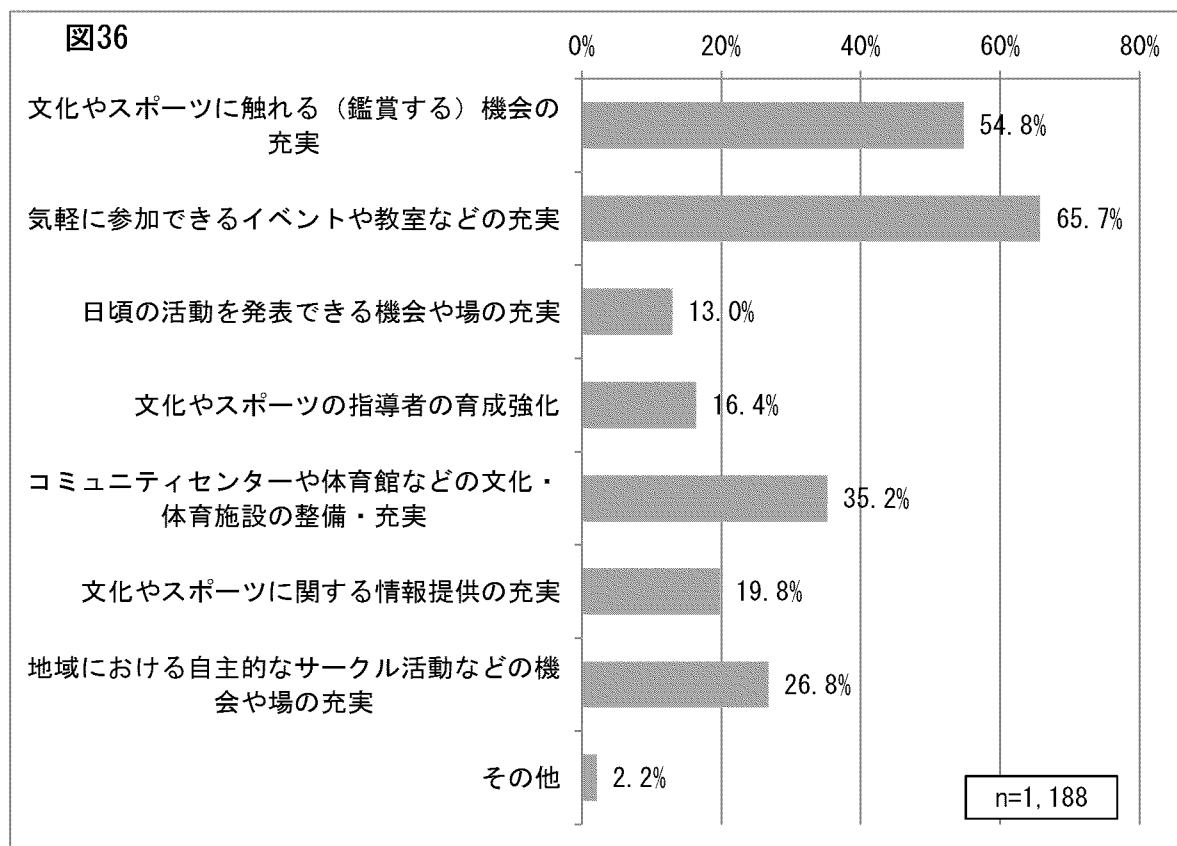
同居の子どもの有無別でみると、「有」と答えた方で最も多いのは、「5自ら考え、判断し、表現する力、強く生きる力などを育てる教育の充実」となっている。

年齢 n=1131		1ふるさとを愛する心や思いやり・やさしさ・命の大切さなど、豊かな心を育てる教育の充実	2読む、書く、計算するなど基礎的な学力の向上	3基本的な生活習慣や社会のルールなどの教育の充実	4情報教育や国際理解などの時代に対応した教育の充実	5自ら考え、判断し、表現する力、強く生きる力などを育てる教育の充実	6体力づくりを重視した教育の充実	7教職員の資質向上	8学校施設・設備の充実	9いじめや不登校などへの取組の強化	10学校、家庭、地域などの連携の強化	11その他
同居の子どもの有無 n=1123												
合計		46.7	27.8	47.6	9.3	48.0	7.8	30.9	6.1	31.4	14.8	2.8
年齢	16-19歳(40)	20.0	32.5	45.0	30.0	52.5	17.5	22.5	7.5	42.5	20.0	0.0
	20-29歳(100)	35.0	26.0	61.0	9.0	56.0	10.0	23.0	6.0	37.0	25.0	4.0
	30-39歳(145)	37.9	29.7	44.8	13.1	57.2	11.0	26.9	13.1	32.4	15.9	5.5
	40-49歳(175)	45.1	37.7	42.9	12.0	48.6	7.4	37.7	6.9	28.6	11.4	4.0
	50-59歳(180)	48.3	26.1	52.2	7.8	47.2	6.7	34.4	7.2	28.9	18.9	2.8
	60-64歳(122)	54.9	15.6	59.0	9.0	54.9	5.7	36.1	4.1	31.1	10.7	1.6
	65-69歳(103)	60.2	33.0	50.5	6.8	42.7	8.7	32.0	2.9	30.1	15.5	1.9
	70-74歳(117)	60.7	29.9	43.6	6.8	48.7	6.8	35.0	2.6	35.0	14.5	0.9
	75-79歳(66)	60.6	25.8	53.0	6.1	43.9	13.6	28.8	7.6	39.4	12.1	0.0
80歳以上(83)	59.0	31.3	48.2	7.2	44.6	2.4	31.3	4.8	37.3	13.3	3.6	
同居の子どもの有無 (18歳以下)	有 (319)	43.3	32.0	42.9	11.3	55.2	7.5	33.2	11.9	31.7	13.8	3.8
	無 (804)	50.7	27.6	52.2	9.2	48.5	8.5	32.0	4.4	32.7	16.0	2.5

n=317		1 ふるさとを愛する心や思いやり・やさしさ・命の大切さなど、豊かな心を育てる教育の充実	2 読む、書く、計算するなど基礎的な学力の向上	3 基本的な生活習慣や社会のルールなどの教育の充実	4 情報教育や国際理解などの時代に対応した教育の充実	5 自ら考え、判断し、表現する力、強く生きる力などを育てる教育の充実	6 体力づくりを重視した教育の充実	7 教職員の資質向上	8 学校施設・設備の充実	9 いじめや不登校などへの取組の強化	10 学校、家庭、地域などの連携の強化	11 その他
同居の子どもの学年	就学前（0-5歳）の子ども（120）	35.0	35.8	40.8	13.3	63.3	9.2	32.5	11.7	31.7	10.8	3.3
	小学生の子ども（117）	44.4	33.3	33.3	12.8	55.6	9.4	35.9	14.5	35.0	14.5	1.7
	中学生の子ども（70）	40.0	34.3	41.4	10.0	52.9	8.6	32.9	18.6	30.0	14.3	1.4
	それ以外（高校生等）の子ども（101）	48.5	27.7	48.5	14.9	52.5	3.0	33.7	8.9	27.7	14.9	4.0

問36 あなたは、文化やスポーツ活動を通して心豊かに暮らしていくためには、どのようなことが大切だと思いますか。

文化やスポーツ活動を通して心豊かに暮らしていくためには、「気軽に参加できるイベントや教室などの充実」が最も多く(65.7%)、次いで「文化やスポーツに触れる(鑑賞する)機会の充実」(54.8%)、「コミュニティセンターや体育館などの文化・体育施設の整備・充実」(35.2%)となっている。



その他自由記入欄には25件の意見があった。

「県文、市民会館程度のホールを増やし一流のアーティストに触れやすいチャンスを作る」や「現在あるコミュニティセンター、体育施設の補修」等、施設を増設・補修に関するものが4件、「システム改善(手続きの簡略化など)」や「施設の使用を特定の団体に独占させない。」等、誰もが施設を利用しやすい仕組みづくりに関するものが3件、「図書館の本の種類を増やす。」や「障害がある人でも図書館を利用できるようにして欲しい。」等、図書館の充実やバリアフリー化に関するものが3件、各自自由に体験出来る場の充実が3件、地元でプロスポーツを設けイベント等で盛り上げるが2件などであった。

男女別にみると、「男性」「女性」とともに「2 気軽に参加できるイベントや教室などの充実」が最も多く、次いで「1 文化やスポーツに触れる（鑑賞する）機会の充実」、「5 コミュニティセンターや体育館などの文化・体育施設の整備・充実」となっている。

年齢別にみると、ほとんどの年齢層で「2 気軽に参加できるイベントや教室などの充実」が最も多く、次いで「1 文化やスポーツに触れる（鑑賞する）機会の充実」となっている。3 番目に多いのは65 歳未満の階層では「5 コミュニティセンターや体育館などの文化・体育施設の整備・充実」であり、65 歳以上では「7 地域における自主的なサークル活動などの機会や場の充実」となっている。

性別 n=1112 年齢 n=1138		1 文化やスポーツに触れる（鑑賞する）機会の充実	2 気軽に参加できるイベントや教室などの充実	3 日頃の活動を発表できる機会や場の充実	4 文化やスポーツの指導者の育成強化	5 コミュニティセンターや体育館などの文化・体育施設の整備・充実	6 文化やスポーツに関する情報提供の充実	7 地域における自主的なサークル活動などの機会や場の充実	8 その他
合計		54.8	65.7	13.0	16.4	35.2	19.8	26.8	2.2
性別	男性 (484)	60.5	66.3	12.4	18.2	36.0	21.1	27.7	2.5
	女性 (628)	53.7	70.1	14.5	15.8	37.6	20.2	27.4	2.2
年齢	16-19 歳 (40)	62.5	57.5	20.0	25.0	35.0	22.5	17.5	0.0
	20-29 歳 (100)	63.0	69.0	24.0	6.0	39.0	20.0	25.0	2.0
	30-39 歳 (144)	52.1	67.4	10.4	11.8	44.4	27.8	22.2	3.5
	40-49 歳 (176)	59.7	69.9	15.3	19.3	44.9	17.0	14.8	4.0
	50-59 歳 (184)	58.2	67.4	15.2	16.8	38.6	25.5	18.5	1.1
	60-64 歳 (125)	58.4	73.6	7.2	17.6	32.8	18.4	31.2	1.6
	65-69 歳 (102)	52.0	68.6	7.8	20.6	32.4	17.6	37.3	2.0
	70-74 歳 (113)	54.9	72.6	13.3	19.5	31.0	15.9	50.4	0.9
	75-79 歳 (72)	48.6	68.1	12.5	19.4	33.3	18.1	47.2	0.0
80 歳以上 (82)	57.3	57.3	12.2	22.0	20.7	15.9	31.7	6.1	

「問 21 芸術文化活動の実践や鑑賞の機会の有無」で「はい」と答えた方では「1 文化やスポーツに触れる（鑑賞する）機会の充実」が最も多く（64.4%）、次いで「2 気軽に参加できるイベントや教室などの充実」（64.2%）、「5 コミュニティセンターや体育館などの文化・体育施設の整備・充実」（36.1%）となっている。

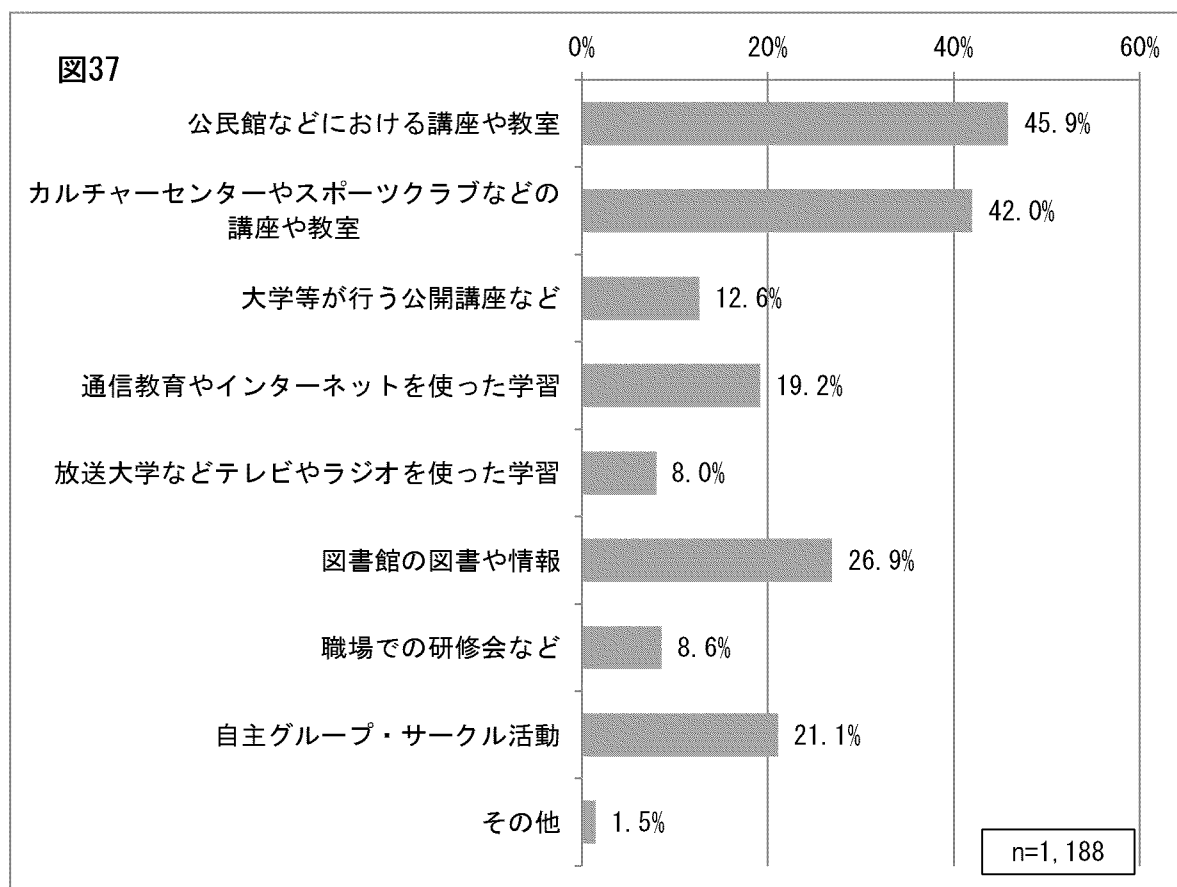
「いいえ」と答えた方では、「2 気軽に参加できるイベントや教室などの充実」が最も多く（70.2%）、次いで「1 文化やスポーツに触れる（鑑賞する）機会の充実」（53.1%）、「5 コミュニティセンターや体育館などの文化・体育施設の整備・充実」（36.8%）となっている。

文化やスポーツ活動へ実際に参加したり、鑑賞する機会の充実を望む市民が多いことがうかがえる。

n=1128		問 36 文化やスポーツ活動を通して心豊かに暮らしていくためには							
		1 文化やスポーツに触れる（鑑賞する）機会の充実	2 気軽に参加できるイベントや教室などの充実	3 日頃の活動を発表できる機会や場の充実	4 文化やスポーツの指導者の育成強化	5 コミュニティセンターや体育館などの文化・体育施設の整備・充実	6 文化やスポーツに関する情報提供の充実	7 地域における自主的なサークル活動などの機会や場の充実	8 その他
問 21 芸術文化活動や鑑賞機会の有無	はい(399)	64.4	64.2	12.5	18.8	36.1	19.3	27.1	3.0
	いいえ(729)	53.1	70.2	14.0	15.9	36.8	21.0	28.3	1.9
合計		57.1	68.1	13.5	16.9	36.5	20.4	27.8	2.3

問37 趣味や関心のあるテーマについて自主的に学習活動をしよとうするとき、どのような機会や方法を利用したいと思いますか。

自主的な活動するときにご利用したい機会や方法などについては、「1 公民館などにおける講座や教室」が最も多く(45.9%)、次いで「カルチャーセンターやスポーツクラブなどの講座や教室」(42.0%)、「図書館の図書や情報」(26.9%)となっている。



自由記入欄には15件の意見があった。

独学での学習に関するものが3件、「子どもが通う学校からの見学、講習」等小中学校に関するものが2件、「一流の講師を招き一流に触れてより長く続けられるようにする。」等講師を招いた研修や座談会等が2件などであった。

男女別にみると、「男性」は「2 カルチャーセンターやスポーツクラブなどの講座や教室」が最も多く(43.6%)、「女性」は「1 公民館などにおける講座や教室」が最も多くなっている(53.5%)。

年齢別にみると、10歳代では「6 図書館の図書や情報」が、20歳代から50歳代では「2 カルチャーセンターやスポーツクラブなどの講座や教室」が、60歳代以上では「1 公民館などにおける講座や教室」が最も多くなっている。

「4 通信教育やインターネットを使った学習」は、60歳未満の年齢階層では25%以上となっているが、60歳以上では10%台までにとどまっている。一方、「5 放送大学などテレビやラジオを使った学習」は、60歳未満では10%未満となっているが、60歳以上では「75-79歳」を除いて10%を超えている。

性別 n=1081 年齢 n=1105		1 公民館 などにお ける講座 や教室	2 カルチ ャーセン ターやス ポーツク ラブなど の講座や 教室	3 大学等 が行う公 開講座な ど	4 通信教 育やイン ターネッ トを使っ た学習	5 放送大 学などテ レビやラ ジオを使 った学習	6 図書館 の図書や 情報	7 職場で の研修会 など	8 自主グ ループ・サ ークル活 動	9 その他
合計		45.9	42.0	12.6	19.2	8.0	26.9	8.6	21.1	1.5
性別	男性(473)	43.3	43.6	15.4	23.9	10.1	30.2	8.5	22.6	1.5
	女性(608)	53.5	46.5	12.0	18.3	6.3	27.8	9.5	22.4	1.6
年齢	16-19 歳(40)	12.8	30.8	28.2	38.5	7.7	41.0	12.8	10.3	2.6
	20-29 歳(101)	25.0	44.0	11.0	29.0	6.0	31.0	22.0	31.0	0.0
	30-39 歳(146)	42.1	49.7	14.5	26.9	3.4	35.9	7.6	20.7	1.4
	40-49 歳(177)	43.5	47.1	12.9	26.5	7.6	24.1	10.0	15.9	1.8
	50-59 歳(182)	51.7	56.7	16.7	25.6	7.2	30.0	5.6	21.1	1.1
	60-64 歳(122)	56.8	44.9	16.9	14.4	11.0	30.5	5.1	21.2	1.7
	65-69 歳(103)	54.5	41.6	7.9	6.9	10.9	30.7	5.9	28.7	2.0
	70-74 歳(116)	67.0	36.7	4.6	11.0	13.8	16.5	7.3	25.7	1.8
	75-79 歳(68)	63.8	36.2	7.2	8.7	4.3	29.0	10.1	36.2	0.0
	80 歳以上(83)	59.5	32.4	18.9	16.2	16.2	25.7	12.2	16.2	4.1

「問 20 自主的な学習活動の実践の有無」にかかわらず、「1 公民館などにおける講座や教室」が最も多く、次いで「2 カルチャーセンターやスポーツクラブなどの講座や教室」、「6 図書館の図書や情報」となっており、大きな差異はみられない。

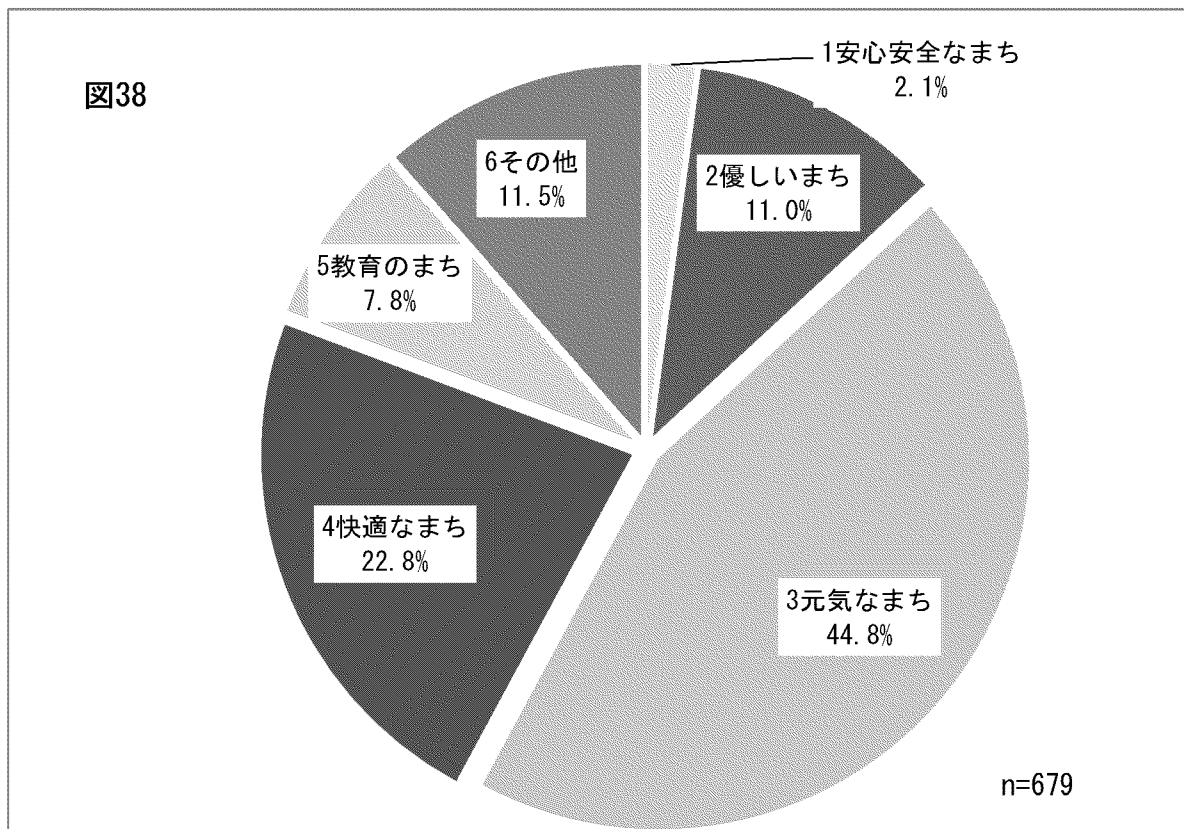
n=1097		問 37 趣味や関心のあるテーマについて自主的に学習活動しようとするとき、どのような機会や方法を利用したいか								
		1 公民館 などにお ける講座 や教室	2 カルチ ャーセン ターやス ポーツク ラブなど の講座や 教室	3 大学等 が行う公 開講座な ど	4 通信教 育やイン ターネッ トを使っ た学習	5 放送大 学などテ レビやラ ジオを使 った学習	6 図書館 の図書や 情報	7 職場で の研修会 など	8 自主グ ループ・サ ークル活 動	9 その他
問 20 自主 的な学習 活動の実 践の有無	はい(581)	50.1	45.3	15.5	19.6	7.4	29.8	7.2	26.7	2.2
	いいえ (516)	47.9	44.2	11.0	21.5	9.9	27.7	11.4	18.2	0.8
合計		49.0	44.8	13.4	20.5	8.6	28.8	9.2	22.7	1.5

問38 和歌山市の将来について、ご提案やご意見を自由にお書きください。

513人から679件の自由意見が寄せられたが、これらの意見を長期総合計画の5つの分野に分類すると、「元気なまち」に関するものが最も多く（44.8%）、次いで「快適なまち」（22.8%）、「優しいまち」（11.0%）、「教育のまち」（7.8%）となっている。

さらに、政策の分類ごとに見ると、「地域産業の振興」に関する意見が最も多く（18.6%）、次いで「観光の振興」（14.7%）、「中心市街地の活性化」（10.2%）となっており、産業・経済などの分野に関する市民の意見が多かった。

また、「道路網の整備」（8.2%）や「公共交通体系の充実」（6.6%）、「学校教育の充実」（6.0%）、「子育て支援の充実」（5.4%）が続いており、「都市インフラの充実」に関する意見や「教育・子育ての充実」に対する意見も多くなっている。



項 目		件 数
1. 安心・安全なまち		
①	総合防災対策の充実	12 (1.8%)
②	消防・緊急救助体制の充実	0
③	地域安全の推進	2 (0.3%)
④	消費生活の向上	0
合計		14 (2.1%)
2. 優しいまち		
①	地域福祉と健康づくりの推進	3 (0.4%)
②	高齢者・障害者支援の充実	27 (4.0%)
③	子育て支援の充実	37 (5.4%)
④	社会保障制度の充実	8 (1.2%)
⑤	人権尊重社会の実現	0
合計		75 (11.0%)
3. 元気なまち		
①	地域産業の振興	126 (18.6%)
②	中心市街地の活性化	69 (10.2%)
③	観光の振興	100 (14.7%)
④	国内外交流の推進	0
⑤	地域コミュニティの充実	9 (1.3%)
合計		304 (44.8%)
4. 快適なまち		
①	道路網の整備	56 (8.2%)
②	公共交通体系の充実	45 (6.6%)
③	住環境の整備	15 (2.2%)
④	自然環境・資源循環型社会の形成	19 (2.8%)
⑤	適正な土地利用の推進	2 (0.3%)
⑥	都市景観の形成	18 (2.7%)
合計		155 (22.8%)
5. 教育のまち		
①	学校教育の充実	41 (6.0%)
②	青少年の健全育成	0
③	生涯学習の推進	3 (0.4%)
④	文化・スポーツの振興	9 (1.3%)
合計		53 (7.8%)
6. その他		78 (11.5%)
回答総数 (n=513)		679 (100%)

【自由意見のうち主なもの】

1. 安心・安全なまち(14件)

①総合防災対策の充実(12件)

- ・保健センターとスポーツ教室、公民館を兼ねたような施設で、いざという時には災害避難所として使えるような堅牢な建物があちこちにあって欲しい。
- ・高台避難先をスムーズにするため高台までの誘導灯の設置。
- ・南海地震など大地震の時にどこに避難すればよいのかや津波が来た時の防災等について、より詳しい情報を市民に知らせてほしい。

②消防・緊急救助体制の充実(0件)

③地域安全の推進(2件)

- ・防犯灯や街灯のない暗い道が多い。ひとり歩きは危険。

④消費生活の向上(0件)

2. 優しいまち(75件)

①地域福祉と健康づくりの推進(3件)

- ・高齢者や子供が楽しく遊べる場所が必要である。
- ・行政の無駄を省き、福祉にもっと力を入れ、これから先高齢者が住み良い環境を整えてほしい。

②高齢者・障害者支援の充実(27件)

- ・老人、子供に優しい地域に望みをかけます。買い物の配達はとても助かります。多くのお店がしてくださいればとても嬉しいです。
- ・バスの100円はとても楽しみにしています。バス停とバス停の間で時と場合において手を上げたらずまってほしい。
- ・障害者に対しての福祉の充実。例えばバスの割引券や浴場の券などを、重度障害者もつかえるものに。
- ・若者が楽しめ高齢の方が住みやすい和歌山市、住民が和歌山市を本当に良い場所だと思えるそんな市になれるようにみんなでできたらと思います。

③子育て支援の充実(37件)

- ・安心して子育てができるような環境を作ってもらいたい。放課後学童クラブの充実を希望する。
- ・少子化をとめるため働きながら、安心して子どもを育てていける環境づくりをまず第一に考えるべき。
- ・女性が仕事と子育ての両立が出来るように、託児所や保育園の充実が不可欠で、女性が積極的に働きに出れば、生活にも金銭的に余裕が生まれ消費が増え、和歌山の経済がうるおうと思う。
- ・子どもを育てやすく、小さな子どもを持つ親が働きやすい和歌山市にして下さい。
- ・子育てのしやすい環境にしてほしい。病気の時の子どもを預かってくれる。(料金が低く)産休や育休をとりやすい。男性も育児に参加できる環境。保育料が高い。
- ・少子化対策。働くより子どもと接する時間を増やしたい女性もいる。最近の政策を見ていると、「働かない」という選択がなくなるように見える(できない)

④社会保障制度の充実(8件)

- ・これから先年金も少なくなるばかりだし、入院すれば随分お金もかかるし老後が心配。

⑤人権尊重社会の実現(0件)

3. 元気なまち(304件)

①地域産業の振興(126件)

- ・企業誘致などに尽力して頂いて若い人の流出を防がないと未来はないと思います。いくら故郷を愛していても働く場所や子供を通わせる学校が充実していないと住めませんから。
- ・企業の誘致が一番大事。バス路線(地域密着の高齢者が外出しやすいように)
- ・もっと雇用を多くして欲しい。そのために企業誘致などを進めてほしい。
- ・和歌山で生まれ生活して大好きです。だから年々寂れていく和歌山がとってもさみしい。若い人が輝いて生活出来る和歌山になってほしい。その為にもまず安心して働ける企業がもっと来てほしい。経済の安定が生活の安定で、心も生活が安定してこそそのものと思います。
- ・企業の誘致を積極的に実施して高齢者にも働ける場所を与えてほしい。
- ・安全な食料を作るために。農業をもっと続けやすいようにしてほしいです。
- ・若い方たちの働ける場所がどんどんなくなってきています。他府県の大学等に進学しても和歌山に戻ってきたくなくなるような街であって欲しい
- ・企業誘致を促進して若者が県外に行かなくても働ける場所を提供してほしい。若者だけでなく老人も集れる場所づくりが必要

②中心市街地の活性化(69件)

- ・市中心部に魅力がないし、行かなくても暮らせる。行ってみたいと思わせるような場所づくりが必要だと思う。バス代が電車賃より高いので出かける機会が減る。
- ・国体を機会に十分競技場や施設を利用して和歌山に人々が集まるようにしてください。和歌山は良い所です。働ける場所が出来れば若者が帰って来ます。
- ・和歌山城公園の駐車場を広くしてほしいです。また、和歌山城公園内にお茶等を飲み一休みできるようなお店が欲しいです。
- ・和歌山城を整備し若者から老人まで全ての人が集える場を目指す。
- ・幹線道路の再整備。企業、ショッピングモールや娯楽施設、個人店舗を誘致できる又はしたくなるような整備をしてほしい。

③観光の復興(100件)

- ・文化財の多い割に観光客が少ないのは不思議です。和歌浦方面をもっと魅力あるゾーンにする。
- ・和歌山城に行った人がお茶を飲んだり、軽食をとったりするところがない、記念品を買うおみやげ屋さんも満足なところがない。もっとオシャレで時代に合った店が必要。
- ・和歌山市にしかない魅力的なものを発案して他府県から一回和歌山に行ってみようと思えるものを発信して下さい。若い方々に期待しています。
- ・和歌山の良い点を外に向けてもっとアピールすべき。商売や旅館等のサービス精神が不足。色々な点(悪い点)について発想の転換が必要。
- ・和歌山市といえばこれだと言われるような文化やスポーツ、食品の目玉的なものが少ない。

-
- ・観光名所やイベント会場に行くまでの道路、川、空家等にゴミがないようにする。

④国内外交流の推進(0件)

⑤地域コミュニティの充実(9件)

- ・個人的にはいまのところ何も困っていません。これから年を重ねて行くにつれ人と人とのかかわりが無くなっていきそうで引きこもりの老人にならないかと…そうならないように今のうちにサークルなど積極的に参加するように心掛けます。
- ・自治会団体内でセンターとなる人をつくり、常に情報ネットを張れる様な組織を作ってほしい。
- ・中途半端な都会を目指すより地域の住民一人ひとりの名前が分かる真面目な昭和の時代を復活させてほしい。
- ・将来を担う若い世代の地域活動への参加の機会を増やす仕組みづくりとその活動拠点の整備が必要。

4. 快適なまち(155件)

①道路網の整備(56件)

- ・道路が狭く、ガタガタな所がかなり多い。
- ・通勤時の交通停滞があちらこちらで行っている。交差点右(左)折レーンをもっと各交差点に増やしたらどうでしょうか？
- ・バス路線を増やす。
- ・とにかく道路が狭いことに尽きると思います。
- ・安心して歩ける町にしてください。車が優先で歩道が狭いしガタガタ。特に車いすでの外出はできません。
- ・歩車分離の交差点に改善して交通事故を減らす。
- ・道路の整備(歩道・自転車道・車道)・街灯の充実・高齢者の自転車・バイク・車の運転の講習の強化。
- ・歩道が狭くベビーカーで外出しづらい道路が多い。

②公共交通体系の充実(45件)

- ・公共交通が不便である。県外から来る人に聞いても、とにかく便数が少なくて困るとのこと。ぶらくり丁の商店街を活性化。
- ・和歌山城周辺で行われるイベント、お祭りの時、駐車場が限られている。(最寄り駅は遠いし、子どもを連れて歩くのはきびしい)巡回バスなど、何か交通手段を増やしてほしい。
- ・私は自動車を持っていないので市内の移動はほとんどがバスです。バスの料金がなくて、しかも本数が少ないです。もっと公共交通機関を充実させてほしいです。
- ・電車、バスの本数が少ない。
- ・市内在住の視点から言うと、まず「バス代が高い」「駐車場が止めにくい」という点が気になります。これら2点から「行くのがめんどろ」となってしまいます。
- ・コミュニティーセンターに行きたいと思っても交通ルートは少なく参加できません。各地域に歩行や自転車でも参加できる場所が欲しいです。
- ・とにかく交通機関を充実させないとどこにも行けません。和歌山市からJR和歌山駅が一本しかない。不便です。図書館も置いてある本の種類が少ない。ライトノベル、マンガは殆どない。英米文学を

原本で読みたくても置いていない。様々な種類の本を置くべき。

- ・交通の便が悪く車がないと生活できない。交通機関を充実させてほしいとおもいます。

③住環境の整備(15件)

- ・市内全域でくみとりトイレをなくしてほしい。
- ・小さい子どもが安心して遊べる公園があちこちにあつたらいいと思う。
- ・都市ガス、下水道の普及促進と費用の促進と費用の負担をお願いしたい。

④自然環境・資源循環型社会の形成(19件)

- ・日照時間が長く風も強い特色を利用して自然エネルギーの活用をもっと真剣に考えてほしい。
- ・自然を生かした緑あふれる市にする。

⑤適正な土地利用の推進(2件)

⑥都市景観の形成(18件)

- ・市内の街の美化にはいつでも参加したいし、町内会で呼びかければ出てくれる人は多いと思う。
- ・コンセプトを決めて景観を統一していくべきだと思います。まずは下品、華美、派手な看板の制限とか。空家の条例は素晴らしいと思います。
- ・片男波、大浦街道、和工、星林付近、関戸、高松、メッサ、堀止あたりが大好きです。緑を多くして欲しい。街の色がグレーは嫌。

5. 教育のまち(53件)

①学校教育の充実(41件)

- ・他県に比べ、小中学校の学力が低いと思われれます。優秀な人材を育てるためにも、まずは子供の学力を上げていかねばならないと思います。
- ・和歌山には総合大学が必要。理学、農学、文学、工学。自然が豊かな故郷は心の豊かな人間を育てます。
- ・若い人を増やすために大学や施設を豊富にしたほうが和歌山の活性化につながると思います。
- ・市長さんはじめ市の職員さん方は一生懸命取り組んでくださっていてありがとうございます。私も地区でお役をさせていただいておりますが、若い人々の考えの甘さ、人に世話になっても当然というような人が多すぎます。学校教育の大切さを実感します。
- ・子どもが県外に出て進学・就職することが多いので、もっと県内にある大学の施設充実や企業の情報を広めるとか、何か工夫をしないとだめだと思います。

②青少年の健全育成(0件)

③生涯学習の推進(3件)

- ・公民館など教室は、初めての人はなかなか入れません。

④文化・スポーツの振興(9件)

- ・文化、スポーツ活動など市民グループが行っている取組に対しての市の支援の充実（財政補助、無償の活動場所の提供等）を図って頂きたい。

-
- ・快適にスポーツが出来る場所や老人たちが快適に暮らせる場所やくつろげる場所をもっと増やせばいいと思う。

6. その他(78件)

- ・箱物みたいな物を作らない。
- ・近畿のおまけと言われていましたが、最近では和歌山ラーメン、熊野古道、梅、マリーナ等名物、名所が全国的に知られ、白浜のアドベンチャーのパンダは他府県から訪れる方も多くうれしいです。”たまちゃん”がフィーバーし、私鉄沿線の全国で第三位になったのを3年前にテレビで見ました。京都へ行ったときに、和歌山からと言うと、「たまちゃん、可愛いですよ」と貴志川まで会いに行ってくれたそうです。もう近畿のおまけではないです。
- ・財政等厳しいと思いますが、過疎地にしないため職員個々の対応力、自分で考え行動できる人を増やしていただきたい。一般企業で働く者から見ると温室で育つ体制では困ります。市民の税金で成り立っていること肝に銘じていただきたいです。
- ・若い世代の人たちが将来この美しい和歌山に住んでいてよかったと思えるような和歌山市になるようみんながいろんな面で努力していかなくてはならないと思います。
- ・和歌山の心は宝。和は絆、歌は豊かさ、山は気高さ、海は奥深さ、空は素直さ、そして太陽は希望。すばらしい和歌山の心と特色を日本中の食を持ってくる。
- ・和歌山で4年に一回ぐらい映画を作ろう。脚本や歌は募集、配役も日本中からオーディションで。資金は「株」の形等で、個人団体などの官民で協力。大胆な優遇で人、企業を集めよう。

参 考 资 料

和歌山市市民意識調査ご協力をお願い

平素は、何かと市政の推進にご協力いただきありがとうございます。

和歌山市では、平成21年度から25年度までを計画期間とする「第4次和歌山市長期総合計画前期基本計画」を策定し、より良いまちづくりに取り組んでいるところですが、現在これにつづく平成26年度からの4年間の新たな「後期基本計画」策定のための準備を進めています。

このアンケート調査は、市民の皆様が地域活動や生活環境、市政などについて日頃から感じておられることやご要望などをお聞きし、今後の市政や「後期基本計画」に反映することを目的に実施するものです。

十分なアンケート結果を得るため、できるだけ多くの方のご意見をいただきたいと考えております。ご多忙のこととは存じますが、調査の趣旨をご理解いただき、ご回答に協力いただきますようお願い申し上げます。

平成24年12月

和歌山市長 大橋 建一

◆アンケートについて

本調査は、無作為抽出させていただいた市内在住の16歳以上の方3,000人を対象に無記名回答方式で行います。

集計結果は公表する予定ですが、すべて統計的に処理しますので、個人に関する情報が公表されることは一切ありません。

◆ご記入に際してのお願い

- ・ご回答は必ず宛名のご本人がご記入ください。(ご自分でご記入するのが難しい場合は、周辺の方に書き取っていただいてもけっこうです。)
- ・ご回答はボールペンや鉛筆などで、設問に従い調査用紙に直接ご記入ください。
- ・設問によって、○印をつける数が異なる場合がありますのでご注意ください。
- ・「その他」を選んだ場合は、具体的な内容をご記入ください。
- ・この調査票は、同封いたしました返信用の封筒に入れ、平成25年1月15日(火)までに、ご投函ください。
- ・ご不明な点がございましたら、下記までご連絡ください。

が^{がい}い^{こく}く^{しゅ}しゅ^っしん ^かか^た ^にほ^んご ^とく^い ^かか^た ^ししゅう^{へん} ^かか^た ^そう^だん ^ききにゅう ^ききにゅう

・外国出身の方など日本語が得意でない方は、周辺の方にご相談のうえご記入いた

く^かか、^かか^き、^{れん}れん^{らく}ら^くくまでご連絡ください。

<連絡先>

わ^わか^やまし ^そう^むこう^{しつ} ^{せい}さい^くすい^{しん}ぶ ^きか^くか
和歌山市 総務公室 政策推進部 企画課

☎ 073-435-1015

FAX 073-435-1254

問7 あなたのお住まいの地区はどこですか。（あてはまる地区の番号に○をつけてください。）

01	本町	02	城北	03	広瀬	04	雄湊	05	大新	06	新南	07	吹上
08	砂山	09	高松	10	雑賀	11	宮	12	宮北	13	四箇郷	14	中之島
15	芦原	16	雑賀崎	17	和歌浦	18	宮前	19	湊	20	野崎	21	三田
22	名草	23	松江	24	木本	25	貴志	26	楠見	27	西和佐	28	岡崎
29	西脇	30	安原	31	和佐	32	東山東	33	西山東	34	有功	35	直川
36	川永	37	小倉	38	加太	39	紀伊	40	山口	41	今福	42	田野

【あなたご自身の状況やお考えについておたずねします。】

問8 家族と対応を話し合うなど、災害に対する備えを行っていますか。

- 1 はい 2 いいえ

問9 火災警報器や消火器を備えるなど、日頃から防火を意識していますか。

- 1 はい 2 いいえ

問10 あなたご自身または同居の家族の方が、この1年間に消費者トラブルに巻き込まれたことはありますか。

- 1 はい 2 いいえ

問11 身近に相談したり、助けてもらえる人がいますか。

- 1 はい 2 いいえ

問12 日頃市民公益活動（ボランティア活動やNPO活動など、市民が自発的に行う公益的で非営利の活動）に参加していますか。

- 1 はい 2 いいえ

問13 ご自分で健康づくりに取り組んでいますか。

- 1 はい 2 いいえ

問14 高齢者が住み慣れた地域で充実した生活を送れていると思いますか。

- 1 はい 2 いいえ

問15 あなたの身の回りで人権が守られていると思いますか。

- 1 はい 2 いいえ

問16 あなたの身の回りで男女の地位が平等になっていると思いますか。

- 1 はい 2 いいえ

問 24 あなたは、犯罪や交通事故の被害にあわずに地域で安心して暮らすためには、どのようなことが大切だと思いますか。（○は3つまで）

- 1 家庭での防犯措置の強化など防犯意識の向上
- 2 地域住民による自主防犯活動の充実
- 3 防犯灯の設置など犯罪のおこりにくい環境整備
- 4 行政等による防犯情報の提供
- 5 悪質商法などの相談体制の充実
- 6 交通ルールへの順守など交通安全意識の向上
- 7 ガードレールやカーブミラーなどの交通安全施設の整備
- 8 その他（ ）

【個人を尊重し、人びとがともに助け合うやさしいまちづくりについておたずねします。】

問 25 あなたは、生涯を通じて健康に暮らすためには、どのようなことが大切だと思いますか。（○は3つまで）

- 1 生活習慣の改善など市民一人ひとりの自主的な健康づくり活動
- 2 公園やジョギングロードなどの健康づくりができる施設の充実
- 3 仲間と健康づくりに取り組める機会の充実
- 4 健康づくりの情報提供や学習・相談機会の充実
- 5 保健所や保健センターなどの保健サービス拠点施設の整備
- 6 健康診断や各種検診の定期的な受診と内容の充実
- 7 安心して利用できる救急・医療環境
- 8 食品や医薬品の安全性の確保
- 9 新型インフルエンザなどの感染症等の発生予防とまん延防止
- 10 その他（ ）

問 26 あなたは、高齢者や障害者が住みなれた地域で充実した生活を送るためには、どのようなことが大切だと思いますか。（○は3つまで）

- 1 地域住民が世代を超えて交流できる機会や場の充実
 - 2 趣味やボランティア活動などの生きがいづくり
 - 3 働く場の確保
 - 4 地域住民による高齢者や障害者の見守りや支え合い活動の充実
 - 5 自宅で受けられる介護や福祉サービスの充実
 - 6 通所や入所できる福祉施設の充実
 - 7 年金制度や高齢者医療制度などの社会保障の充実
 - 8 バリアフリー化など高齢者や障害者に配慮した施設の整備
 - 9 高齢者や障害者を思いやり、支え合う心の形成
 - 10 その他（ ）
-

問 27 あなたは、子育て世代が安心して子育てするためには、どのようなことが大切だと思いますか。

(○は3つまで)

- 1 仕事と子育てを両立できる職場づくり
- 2 出産や育児に伴う経済的負担の軽減
- 3 家庭の事情にあった様々な保育サービスの提供
- 4 出産・育児・教育など子育てに関する情報提供や相談窓口の充実
- 5 男女が共に子育てをする社会意識の醸成
- 6 子育て世代が交流できる場や機会の充実
- 7 子どもが安全に遊べる公園などの居場所づくり
- 8 地域住民による子育て家庭の支援や子どもの健全育成のための取組の充実
- 9 子どもの安全や人権を守る取組の充実
- 10 その他 ()

【市民と地域がつくる元気なまちづくりについておたずねします。】

問 28 あなたは、和歌山市の産業が活性化するためには、どのようなことが大切だと思いますか。(○は3つまで)

- 1 新規起業や事業拡大を促進する仕組みづくり
- 2 市外からの企業誘致
- 3 成長分野への重点的な投資
- 4 企業の経営基盤強化や国内外への販路拡大
- 5 異業種との交流や企業・大学・行政の連携の強化
- 6 地域資源(自然、歴史、食材等)を活用した商品開発や観光振興
- 7 企業用地、水道、道路などの産業が発展するための都市基盤の整備
- 8 魅力ある商店街づくり
- 9 生産性の高い農林水産業の育成
- 10 雇用の安定や労働環境の向上
- 11 その他 ()

問 29 あなたは、和歌山市の中心市街地(JR和歌山駅・和歌山城・南海和歌山市駅にかけてのエリア)をもっと魅力的な空間にするためには、どのようなことが大切だと思いますか。(○は3つまで)

- 1 個性的で魅力のある小規模店舗の集積
 - 2 ショッピングセンターや百貨店などの大規模店舗の進出
 - 3 快適な都市居住を実現できる住宅機能の充実
 - 4 医療・健康・福祉のための諸機能の充実
 - 5 社会教育や高等教育等を提供できる教育施設の整備
 - 6 美術館や音楽ホールなどの文化施設の整備
 - 7 人びとが集い、憩えるイベント広場や公園などの整備
 - 8 公共交通による交通アクセスの利便性向上
 - 9 地域住民、商店街、企業、行政の連携による取組
 - 10 中心市街地への居住誘導や空き地・空き家の利用促進への取組
 - 11 魅力的なイベントの開催
 - 12 景観や遊歩道などの歩く楽しさを高める仕掛け
 - 13 その他 ()
-

問 30 あなたは、多くの人に和歌山市を訪れてもらうためには、どのようなことが大切だと思いますか。（○は3つまで）

- 1 自然や歴史的資源の活用
- 2 文化やスポーツを楽しむ体験型観光の充実
- 3 食などの地域ブランドづくり
- 4 観光資源の掘り起こしや創出
- 5 観光イベントの開催や誘致
- 6 おもてなしの心の醸成
- 7 国内外への市の魅力発信
- 8 企業、関係団体、大学、行政などの連携による取組
- 9 その他（）

問 31 あなたは、市民の主体的なまちづくりやコミュニティ活動などを充実させるためには、どのようなことが大切だと思いますか。（○は3つまで）

- 1 地域での日頃の近所づきあい
- 2 主体的にまちづくりや地域の課題を解決しようとする意識の醸成
- 3 まちづくりや地域活動のリーダーの育成
- 4 活動参加の機会やきっかけづくり
- 5 活動拠点の整備
- 6 市民団体などに関する情報の提供
- 7 市民団体同士の交流やネットワーク
- 8 市民団体の組織体制やマネジメント力の強化
- 9 市民と行政の意見交換の場づくりや行政職員の地域活動への参加促進
- 10 その他（）

【自然環境と都市構造が調和した快適なまちづくりについておたずねします。】

問 32 あなたは、より快適な交通体系を構築するためには、どのようなことが大切だと思いますか。（○は3つまで）

- 1 骨格となる幹線道路の整備（県道・都市計画道路等）
 - 2 生活道路の整備（和歌山市道等）
 - 3 都市間を結ぶ幹線道路の整備（国道・高速道路等）
 - 4 道路の適切な維持補修やバリアフリー化
 - 5 歩道や自転車専用レーンなどの整備
 - 6 バスや電車などの公共交通の充実
 - 7 自動車交通量の抑制
 - 8 道路の美化
 - 9 駐車場の整備
 - 10 その他（）
-

問 33 あなたは、より利用しやすい鉄道やバスなどの公共交通体系を構築するためには、どのようなことが大切だと思いますか。（○は3つまで）

- 1 鉄道・バスの路線や駅・バス停などの増設
- 2 運賃の引き下げ
- 3 運行本数や運行時間（始発・終発時間）の拡大
- 4 乗換えや乗継ぎの改善
- 5 バス専用レーン、バス優先レーン等の整備
- 6 駅周辺の駐車場や駐輪場の整備
- 7 駅やバス停のバリアフリー化
- 8 公共交通情報の提供方法の改善
- 9 その他（ ）

問 34 あなたは、様々な環境問題に対応していくためには、どのようなことが大切だと思いますか。（○は3つまで）

- 1 海や川、森林の自然環境や生態系の保全
- 2 太陽光や風力などの自然エネルギーの利用促進
- 3 省エネルギー対策の促進
- 4 自転車や公共交通機関などの利用促進
- 5 大気汚染や水質汚濁などの監視・指導体制の強化
- 6 リサイクルの推進などのごみの減量化
- 7 再生品やエコマーク商品の購入促進
- 8 環境教育・環境学習の充実
- 9 市民などによる自主的な環境保全活動の促進
- 10 その他（ ）

【子どもが輝き、文化が薫る教育のまちづくりについておたずねします。】

問 35 あなたは、学校教育を更に充実させるためには、どのようなことが大切だと思いますか。（○は3つまで）

- 1 ふるさとを愛する心や思いやり・やさしさ・命の大切さなど、豊かな心を育てる教育の充実
- 2 読む、書く、計算するなど基礎的な学力の向上
- 3 基本的な生活習慣や社会のルールなどの教育の充実
- 4 情報教育や国際理解などの時代に対応した教育の充実
- 5 自ら考え、判断し、表現する力、強く生きるなどを育てる教育の充実
- 6 体力づくりを重視した教育の充実
- 7 教職員の資質向上
- 8 学校施設・設備の充実
- 9 いじめや不登校などへの取組の強化
- 10 学校、家庭、地域などの連携の強化
- 11 その他（ ）

問 36 あなたは、文化やスポーツ活動を通して心豊かに暮らしていくためには、どのようなことが大切だと思いますか。（〇は3つまで）

- 1 文化やスポーツに触れる（鑑賞する）機会の充実
- 2 気軽に参加できるイベントや教室などの充実
- 3 日頃の活動を発表できる機会や場の充実
- 4 文化やスポーツの指導者の育成強化
- 5 コミュニティセンターや体育館などの文化・体育施設の整備・充実
- 6 文化やスポーツに関する情報提供の充実
- 7 地域における自主的なサークル活動などの機会や場の充実
- 8 その他（)

問 37 趣味や関心のあるテーマについて自主的に学習活動をしようとするとき、どのような機会や方法を利用したいと思いますか。

- 1 公民館などにおける講座や教室
- 2 カルチャーセンターやスポーツクラブなどの講座や教室
- 3 大学等が行う公開講座など
- 4 通信教育やインターネットを使った学習
- 5 放送大学などテレビやラジオを使った学習
- 6 図書館の図書や情報
- 7 職場での研修会など
- 8 自主グループ・サークル活動
- 9 その他（)

問 38 和歌山市の将来について、ご提案やご意見を自由にお書きください。


~~~~ 長時間ご協力いただきありがとうございます。~~~~

この調査用紙を同封の返信用封筒に入れて（切手を貼らずに）平成 25 年 1 月 15 日（火）までにご投函くださいますよう、お願いいたします。

---

---

---

平成24年度 和歌山市市民意識調査結果報告書

平成25年5月

発行 和歌山市

編集 和歌山市総務公室政策推進部企画課

〒640-8511 和歌山市七番丁23番地

TEL 073-435-1015

FAX 073-435-1254